年報２０１７の発行にあたって

博物館法第二条において、「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。と定められています。

当館は、自然の成り立ちや仕組み、自然界の構造、生命の進化について、展示や観察会等の教育普及活動、調査･研究を行っています。そして、「人々が集い、学び、人間と自然が共存できる調和した未来を追求し、心豊かな暮らしを人々が協働で創造していく」「人々の、人々による、人々のための開かれた博物館」を目標に、自然史博物館の理念（ビジョン）を「生きた自然史を探究・継承し、守り、伝え、人を育てる」としました。

平成２９年度は、４つの企画展と１つの特別展を開催しました。前年度３月１８日から５月１４日まで開催した第５３回企画展「尾瀬を科学する」では一般に知られることはほとんどなかった第三次尾瀬総合学術調査以降の研究成果とそのフィールドを紹介しました。

平成２９年７月１５日から９月３日まで開催した、第５４回企画展「アマゾンはいま」では、熱帯雨林の生物にとどまらず、民族さらに行政的な保全活動を紹介し、多くの県民が生物の多様性・環境保全についての関心をもってもらえるよう展示を行いました。

平成２９年１０月７日から１２月３日までは、第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにもすばらしい５つの理由」を開催しました。ぐんまの美しい景観を造る要因を「つく」・「もる」・「けずる」・「たまる」・「いろどる」の５つに区分して、それぞれ付加作用、火山活動・断層活動、風化・浸食作用、堆積作用、光や色の効果に関する地球科学的作用の理解を促すことを目的としました。

平成３０年１月１３日から２月１８日にかけて特別展「ぐんまの自然のいま」を開催し、これまで県内で自然保護などの活動に携わってきた団体等の成果を広く紹介しました。

平成３０年３月１７日から開催した第５６回企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅（～５月１３日）」では、利根川と利根川流域に生きる生物とその現状を知ってもらうこと、山、森、里、川、海などの自然や環境を大切にしようとする心を県民に広く育むこと、そして、利根川の過去と現状を知ることで、河川災害や火山災害などに対して私たちが知っておくべき基礎的な情報を紹介しました。

調査研究分野では、平成２６年度から２８年度まで実施した「奥多野及び周辺地域学術調査」の調査報告書を作成しました。平成２９年度から、学術調査地域をみなかみ町及び周辺地域に設定し、５年間をかけて学術調査を実施することになりました。また、論文１２編からなる群馬県立自然史博物館研究報告第２２号を発行しました。

教育普及事業では、毎週土曜日に開催する「サイエンス・サタデー」をはじめ、ファミリー自然観察会、講演会、各種ツアー、ビデオ上映会などの他、次世代の育成として、小中学生を対象にした「ミュージアムスクール」や高校生を対象とした「高校生学芸員」等を実施しています。さらに学校団体向けに展示解説員による定時解説や随時解説の実施、並びに館内授業や出前授業等を通じて平成２９年度は延べ５９，８２６名が参加しました。

博物館活動の評価では、平成２９年９月に自己評価結果を公開後、１２月までに博物館専門委員３名による外部評価を公表しました。

博物館の活動では７９名の博物館ボランティアをはじめ、県内外の研究者、自治体関係者など、多数の皆様の御協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申しあげます。

この度、平成２９年度の事業概要を年報としてまとめました。皆様の御高覧を賜りますとともに、引き続き御指導、御協力をお願いいたしまして、御挨拶とさせていただきます。

平成３０年１０月

群馬県立自然史博物館
名誉館長　長谷川　善和

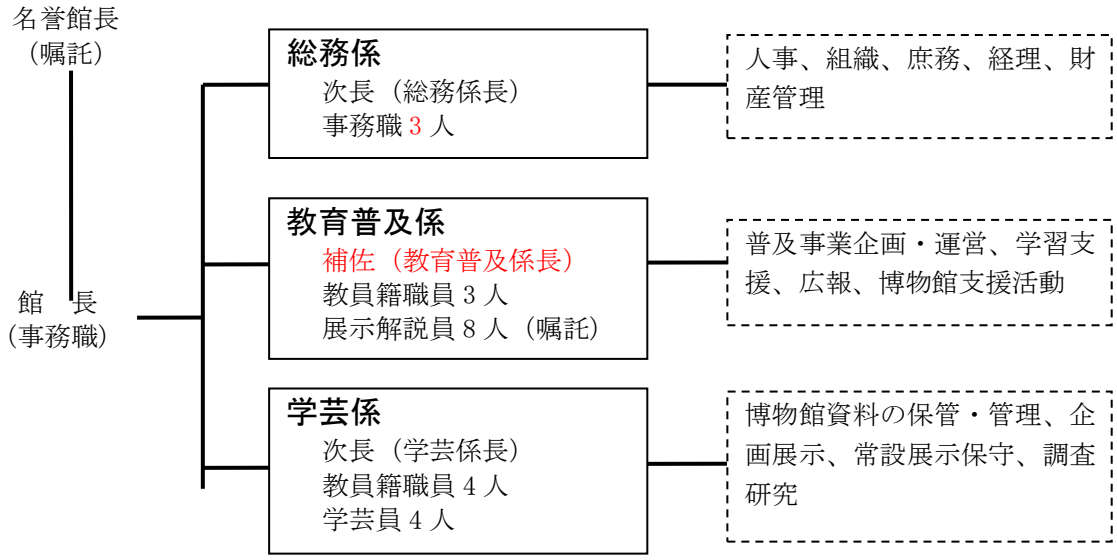
Ⅰ　管理

1　沿革

群馬県立自然史博物館の沿革は次のとおり。

昭和 32 年 3 月 12 日	「群馬県立博物館」として開館(群馬県富岡市一ノ宮 1353)
昭和 54 年 10 月 17 日	「群馬県立博物館」を廃止、「群馬県立歴史博物館」開館
昭和 57 年 7 月 16 日	「旧県立博物館」を改修し、「群馬県立自然科学資料館」として開館
昭和 63 年 12 月 1 日	「自然科学資料館整備拡充調査構想委員会」を設置（学識経験者 10 名、行政職 6 名）
平成元年 4 月 1 日	群馬県教育委員会社会教育課学習文化室に専任職員 1 名配置
平成 4 年 2 月 3 日	建築プロポーザルにて内井昭蔵建築設計事務所に建設基本設計を委託
平成 4 年 3 月 31 日	建築基本設計終了
平成 5 年 1 月 28 日	(株)丹青社と展示実施設計委託契約を締結 (財)日本科学技術振興財団と展示実施設計の監修業務の委託契約を締結
平成 5 年 4 月 1 日	建設準備室を設置
平成 5 年 7 月 31 日	建設実施設計終了
平成 5 年 8 月 31 日	展示実施設計終了
平成 6 年 6 月 30 日	建築工事等着工
平成 7 年 4 月 1 日	長谷川善和氏（理学博士・横浜国立大学名誉教授）が参与に就任
平成 8 年 3 月 15 日	建築工事等竣工
平成 8 年 3 月 27 日	「群馬県立自然史博物館の設置及び管理に関する条例」を公布
平成 8 年 3 月 31 日	「群馬県立自然科学資料館」を廃止し、資料は自然史博物館に引き継ぐ 併せて群馬県立歴史博物館所蔵の自然資料のほとんどを移管
平成 8 年 4 月 1 日	「群馬県立自然史博物館」発足（事務局：前橋市大友町庁舎３階） 職員 18 名（副館長、次長、総務課 3 名、教育普及課 3 名、学芸課 7 名） 非常勤嘱託 5 名 長谷川善和氏（理学博士・横浜国立大学名誉教授）が初代館長に就任
平成 8 年 5 月 16 日	付帯ホール（愛称「かぶら文化ホール」）の管理運営にあたる財団法人かぶら文化ホールが設立許可
平成 8 年 5 月 27 日	事務局を前橋市大友町庁舎から富岡市上黒岩「自然史博物館」に移転
平成 8 年 5 月 31 日	財団法人かぶら文化ホールにホールの管理運営等を委託
平成 8 年 9 月 14 日	展示工事竣工（(株)丹青社）
平成 8 年 10 月 21 日	開館記念式典
平成 8 年 10 月 22 日	「群馬県立自然史博物館」開館（一般公開） 第１回開館記念展「アルゼンチンの恐竜たち」開催
平成 14 年 1 月	開館５周年記念企画「ミュージアム・ポスター展」開催(1月4日～2月17日) 開館５周年記念講演会「ヒトと森と－森がヒトをはぐくむ」開催（26 日）
平成 14 年 6 月 9 日	入館者 100 万人達成
平成 18 年 7 月 15 日	開館 10 周年記念展「コアラ大陸オーストラリア　～ふしぎな動物たちの世界～」開催
平成 19 年 1 月 4 日	開館 10 周年記念企画「自然史博物館のあゆみ展」開催
平成 20 年 8 月 8 日	入館者 200 万人達成
平成 22 年 2 月	正面玄関プロムナード路面改修
平成 22 年 3 月	尾瀬シアター、トリケラトプス復元映像、機器及び映像更新
平成 23 年 7 月	開館 15 周年記念展「よみがえる！謎の巨大恐竜スピノサウルス」開催（7 月 16 日～11 月 20 日）
平成 23 年 9 月 17 日	入館者 250 万人達成
平成 24 年 10 月 16 日	平成 23 年度博物館活動の評価(内部評価)結果公表
平成 25 年 11 月 8 日	平成 24 年度博物館活動の評価(内部評価)に対する外部委員意見公表
平成 26 年 3 月 26 日	自然史博物館ＥＳＣＯ改修工事竣工
平成 26 年 4 月 1 日	自然史博物館ＥＳＣＯサービス開始
平成 26 年 8 月 17 日	入館者 300 万人達成
平成 28 年 7 月 16 日	開館 20 周年記念展「超肉食恐竜 *T. rex*」開催
平成 28 年 9 月 30 日	開館 20 周年記念式典開催
平成 29 年 1 月 14 日	開館 20 周年記念企画「自然史博物館 20 年のあゆみ」開催
平成 29 年 4 月 16 日	入館者 350 万人達成

2 組織



3 事業体系

管理運営			人事、組織	総務係
			予算、経理	
			施設管理	
			庶務	
事業	展示		常設展示保守、改修	学芸係
			企画展示	
	教育普及事業	一般対象	展示解説	教育普及係
			ビデオ上映会	
			スポット解説（一般、学校向け）	
			紙芝居	
			ファミリー観察会	
			天体観望会	
			自然史講座	
			企画展講演会	
			企画展自然教室	
			学芸員解説ツアー	
			出張展示	
			サイエンス・サタデー	
			ミュージアム・ナイト・ツアー	
			バックヤード・ツアー	
		成人対象	大人の自然史倶楽部	
		高校生対象	高校生学芸員	
		小中学生対象	ミュージアム・スクール	
		小学生対象	自然史博物館探検隊	

事業	学校教育支援	館内授業・出前授業	教育普及係
		職場体験	
		教育用資料貸出	
		博物館実習・大学生インターン	学芸係
	調査研究	奥多野及び周辺地域学術調査	学芸係
		分野別調査研究	
		外部研究機関との連携調査研究	
		研究報告編集	
	情報システム		全体
	資料収集・保存・管理	採集	学芸係
		製作委託・購入	
		寄贈・寄託・移管	
		貸出・借用管理	
		文献・図書管理	
	博物館支援活動・広報	ボランティア	教育普及係
		友の会	
		視察受入	
		広報	
		相談指導	
	自治体等との連携	調査	全体
		相談指導	

４ 管理運営業務

（1）入館者数の状況

平成２９年度の入館者数は 209,136 人（前年比 98.67%）で、前年度に比べ 2,886 人減少した。これは、開館以来の年間入館者数でみると、平成２８年度の 212,022 人に次いで過去 2 番目に多い入館者数であった。

企画展ごとの状況をみると、平成２９年３月から５月に開催した「尾瀬を科学する」が 34,914 人、７月から９月に開催した「アマゾンはいま」が 70,417 人、１０月から１２月に開催した「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」が 36,233 人、平成３０年３月から開催の「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」は３月末までの入館者数 8,479 人であった。特に「超肉食恐竜 *T.rex*」は数多くの恐竜の中で三本の指に入る人気の高い *T.rex* とその仲間をテーマとした企画展で、*T.rex* の生体や進化をはじめ、関連する様々な最新の研究成果を数多くの恐竜の化石や骨格標本とともに紹介し、また企画展をより深く理解してもらうための恐竜学者による記念講演会や自然教室等の関連行事を開催、歴代 1 位の企画展観覧者数となった。「尾瀬を科学する」では第三次学術調査以降の研究成果をそのフィールドを紹介し、尾瀬に関する一歩進んだ知識を提供するとともに、平成２９年度から始まる第四次尾瀬総合学術調査についても実施内容と必要性を紹介し、学術調査が保全の基礎となることをＰＲした。さらに、１～２月に開催した特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」では、地域に根ざした団体等の研究活動成果の発表をおっ来ない、来館者に好評を博した。期間中、1 日平均 377 人の入館者があり、学校団体等の減少する冬場の誘客にも貢献したといえる。

今後も魅力的な企画展示は引き続き行うとともに、工夫を凝らした教育普及事業や解説員によるわかりやすい展示解説など、平素の活動にも一層力点を置き、博物館の役割を果たしていく考えである。

なお、開館以来の累計の入館者数は、3,702,024 人となった。1 日平均の入館者数は 587 人、年度別の入館者数の推移は、次のとおりである。（詳細は 108 ページ参照）

入館者の推移

年度	Ｈ８	Ｈ９	Ｈ１０	Ｈ１１	Ｈ１２	Ｈ１３	Ｈ１４	Ｈ１５
開館日数	132	301	304	303	301	303	301	298
入館者数	120, 712	207, 688	165, 071	150, 211	156, 633	159, 416	166, 989	171, 697
１日平均	914	690	543	496	520	526	555	576

年度	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３
開館日数	292	292	293	292	291	290	288	291
入館者数	160, 456	153, 613	166, 629	161, 626	146, 170	162, 760	148, 697	177, 698
一日平均	550	526	569	554	502	561	516	611

年度	Ｈ２４	Ｈ２５	Ｈ２６	Ｈ２７	H28	H29	累計
開館日数	290	288	289	290	289	287	6, 305
入館者数	182, 038	166, 533	167, 549	188, 680	212, 022	209, 136	3, 702, 024
一日平均	628	578	580	651	734	728	587

＊入館者数は実観覧者数であり、教育普及事業等の参加人員は含みません。

（2）歳入歳出決算の状況

歳入　　単位（千円）

区　　分	金　　額	内　　容
博物館入館料	５４，６６１	観覧料
施設使用料	４９７	ミュージアムショップ他
財産収入	５１４	自動販売機設置収入
雑入	４，４３８	船の科学館助成金 3,000 千円含む
計	６０，１１０	

歳出

事　業　名	金　　額	内　　容
館運営	１５６，７６９	館の維持管理、事業運営等
博物展示	６６，８１９	常設展示メンテナンス、企画展
教育普及活動	５，４３８	観察会等教育普及事業
調査研究	１０，３４３	フィールド調査、学会参加
計	２３９，３６９	

（3）博物館評価の実施

平成２８年度に引き続き平成２７年度の博物館活動の自己評価を行い、平成２９年９月１３日から博物館ホームページで公開した。この後、３名の博物館専門委員を委嘱し、自己評価に対する意見聴取を行った。意見聴取の結果についても１２月２０日に博物館ホームページで公開した。

群馬県立自然史博物館専門委員（平成28年度）

・株式会社丹青研究所文化空間情報部部長　　石川貴敏
・埼玉県立自然の博物館主任専門員兼学芸員　　中村修美
・上毛新聞社役員室長兼経営企画委員会事務局次長　　清水直樹

平成27年度の自己評価結果及びそれに対する専門委員の意見は次のとおり。

平成28年度　自然史博物館活動の評価結果

平成２９年９月１３日
群馬県立自然史博物館

１　はじめに

本評価は、平成23年度に策定した「活動目標の評価指標表（評価指標）」を用いた内部評価であり、平成28年8月27日に公表した平成27年度の博物館活動の評価に続いて6回目となるものである。平成27年度同様、本評価結果を今後の博物館活動の改善と充実につなげていきたい。

２　評価方法等について

（１）評価指標

今回の評価に当たっては、平成27年度末までに、平成27年度の評価結果を踏まえ、平成28年度目標値の設定を行った。

（２）評価作業

評価作業は職員10名による内部評価ＷＧが中心となって進め、素案作成後、職員全員で決定するという方法によった。

（３）結果の公表

評価結果については、全職員にフイードバックし、個々の業務改善につなげるほ

か、ＨＰにて公表し、県有施設としての説明責任を果たすために役立てたい。

※　博物館活動の評価に至る経緯、自然史博物館の使命と事業方針等は、平成23年度の評価結果を参照してください。

３　外部評価

平成22年度の「魅力ある博物館を語る会」で示された外部評価については、平成24年度の評価から導入した。異なる分野から博物館活動に造詣の深い3名の外部有識者を専門委員に委嘱し、博物館活動に対する意見をいただき、平成28年12月20日に公表した。今年度も同様に外部評価を行う予定である。

４　自己評価結果

（１）資料の収集・保存と活用　（「未来に伝える博物館」）

採集・寄贈等により収集した資料の合計点数は、目標値6000点を432点上回る6432点であった。追加される資料数は年度ごとに大きく変わるが、これは寄贈点数の変動によるところが大きい。また、平成28年度は開館20周年を迎え、収蔵資料データを公開するとともに、標本登録に関わるコンピュータ（４次システムの導入）の入れ替え作業もあった。これら作業に伴い、標本登録や画像登録の作業が一時中断されたことも平年に比べ登録数の減少に影響を与えた。

収集資料のデータベースは、常時サーバで運用されるとともに、定期的に磁気テープでバックアップされている。この磁気テープを万が一の事態に備え、第４次システムでは館外での保存が行われた。

一部の資料を除き、資料は温湿度管理、日常の点検、定期的な燻蒸等により、安全に管理されている。ESCO事業導入後、収蔵庫の温湿度は新たな空調機器により管理されている。今後も微調整を加えながら適切な運用を継続したい。

収蔵スペースの不足は以前から深刻な問題となっており、第一収蔵庫・第二収蔵庫ともに慢性的かつ深刻な課題は解消できていない。平成28年度末の段階でも収蔵庫での資料の保存を優先するために収蔵・配架が行われたため、分類群ごとの整頓や資料を安全に出し入れできる配架、資料を運搬する動線などの配慮はできなかった。各資料担当は収蔵と運用の両面から、収蔵と配架に工夫を加えている。しかし、各種調査活動に伴い毎年増える証拠標本は博物館活動の根本であり、永年に渡り受け継がれる資料であることを考えると収蔵庫にて保管すべきであり、他への移動は不可能なものは収蔵庫に入れざるを得ない状態である。このため、資料運搬時の動線となるべき通路や仮置きスペースにも資料が存在するようになった。結果、収蔵スペースに対して資料がオーバーフローしている非常事態が通常となっている。これらの結果のため、資料活用時の作業には通路の標本を移動させたのち、空けた隙間で資料を運搬する。

その後、一時移動させた資料はまた元にあった通路に戻さなくてはならない。現状の作業は資料を破損させる危険性が常に伴い、通常時より多大な時間と労力、及び繊細な作業が求められている。平成28年度は収蔵スペース調査としてCコーナートイレ外のウッドデッキスペースが収蔵スペースになるか確認したが、結果は不可であった。

収蔵資料は今後も増え続けるため、これからも資料の保管場所については検討を続けていきたい。

展示での公開やレファレンスによる資料活用は、年度目標をほぼ達成しているが、これに甘んずることなく、より効果的な活用を模索していきたい。

（２）調査研究　（「魅力を引き出す博物館」）

調査研究の推進では、平成28年度は3年計画で行われる奥多野及び周辺地域総合学術調査の最終年度(3年度)で、延べ36回の現地調査を行った。調査成果は、平成29年に調

査報告書としてまとめ、ホームページ上で公表する予定である。また、各職員が独自に行っている調査研究は10分野21研究、外部研究施設等と連携している調査研究は平成27年度並の40研究となった。研究成果の公表では、発表論文数15、学会等発表数12、雑誌等への発表27（前年度11）であった。平成28年度には館の研究を紹介するものなど、雑誌のシリーズ連載が2件あり、これが大幅な雑誌での発表の増加につながったと考えられる。外部連携・招聘による講演会講座等数は15件で、例年20件前後で推移している。市民参加型調査や市民連携の調査は3件で、平成27年度より1件減少した。博物館の調査研究全体として外部機関や研究者との連携による研究への方向性が強くなってきている。一方で市民との連携による研究体制の強化が課題と思われる。

研究成果を著書や講演会などを通して公表に努めており、また、雑誌やマスコミを利用した研究内容の紹介と、博物館における研究の意義を伝えていく姿勢がコンスタントな発表活動数にあらわれていると考えられる。今後とも成果を出し、その公表を継続するためには、研究環境と体制を維持し、少なくとも現行の研究レベルを質と量ともに維持する必要があると思われる。

（３）展示　（「知を広め、高める博物館」）

観覧者数は212,022人で平成27年度の188,680人を大きく上回り過去最多を記録した。観覧者増に伴い展示室内での定時解説及び随時解説が増加した。そして企画展定時解説の対面式アンケートによって得られたリピーター率は64％と目標値を越えることができた。企画展示の魅力的な内容の提供と様々な媒体による広報活動を実施しており、その効果が現れており目標値を達成することができた。常設展示では28件の資料追加・更新及び機器の更新を実施した。

展示全体（Ａ～Ｅコーナー）のパネルは経年および来館者の手に触れるため劣化が著しく展示に耐えられないものがある。また学説が新しくなり提供している情報が誤りになっているところもある。そのため45カ所の展示パネルの修正・作製を実施した。

さらに誘導サイン、解説スタンド、アクリルスタンドを増設した。Ｂコーナーの鳥類剥製についてはアオゲラなど23点を更新した。開館以来、大きな更新はなく老朽化が否めず、展示物が壊されること等もあることから、故障が頻発している。故障時の職員による対応は年間229件で、速やかに対処できる体勢が維持できている。

企画展は常設展にはないテーマを選定し、その時々話題性のある内容で基本的には夏、秋、春の年3回、冬には特別展を開催している。平成28年度の企画展は夏、秋を通じて開館20周年記念「超肉食恐竜Ｔ．rex」を開催した。7月16日から10月27日までの会期の入館者数は117,451人と好評を博した。 冬は特別展「開館20周年記念自然史博物館20年のあゆみ～コレクション展～」を、春には「尾瀬を科学する」を開催した。

平成28年度は上記のとおり夏秋を通じた企画展を開催したが、例年、夏は家族連れ、秋は学校団体を、春は家族連れなど一般向け、また季節を意識し展示を行っている。アンケート回答による平成28年度の満足度は93％と平成27年度の83％より高くなった。予算は減少傾向にあるが、映像撮影・編集、造作物等は可能な限り学芸職員が製作しており、クオリティも向上してきている。冬の特別展はほとんどが担当職員による手作りである。今後さらにリピーターの方々がまた足を運んでもらえるような魅力ある展示と展示方法の工夫を積み重ねていくことが肝要であり、その努力を継続していきたい。

（４）教育普及　（「知を広め、高める博物館」－わくわく・ドキドキ・新発見－）

学びの魅力を感じられる事業の推進では、平成27年度並みの事業を実施したが、参加者数については平成27年度を10％以上上回る結果となった。また、事後アンケート

での満足度も高い。博物館について知ってもらったり、理解を深めてもらったりすることを目的として実施した移動博物館や博物館の展示について解説を行う展示解説員の定時解説や随時解説に対する熱心な取組などが参加者増につながったと考える。また、土曜日と日曜日に開催しているビデオ上映に関しては、参加者が前年に比べ倍増した。

学校教育支援の推進では、平成27年度から２年連続して館内授業の参加者が増加した。県内小中学校の下見対応、県外小中学校の実地踏査において、館内授業の魅力を伝える努力をしたことが成果につながったと考える。今後は、館内授業の提供のしかた及び内容等を工夫することで、多くの学校が利用しやすい館内授業をめざしていきたい。

ボランティア活動の登録者数は、登録者の高齢化が進み、平成27年度に比べ15％減少している。一方、友の会活動の会員数は平成27年度に比べ20％増加している。友の会行事や研修の質と量が充実していることの成果が現れている。

（５）情報の発信と公開　（「知を広め、高める博物館」）

企画展や普及イベントなどの情報発信としては、新聞やラジオ・テレビなど様々なメディアを活用し行った。また、ホームページの更新やフェイスブックでの情報発信なども積極的に行い常に最新の情報を提供するよう心掛けた。ホームページでの新着情報では、１つ１つのイベントに対し事前には募集を兼ねた情報提供を行い、事後には活動内容報告をしている。ホームページのアクセス数は41131件（29年1月～3月）である。企画展毎のポスターやチラシを作成し企画展を周知するとともに図録を発行した。さらにイベントカレンダー（上期・下期）やデメテールを3回発刊した。

県広報を介した発信は58件、館からの発信が101件であった。

また、年3回の移動博物館や他館連携出前教室等も博物館の情報を公開する効果的な場として行っている。

（６）シンクタンクとしての社会貢献　（「知を広め、高める博物館」）

公共の博物館として、その有する様々な資源（資料、情報及び職員の専門性）を活用し、自治体や各種団体への専門知識の提供や講師の派遣など、シンクタンクとしての機能を充実させ社会貢献を果たすことは博物館の重要な使命の一つである。

学校・主任会などへの講師派遣件数は、目標値20件に対して36件、学会・研究会における役員・委員等の受諾件数は、目標値5件に対して12件であった。学校や主任会への講師派遣は、博物館の専門性を広められ、学会・研究会への寄与は専門性を高めることができるので引き続き推進していきたい。一方、大学教育への寄与で、博物館実習等を行っているが、博物館や大学での講義や実習は目標値10回／年に対して、5回であった。専門知識を必要としている大学や大学生に対して、より多くの講義や実習を行うことで専門知識を提供し、大学教育へ寄与していきたい。

また、博物館施設等への助言件数は、目標値10件／年に対して19件であった。今後もさらに博物館施設等との連携強化・推進をすすめたい。レファレンス利用者の件数も229件と平成27年度の204件よりも大幅に増加、目標値200件にも達することができた。引き続き専門性を求めるニーズを増やし、対応を強化していきたい。

（７）マネージメント　（経営）

平成28年度は開館20周年を迎え、これからの10年の館運営の基本的な考え方や理念や使命、機能、事業活動方針と事業展開方向などを盛り込んだ基本構想「自然史博物館のこれからの10年」を策定し公表した。今後基本構想に則して事業展開をすすめていく。

安全で利用しやすい博物館施設への改善では、施設改修等は予算的な制約から進展

が見込めない状況であるが、開館後20年が経ち、建物の老朽化・陳腐化が見られるので入館者の安全対策の面からも必要により対応していきたい。

情報システム関連は、平成28年10月から第４次情報システムを導入、稼働した。

観覧者サービスの点検と質的向上では、案内業務のクオリティチェックと接遇研修を継続することで、一定の水準の確保を図っているが、引き続き更なる向上を目指しい。

博物館認知度の向上と利用者層の拡大では、平成28年度は入館者数、観覧者数、観覧料が歴代１位となった。富岡製糸場の世界文化遺産登録や周辺観光ポイントの増加など周辺環境が変化する中で、常に最適な活動を目指し業務の見直しを行っていかなければならない。そして、最適な活動をしても相手に伝わらなくてはならないので特に重要な広報活動については、より効果的に進めていく必要がある。

職員の意識改革と資質の向上では、研修会・学会等への参加が少ない状況にある。予算上の制約に加え、職員の通常業務が忙しく参加が難しくなっている面もあるが、博物館を一層魅力的なものにしていくためにも、職員には継続的なレベルアップが求められており、積極的な取組を呼びかけていきたい。

博物館活動への理解及び外部協力の確保は、平成28年度当初予算で平成27年度を上回る予算を確保することができた。これは、開館20周年記念展や情報システム更新予算を計上したことなどによるものである。また、平成28度は公益財団法人からの助成を得て磯のトランクキットを作成することができたが、平成29年度も同様助成を得る予定であり、引き続き外部資金の導入に努めていきたい。さらに、博物館の取組を継続して発信し、企業等からの支援増加を図っていきたい。

防災意識の向上と危機管理体制の強化では、危機管理マニュアルを改訂し２度の防災訓練を行った。引き続き防災訓練を行うとともに、マニュアルについては、随時必要な見直しを行っていきたい。

博物館評価システムの構築では、平成25年度から外部評価を導入し有識者から意見をいただきＨＰで公開している。いただいた意見を受け止め、今後の博物館活動に生かしていきたい。

平成 28 年度自然史博物館活動の評価に対する意見

□平成 28 年度群馬県立自然史博物館活動の評価について

群馬県立自然史博物館専門委員　石川　貴敏

平成 28 年度の事業活動は、開館以来最多の 212,022 人を記録した年間入館者数（実観覧者数）に代表されるように、ほとんどの活動で目標値を上回る高い成果をおさめています。展示の観覧だけでなく、教育普及事業への参加者数も平成 27 年度を 10%以上上回り、参加者による事後アンケートの満足度も高いことが年報に記載されています。博物館は、開館してすぐの時期が最も多くの入館者数を記録し、その後は減少傾向を示したり、開館時には満たないある程度の入館者数で安定する傾向が見られることが多いので、近年は毎年増加傾向を示し、開館 20 年目に過去最多の観覧者数を記録したことは高く評価できると考えます。限られた予算や人員で、毎年多くの利用を達成している職員の方々の尽力に敬意を表します。評価委員会当日に企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」を拝見させていただいた際には、担当学芸員の高い企画力や創意工夫を展覧会の各所で看取し、博物館の自力や基盤の強さを再度確認しました。評価委員会で事業活動の子細や内部評価結果に関する説明を受け、職員の方々と意見交換を行った際は、これまでの評価における指摘や意見に真摯に対応して改善につなげている姿勢を感じました。これからも平成 28 年度に記録した高い成果を継続できるように取り組んでほしいと思います。

そのような中、今後求めることとして以下の3点を記します。1点目は、「収蔵スペースの確保」です。館外保管施設（2施設）を確保し、平成28年度はさらなる収蔵スペースの確保に向けて館内の候補となり得るスペースの適正調査を行う（結果は不可）など、取り組みは続けていますが、収蔵スペースに対して資料がオーバーフローしている現状が続くことは、決して望ましいことではありません。かなり危険な状況であると考えています。資料や標本を所有している方々の高齢化が進み、個人からの寄贈が増えることが予想される近い将来に向けて、早めの対応策を講じることが肝要です。引き続き、群馬県の所管部局とともに検討を進めていただきたいと思います。

2点目は、「研修会・学会等への参加」です。平成28年度は目標値の半分程度の実施に留まっています。政府は2020年までを「文化政策推進重点期間」と位置づけており、平成27年度以降、次々に博物館に関連する指針や戦略などが打ち出されています。地方創生、観光振興、デジタルアーカイブの推進など、現在の博物館に求められる役割はますます広がっています。こうした現状に対応するためには、学芸員や職員の方々の研修活動や人材育成活動は必要不可欠であると考えます。各地で行われている研修などに積極的に参加できるよう、機会の確保や体制の工夫に努めていただきたいと思います。

3点目は、平成28年度に公表した「博物館基本構想－群馬県立自然史博物館これからの10年－」の積極的な推進です。開館30年目に向けたこれからの10年間の方針や方向性が記され、高い期待が持てる素晴らしい内容に仕上がっていますが、平成28年度以降、しっかり構想内容に沿って推進できているか、毎年検証しながら、事業の検討・実施を図っていただきたいと思います。短期間で成果を達成できるものばかりではないため、できるだけ早期に取り組み、毎年、経過（成果）を確認していただきたいと思います。これから10年間にわたり「博物館基本構想」に基づいて活動を推進した先には、国内を代表する新たな自然史博物館の姿が見られると信じています。

□平成28年度自然史博物館活動の評価について

群馬県立自然史博物館専門委員　中村　修美

博物館の業務には、資料の収集・保管、展示・教育普及、調査研究がありますが、全体としてよく実施されていると思います。また、平成28年度には開館20年目を迎え、今後10年間に取り組むべき指針としての「基本構想」を取りまとめています。今後の方針も明確に示されていますので、この指針に基づきしっかりと博物館活動を進めてください。

これまでの活動に問題はないですが、数点コメントさせていただきます。

自然史博物館の県内での認知度の調査を行われていますが、大変重要な調査です。どの博物館にとっても認知度を向上させることは重要なテーマです。多様な対策が考えられる中で、全小学校へのチラシの配布は多大な効果があります。これは継続していくことで、より大きな成果が見込まれます。今後も是非継続してください。

資料は学術的な意味だけではなく、県民の財産であり、ひいては国の財産でもあります。この資料をいかに後世に残していくかは、博物館にとって重要な課題です。資料管理において、総合的病害虫管理（IPM）は大変重要な作業です。この中で、虫害防止と同様にカビによる被害防止も重要です。いったん発生したカビを除去するのは大変な労力を必要としますし、完全に除去するには大変難しいことです。また、収蔵庫の燻蒸を行っても、条件によっては害虫を完全に駆除できないとの報告もあります。これらのことから、日常のIPMが重要になってきます。清掃の実施では、広い収蔵庫を一度に実施するのは困難だと思います。場所を決め定期的に順繰りに清掃を行うことにより全体の清掃を進め、合わせてIPMを確実に進めてください。

資料の管理に関しては、画像データベースが有効です。分野によりますが、同じ資料の名称でもその形態は大きく異なります。画像データベースになっていれば、資料の確認なども容易になります。すでに着手されておられますが、時間はかかっても少しずつ

でも着実に進めてください。

政府は 2020 年に訪日客 4000 万人を目標に掲げています。今後、外国人の訪問者が増えてくることが予想されます。外国人訪問者のために各種印刷物を用意することができれば良いですが、予算的な問題もあると思います。すでに Wifi が設置されているとのことで、その活用については検討を進めていることと思います。収蔵品やイベントの情報も重要ですが、館内で情報にアクセスできる展示解説などは、多言語で対応しやすい内容だと思います。有効な活用を検討するとともに、ぜひ実施を進めてください。

□平成 28 年度自然史博物館活動の評価について

群馬県立自然史博物館専門委員　清水　直樹

平成 28 年度の入館者数は 21 万 2022 人と前年度を上回り、過去最多を更新しました。趣向を凝らした企画展示や解説員の分かりやすい説明など、地道な活動がリピーターを呼び込んだ結果だと思います。しかし、これまでの最多が開館直後の平成 9 年度（20 万 7688 人）だったことを考えると、満足してはいけない数字であり、まだまだ成長途中であることが分かります。

自然史博物館の役割は資料の収集や保存、調査研究など多岐にわたりますが、展示や情報発信といった観覧者に「伝える」という機能が強く求められています。その機能が十分に果たせているか。入館者数はそれを知る物差しになると思います。

一度来た人がまた訪れたくなるような取り組みや、まだ訪れたことのない人へのアピール活動をより強化してもらいたい。展示内容が充実しているだけに、その周知が進まないことはもったいない。

周知活動では県内 35 市町村との連携をさらに深めてもらいたい。特に自然史博物館が調査研究を進めている自治体において、途中経過を含めて成果を順次発表することも重要です。地元住民に関心を持ってもらうとともに、博物館の活動を身近に感じてもらえると思います。ぜひ、「攻め」の姿勢で取り組んでほしい。

開館 20 年目となり、自然史博物館の今後 10 年間の指針と基本構想が示されました。世界、日本の自然環境が大きく変化する中、自然史博物館への期待は年々高まっています。「生きた自然史を探究・継承し、守り、伝え、人を育てる」という理念の実現に向けて邁進していただきたい。新たに加える「参画型調査研究機能」は県民が調査研究を体感できるシステムであり、子供たちにとってワクワクする発見が次々と出てくると思います。ぜひ多角的に推進してもらいたい。

５ ESCO事業

平成２６年度から開始されたＥＳＣＯサービスは、前年度の反省点を踏まえつつ、博物館と受託業者が連携して取り組んだ結果、平成２９年度も削減保証額を上回る７３，４９３千円のエネルギーコスト削減となった。

※ 変更契約締結後のベースライン　　105,142 千円(補正後)

〃　　削減保証額　　60,686 千円

なお、削減実績の検証を行うために、博物館、受託業者、県関係課から構成される「自然史博物館ＥＳＣＯサービス検証ワーク」を５月、１１月及び３月に開催した。

６ 防災訓練･危機管理

地震や火災などの発生に備えるため、かぶら文化ホールと連携して２回の防災訓練を行った。

・平成２９年６月２２日（木）　第１回地震避難訓練

・平成３０年２月２７日（火）　第２回消防訓練（消防署立ち会い）

7　施設修繕・機器更新

(1)施設修繕（ユニバーサルデザイン等）

天体ドームへのアプローチの全面改修や自動火災警報設備受信機ディスプレイの交換、展示室屋根漏水の補修、窓口券売機の修理、空調機モーター部品の交換、冷凍庫内床面の補修等を行った。

・修繕件数　２１件

(2)機器更新

非常用放送設備機器更新を行った。

Ⅱ　事業の概要

１　展示

(1) 常設展示

県民が自然の生い立ちや群馬県の多様で豊かな自然環境などへの理解を深め、自然に親しみながら学習する施設とするため、展示に際して、①資料についてはできる限り実物を揃える　②資料のケース内の展示を極力減らして身近に展示し、実物を実感してもらう　③資料を観覧するだけでなく、資料によっては直接手で触れたり、随所に映像や体験コーナーを設けたり、参加・体験型の展示を心がける、以上の３点に配意している。

常設展示は、下記の５つのコーナーに区分されている。展示の保持にあたっては、平成29年度も各コーナーの担当者が少なくとも毎月１回エリア内の状況を確認した（清掃、修繕を含む）。日々の動作確認については展示解説員が実施している。

①　地球の時代（Ａコーナー）

誕生から 46 億年を経て現在に至る地球の発達、すなわち大地が形成される過程、そして地球における生命誕生とその生命が様々な環境に適応し多様化していく過程の二つを軸として、その中に群馬県の地質や化石を絡めて、生命の進化史を群馬県の自然史と対比しながら世界的・日本的規模で展示している。現在のヒトから宇宙の誕生までを一気に遡って紹介する導入部のタイムトンネルを抜けたところからはじまり、今の自然環境の基盤となる地球（太陽系）の形成と生命の誕生ならびに先カンブリア時代の発展を紹介する「A-1 水の惑星と生命の誕生」、「A-2 生命を育てた太古の海」（古生代）、「A-3 恐竜の時代」（中生代）、「A-4 哺乳類の時代」（新生代古第三紀・新第三紀）、「A-5 人類の時代」（新生代第四紀）の５つに分けられる。

A-2 「生命を育てた太古の海」で常設展示している標本のうち、シャミセンガイ拡大模型が日本大学生物資源科学部博物館へ 7 月 4 日より貸し出され、返却後の 10 月 5 日に展示に戻した。

A-3「恐竜の時代」では、新たに標本を追加したものとして、以下のものがある；①9 月 14 日からティランノサウルス（AMNH-5027）の頭骨レプリカをティランノサウルスの動刻奥に追加し、ティランノサウルス 2 点とカルカロドントサウルスの比較を可能とした。②平成 30 年 1 月 2 日から「恐竜の歯の比較展示」にティランノサウルス、ティランノサウルス亜科、ギガノトサウルスの歯（全て借用標本）の３種類３本を追加、歯の厚みの違いなどが観察可能となった。③平成 30 年 2 月 27 日から「海の生物」に北海道産キクザメ属化石１点、「群馬の恐竜時代」に跡倉層産貝類化石２点を追加した。これらは当館の研究成果の証拠標本である。併せて戸倉沢層産植物化石が寄贈されたのでこの１点を展示に追加した。

標本入れ替えとしては、「頭足類化石」のうちキャリコケラスをプラケンチケラス（借用標本）に（12 月 27 日）、そして瀬林層のハヤミナ１点について、寄贈された大型の産状標本に入れ替えた（平成 30 年 2 月 27 日）。また、昨年度から展示していたスピノサウルス胴椎化石（借用標本）を、所有者からの要請により 3 月 8 日に一度返却した。

他には、国際古生物学協会が制定した「国際化石の日」のポスターをA-3、A-4 の２カ所に 10 月 14 日～16 日に掲示した。これについては、今後も毎年掲示する予定である。

A-4「哺乳類の時代」について、常設展示している標本のうち、鰭脚類のアロデスムスの頭骨レプリカ（全身骨格の一部）については、7 月 1 日～2 月 17 日の間、海遊館に全身骨格を貸し出した。貸出期間中は代替標本として同じ鰭脚類でアザラシ科のアクロフォカ頭骨実物化石を展示した。頭骨レプリカ返却後は展示資料を再検討し、アロデスムス頭骨、アクロフォカ頭骨、ダフォエヌス頭骨、ニムラヴス頭骨、ヘスペロキオン頭骨、エウスミルス頭骨

に変更した。

A-5「人類の時代」では、群馬県の県の石(岩石)である「鬼押出し溶岩」を常設展示とした。また、この標本は第 55 回企画展「ぐんまの景観がこんなにもすばらしい５つの理由」で展示するため、一時的に下げられた。県の石（鉱物）の鶏冠石については、標本保存の観点から通年での展示を昨年度からとりやめ、地質の日と博物館の日にちなんだ春期（5/1～21）のみ展示した。顕微鏡で観察できる浅間山の噴火(2009 年)に伴う火山灰に替え、草津白根山本白根山の噴火(2018 年 1 月 23 日)に伴う火山灰を、1 月 28 日より展示した。

（展示資料数 1,205 点、追加・更新展示資料 計 8 点）

② 群馬の自然と環境（Ｂコーナー）

多様で豊かな群馬の自然環境を低湿地から亜高山帯まで、また利根川や尾瀬など代表的な地域に分けてジオラマ、標本、映像等で紹介している。特に山地帯の展示ではブナ林、亜高山帯はシラビソーオオシラビソ林、丘陵帯はクヌギーコナラ林、低湿地は茂林寺沼の周辺の植物、尾瀬では湿原植物を、それぞれジオラマで再現している。さらに平成22年度より近年生物多様性の保全上問題になる外来種の展示を加えた。また、利根川では3つの水槽に上・中・下流に代表的な魚を生体で展示している。水槽展示のメンテナンスは年22回実施している。それぞれの場所ごとに生息する哺乳類や鳥類などの剥製やレプリカ、アクリル標本なども数多く展示している。また尾瀬シアターは、180インチのプロジェクター投影機を用いて、日本を代表する尾瀬の湿原をミズバショウの妖精ミズビーが案内するものとなっている。本年度は、傷んだ剥製の交換とともに、ホタル発光装置のパネルを更新するとともに、光源をLEDに変更した。

（展示資料数1,357点、更新展示資料23点）

③ ダーウィンの部屋（Ｃコーナー）

老博物学者のロボットが生物の進化について説明する。展示室内は、博物学者の書斎や倉庫、実験室をイメージし、数多くの標本を間近に見ながら、資料に触れたり、機器を操作したりしながら観察できる参加体験型の展示となっている。平成12年度に寄贈されたダーウィンの直筆書簡と顕微鏡を展示している。動刻（ロボット博士チャーリー）については、保守点検を年4回実施した。展示では、「わたしがみつけた自然」の写真４点を更新し、6月の燻蒸休館中、倉庫の剥製を燻蒸した。

（展示資料数546点、更新展示資料4点）

④ 自然界におけるヒト（Ｄコーナー）

このコーナーの名称は、ダーウィンの進化論を擁護したトーマス・ハックスリーの本の題名「自然界における人の位置」にもとづいている。コーナーの展示は以下の 3 つから成っている。

1 動物としてのヒト：ここではヒトが脊椎動物や哺乳類とどのような同じ特徴をもつかを展示しておりヒトがいかに動物であるかが実感できる。哺乳類は世界中に約 4,500 種いる。哺乳類には、授乳により子どもを育てる、胎生、恒温生、2 心房 2 心室、大脳の発達、7 個の頚椎、異形歯性、二生歯性などの特徴がある。ヒトはオランウータン、ゴリラ、チンパンジーなどの霊長類のなかまで、霊長類には拇指対向性、平爪をもつ、指紋がある、立体視ができ色覚があるなどの特徴が見られる。

2 ヒトの進化と起源：ヒトという種が複雑な進化の段階を経てきたことを当時の研究成果にもとづいて展示している。ヒトはチンパンジーとの共通祖先から別れた後、ヒトは独自の進化をとげてきた。現代人はホモ・ハイデルベルゲンシス（50 万年前）からホモ・サピエンス（20 万年前）と進化し現在にいたっている。

他の動物にはなくヒトだけがもつ特徴がいつどこで始まったのかを、欧米の芸術家の手による精巧な等身大人形や科学的復元図で展示している。

3 ヒトの特徴：ヒトの身体には、ほかの霊長類には見られない様々な特徴がある。この特徴は、そのほとんどが直立二足歩行を始めたために起きたと考えられている。頭蓋骨では脊髄が出る大後頭孔は真下にあり、頭をささえる項筋が付着する部分は小さくなっています。胸郭は内臓が下がらないようにすぼまっていて背骨は足から伝わるショックをやわらげるために S 字状になっている。また骨盤は内臓をささえるためにゆりかごのような形をしている。さらに脚にある大腿骨は斜めについており、歩く際にチンパンジーのように左右に揺れることなく歩行することができる。足の骨はアーチ状になって土踏まずができ、体重が一点に集中しないようになっている。

直立二足歩行、脳の発達が道具の製作と使用、死者の埋葬、火の使用、芸術と象徴、農耕と牧畜、文明などを生み出すことになった。これを実物標本や模型・複製等で再現している。

平成 29 年度は、コーナーのリニューアルを実施した。霊長類の分類、霊長類の進化、人類の進化、ドメスティケーションのはじまり、人類の拡散を更新した。

（展示資料数364点、更新展示資料35点）

⑤ かけがえのない地球（Ｅコーナー）

人間の生活が地球全体に及ぼす影響を紹介し、環境問題について考える機会を与える展示である。エコボール、ドードーやトキなど絶滅、または絶滅の危機にある動物の紹介や、森林の保水作用を説明する模型、環境クイズの映像などを展示している。

（展示資料数29点、更新展示資料なし）

⑥ 常設展メンテナンス

ESCO 事業以外の照明等で LED 化未対応の部分について、電球交換を実施した。また、ジオラ

マのメンテナンス、清掃を行った。メディアプレーヤー、展示機器等のメンテナンスを行った。誘導サインのデザイン等を見直し、更新した。

・導入

6 面マルチの 6 面モニター出力機器の故障が長年続いていたことから、6 面マルチの改築工事を行った。6 面マルチを廃し、70 インチのハイビジョンモニターを導入し、仮のプロモーション動画を入れて更新対応を行った。

回転模型の清掃と修繕を行った。

・Ａコーナー

ミラーの実験装置の動作確認、メンテナンス作業を行った。ガラスケース内のライトを LED 化したことから、点検を行った。大型拡散霧箱の定期メンテナンスを例年通り 2 回行った。

顕微鏡のアクリルカバーケースを更新した。度重なる鏡筒部破損の主な原因は、顕微鏡の鏡筒部を握り、強く引っ張ることで接眼レンズをのぞき込むことであったため、A コーナーのうち最も破損報告の多い 2 ヶ所について手すりを設置した。

例年どおりティランノサウルスなどの動刻のメンテナンスを行った（年４回）。

・Ｂコーナー

尾瀬ジオラマ、ブナ林ジオラマ、丘陵地ジオラマ、茂林寺ジオラマ、シラビソジオラマのクリーニングを実施した。

顕微鏡の破損が続いていたため、顕微鏡と顕微鏡のアクリルカバーを新規更新した。ホタルの発光のしくみが見えにくいことから、システムとグラフィックを更新した。茂林寺沼、雑木林について、照明の LED 化を行った。

剥製のクリーニングを行った。一部、支持具を更新した。

・Ｃコーナー

ガイガーカウンターのメンテナンスを行った。

例年どおりロボット「チャーリー」のメンテナンスを行った（年４回）。

・Ｄコーナー

「指紋をみてみよう」の改修を行った。ターンテーブル上の類人猿のクリーニングを行った。

⑦ 常設展更新事業

Dコーナーの、１）霊長類の分類、２）霊長類の進化、３）人類の進化、４）ドメスティケーションのはじまり、５）人類の拡散の５カ所について、京都大学霊長類研究所、国立科学博物館人類研究部指導の下、更新を行った。

(2) 企画展示

① 第53回企画展「尾瀬を科学する」

A 趣旨

1995～1997 年に第三次尾瀬総合学術調査が行われ、その後も関係各県や国立環境研究所を中心に尾瀬に関する保全を中心とした研究が進められている。また、近年シカの侵入に代表される過去になかった現象が起こり、その影響が危惧されている。本展示では、一般に知られることがほとんどなかった第三次尾瀬総合学術調査以後の研究成果とそのフィールドを紹介し、尾瀬に関す

る一歩進んだ知識を提供することを目的とした。また、今年度から実施される第 4 次尾瀬総合学術調査についても実施内容と必要性を紹介し、学術調査が保全の基礎となることを PR した。

B　開催期間

2017 年 4 月 1 日（日）～5 月 14 日（日）（開催日数 38 日）

C　展示構成

a）導入展示・エントランス展示

尾瀬の魅力を写真パネルとドアバナーパネルで紹介した。また、エントランスホールに関係者の尾瀬保全のための取り組みを紹介するパネル展示を行い、行政や土地管理者が尾瀬の保全に真剣に向き合っていることを紹介した。また、企画展示室直前のスペースは群馬県尾瀬山の鼻ビジターセンターの展示やレクチャールームを再現し、ビジターセンターの施設と活動を紹介するとともに、臨場感ある展示で、これから尾瀬ヶ原に入るという雰囲気を作った。

b）科学が尾瀬のプロフィールを解き明かす

尾瀬の研究史とその成果から、尾瀬の自然科学的な特徴を紹介するとともに、研究や発表の方法とその発達について紹介した。まず、尾瀬の謎として語られてきた池塘、竜宮現象、赤シボに焦点を当てて、その成因を解き明かした科学的なプロセスとともに紹介した。次に尾瀬の生物相を、標本を交えて解説し、湿原を形成する泥炭に焦点をあてて解説した。特に 1967 年に山ノ鼻田代の研究見本園で掘削され、群馬県尾瀬保護管理センターに展示されていた泥炭標本は、150㎜ 角の柱状標本で、貴重なものである。尾瀬の生態系については、ヤチヤナギとポリネーションエコロジーに焦点をあてて展示した。

c）尾瀬を足元から調べる－地元自治体の尾瀬保全のための調査

群馬県尾瀬保護専門委員の活動の中で、植生、植物相、水生動物、クマに焦点をあてて実物標本、調査地点の写真パネル主体で展示を行った。クイズ、体験活動はこのコーナーに集中的に配置した。クイズの中で動物頭骨のハンズオンを採用する、植生図と花の彩色を組み合わせた図鑑づくりなど、単純作業や単なるクイズの答え合わせにとどまらない活動ができるよう工夫した（今回は従来多用されたワークシートラリー形式のクイズは廃止）。

d）尾瀬を復元する

アヤメ平と至仏山の植生回復作業については常設展にも解説パネルはある。常設展パネル作成後の植生回復とともに、過去の状態の変化や今後の計画・展望を、植生回復作業の当事者である東京パワーテクノロジー尾瀬林業事業所と群馬県の資料もとに解説することにより、詳しく正確な情報を伝達することに留意した。また、現地のイメージが伝わりやすいよう、模型を使った説明を行った。

e）激変する尾瀬の自然

現在尾瀬に起きている変化として、シカなどの野生動物の侵入、オゼコウホネの減少、異常気象に伴う災害の多発に焦点をあて、特にシカによる生態系や野生植物への影響を中心に構成した。シカに関しては影響を受けた植物の標本とともに、シカ侵入防止ネットを模したミニジオラマ、背中アブリ田代に設置された群馬県の自動撮影カメラの映像を併用し、尾瀬におけるシカの活動の現状を多角的にとらえられるよう配慮した。

f）研究によって守られる尾瀬の自然

平成 29 年度より実施される第 4 次尾瀬総合学術調査の体制、調査項目、目的を紹介するとともに、なぜ今学術調査が必要か解説した。特に第 3 次尾瀬総合学術調査以降の 20 年間に科学技術の進歩と分類学的知見の蓄積による体系の変化がみられ、それに対応する調査研究が求められることをドローンや新分類体系（APGⅢ体系）による図鑑や近年新種記載された種を紹介しながら解説した。

D　展示点数：308 点（内当館収蔵資料数 248 点）

E　関連事業

ａ）講演会

題目「尾瀬ガイダンス」

講師　尾瀬保護財団　宇野翔太朗

実施日　4 月 16 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分

参加者 56 名

尾瀬保護財団の現地スタッフが見た尾瀬の魅力、おすすめコース、尾瀬入山の注意点や服装・装備、尾瀬の中でのエピソードなど、尾瀬初心者・初級者にもわかりやすい内容で、解説した。

ｂ）記念講演会

題目「尾瀬保護専門委員リレー講演会」

講師　群馬県尾瀬保護専門委員　　鈴木伸一・片野光一・吉井広始

実施日　5 月 7 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分

参加者 49 名

鈴木伸一氏による「尾瀬の植生」、片野光一氏による「尾瀬のミズゴケと湿原」、吉井広始氏による「アヤメ平の植生復元作業」の 3 件の小講演会のあと、尾瀬の植生とその復元に関して、吉井氏コーディネーターによりパネルディスカッションを行った。

F　共催団体

公益財団法人　尾瀬保護財団

G　後援

上毛新聞社、NHK 前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、福島民報、福島民友、新潟日報

H　協力団体

環境省北関東地区国立公園・野生生物事務所、東京パワーテクノロジー株式会社尾瀬林業事業所、東京電力ホールディングス株式会社、福島県、新潟県、国立科学博物館、東京大学総合研究博物館、ホシザキグリーン財団、京都大学総合博物館、苫小牧市美術博物館、群馬県森林組合連合会、国立環境研究所、檜枝岐村温泉観光協会、魚沼市観光協会、片品村観光協会、群馬県林業試験場

（以上、敬称略）

Ｉ　協力者

新井幸人、福原晴夫、野原精一、黒沢高秀、木村吉幸、林　成多、群馬県林業試験場
片野光一、吉井広始、鈴木伸一、峯村宏、金杉隆雄

（以上、敬称略）

Ｈ　入館者数

31,385 人（うち平成 28 年 4 月 1 日から会期終了までの入館者数 21,900 人）

Ｉ　アンケート

回答数：303 件
年代構成：10 歳未満 30%，10 歳代 31%，20 歳代 6%，30 歳代 7%，40 歳代 9%，50 歳代 7%，
60 歳以上 11%
居住地：群馬県内 69%，県外 31%
来館回数（県内）：初めて 42%，2 回目 14%，3 回目 8%，4 回目 36%
企画展を何で知ったか：来館して 41%，チラシ 8%，インターネット 11%，その他 40%
企画展の内容：満足 57%，やや満足 33%，やや不満 6%，不満 3%

②　第 54 回企画展「アマゾンはいま」

A 趣旨

熱帯雨林は生物の宝庫であり、そこに生息する生物種は地球上の 40%以上といわれている。未知の種も数知れず、昆虫であれば 1000 万種以上生息しているとみる研究者もいる。生物多様性の面から重要な意味をもつ熱帯雨林の面積は地球陸地のわずか数%を占めるに過ぎない。さらに伐採等による減少は毎年、九州の面積に匹敵する。熱帯雨林の生物にとどまらず、民族さらに行政的な保全活動を紹介し、多くの県民が生物の多様性・環境保全についての関心をもってもらえる展示とした。

B 開催期間

平成 29 年 7 月 15 日（土）～9 月 3 日（日）

C 展示構成

（１）アマゾン写真館
（２）アマゾンの生き物たち（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類）
（３）アグロフォレストリー
　　・企業の取り組み　生育から商品化まで
（４）先住民族の暮らし　民具・装身具
（５）保全と開発　「だいち 2 号」による環境保全の取り組み（ＪＡＸＡ／ＪＩＣＡ）
（６）アマゾン川での京都大学の研究（アマゾンカワイルカ、マナティ、サル）

D　展示点数　約 450 点　（内当館の資料約 400 点）

E　入館者数　70,417 人

Ｆ　関連事業

a)サンバカーニバル

実施日　　7 月 17 日（月）13:30～15:30
場　所　　中庭
アマゾン出身のダンサーも加わり、本場さながらのサンバショーを企画展初日に実施した。250 名ほどの見学者があった。

b)講演

題　目　　「アマゾン川の固有種アマゾンマナチィーってどんな動物？日本の最新技術で見えない彼らの生態を見てみよう」
講　師　　菊池夢美（京都大学野生動物研究センター）
実施日　　８月 11 日（金）13:30～15:30

c）自然教室「ガンザ de サンバ」

講　師　　清水和美（スマイルビート）
実施日　7 月 30 日（日）１部 13:30～14:30
　　2 部 15:00～16:00

d）ボイブンバ

実施日　９月３日（日）14:00～14:30
場　所　中庭

パリンチンス市で行われるアマゾン最大の祭りボイブンバを企画展最終日に開催した。３５０名

の参加者は、音楽に合わせて一緒に踊った。

F　協力機関

後援　国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JST）
大泉町観光協会

協力　アマゾン研究所、NATURES PLANET　(株)フルッタフルッタ　独立行政法人国際協力機構（JICA）地球環境部　(株)クロックワークス　アクアセブンシーズ　(株)明治　古代オリエント博物館　藤原幸一　有井美如　長澤誠　松田恵子　安元彩佳　麻生和伸　山口吉彦　山口考子　下釜和也　大橋麻里子　沖野晃俊　中山正樹　萩原秀和

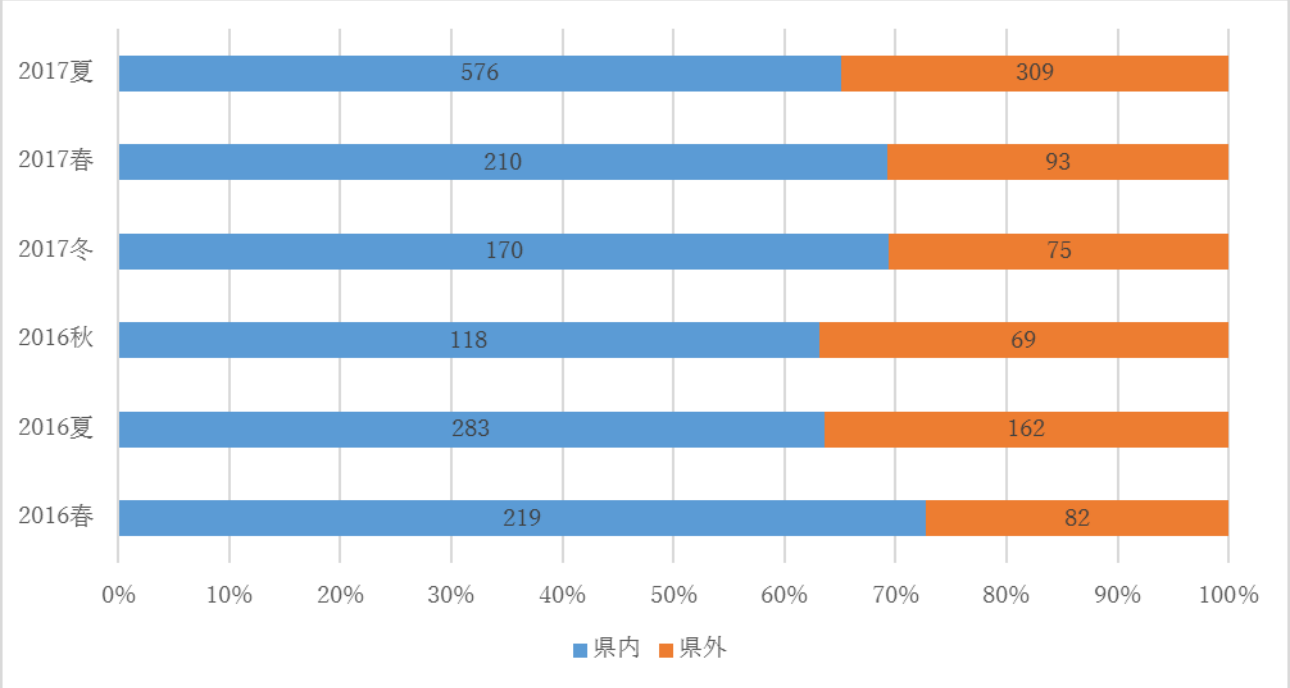
第５４回企画展「アマゾンはいま」アンケート集計結果（885 件）

1　基本データ 過去との比較

①　来館者数と会期、1 日平均来館者数

2017 年夏	【アマゾンはいま】	70、425 人	49 日	1437 人/日
2017 年春	【尾瀬を科学する】	34, 713 人	50 日	694 人/日
2017 年冬	【20 周年記念】	11, 792 人	32 日	369 人/日
2016 年秋	【T. rex エピソードⅡ】	43, 004 人	50 日	860 人/日
2016 年夏	【T. rex エピソードⅠ】	74, 447 人	64 日	1163 人/日
2016 年春	【よろい】	42, 495 人	51 日	833 人/日
2016 年冬	【ぐんまの自然のいま】	10, 263 人	31 日	331 人/日

②　住所



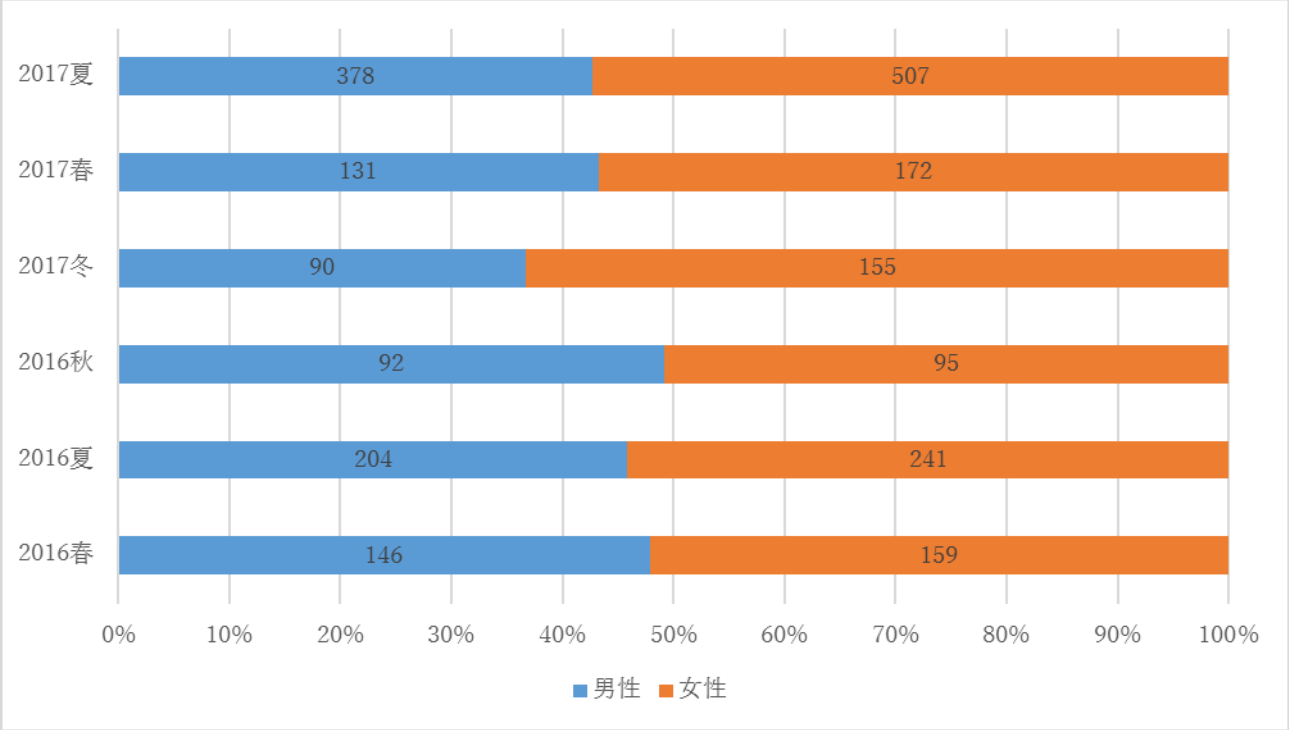
県内の主な市町村

高崎市（１５４）　前橋市（１２１）　富岡市（５１）　太田市（３９）　伊勢崎市（３１）
安中市（２４）　桐生市（１８）　藤岡市（１６）　渋川市（１２）　甘楽町（１１）
沼田市（１０）　みどり市（１０）
＊今回、東毛方面の来館者が増えた。

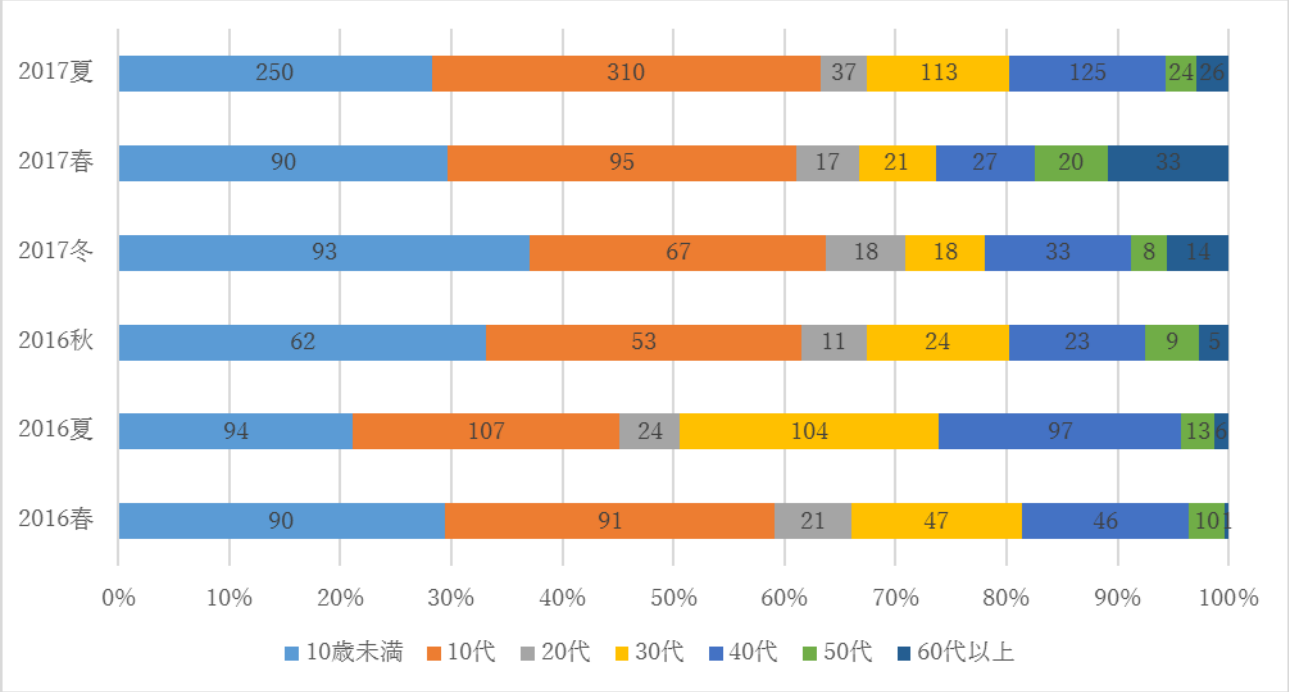
県外の主な県

埼玉県（１２１）　東京都（４７）　長野県（２７）　神奈川県（２３）　千葉県（１４）

③　性別

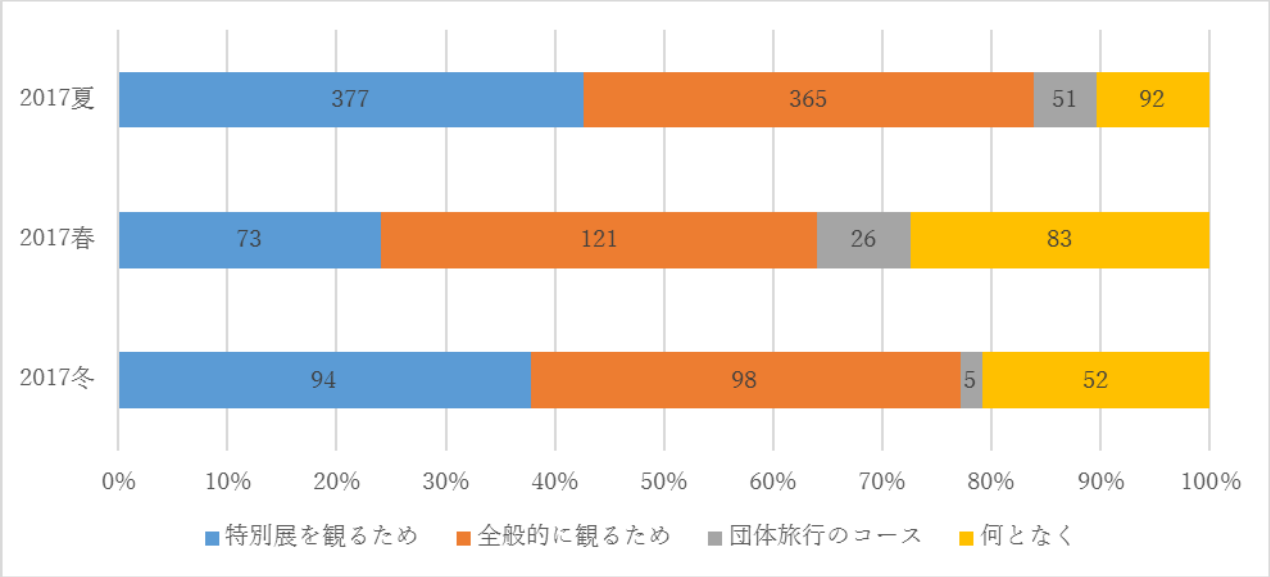


④　年齢



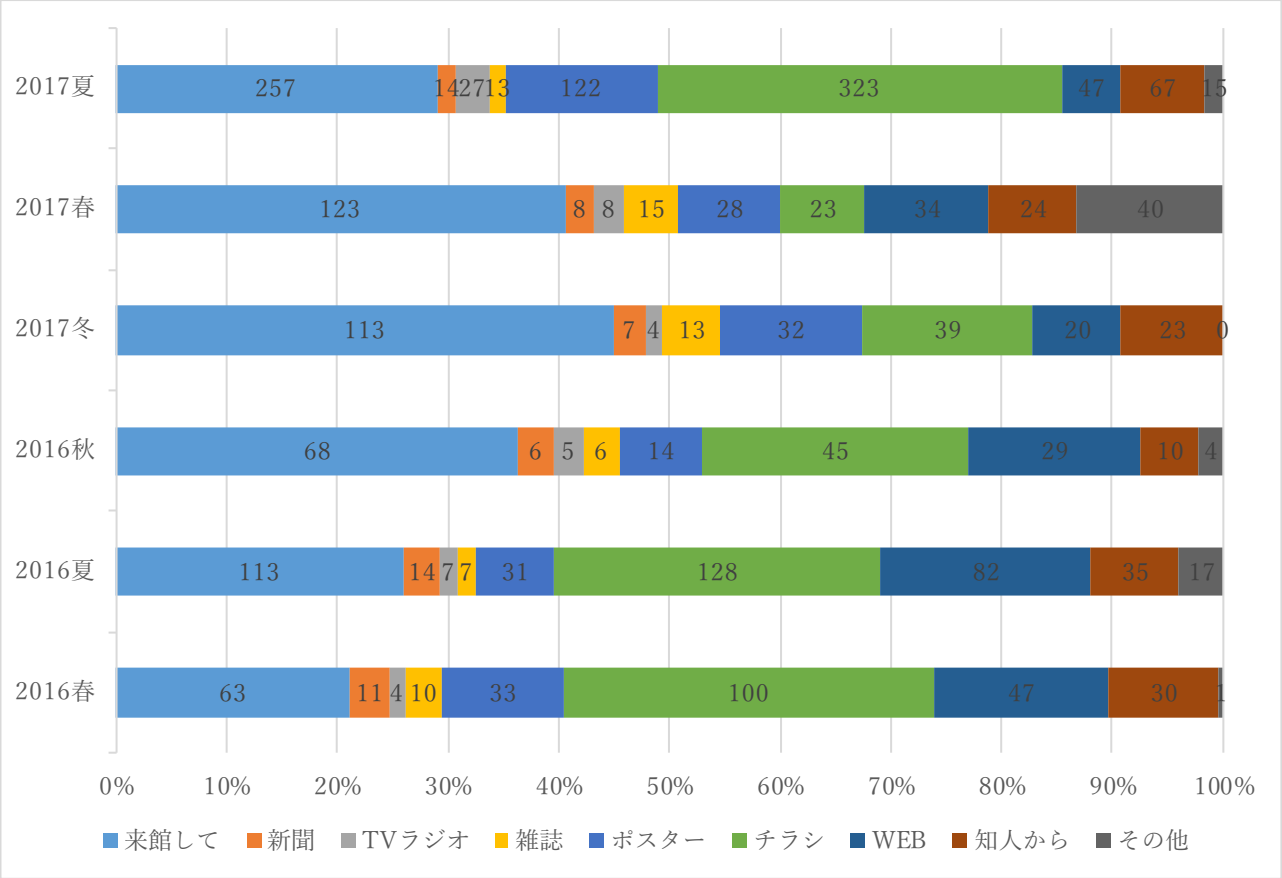
今回も、２０代の来館者は少なかった。ファミリーでの来館が多かった。

⑤　来館理由（2017 冬以前は、データなし）



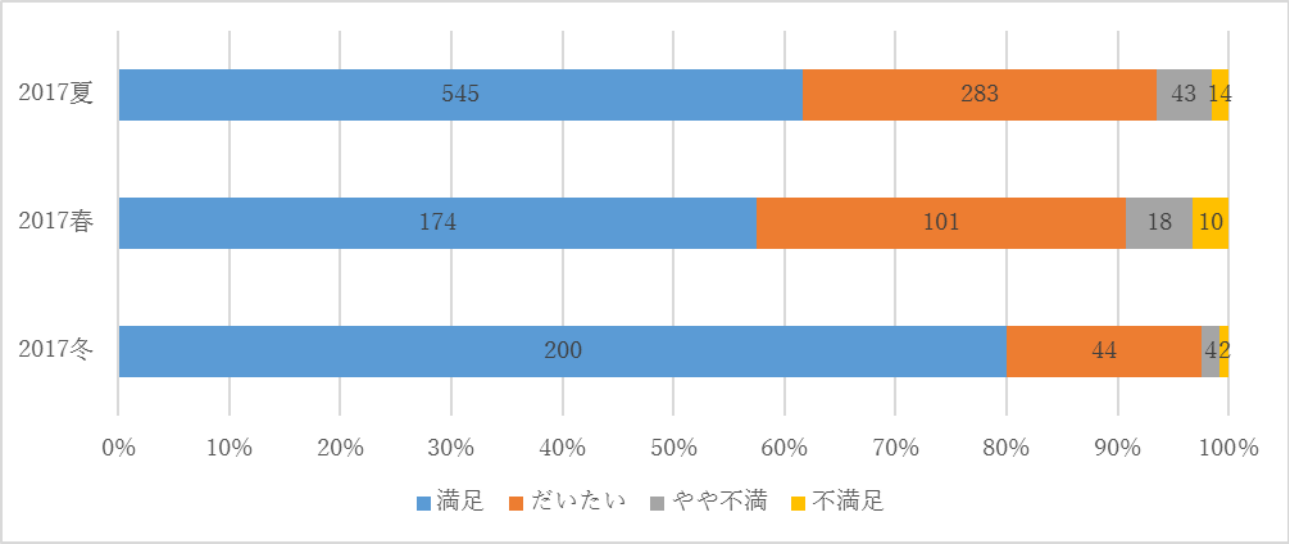
博物館の展示を観ようと意識して来られた方が増えた。

⑥　企画展（特別展）を知った情報源



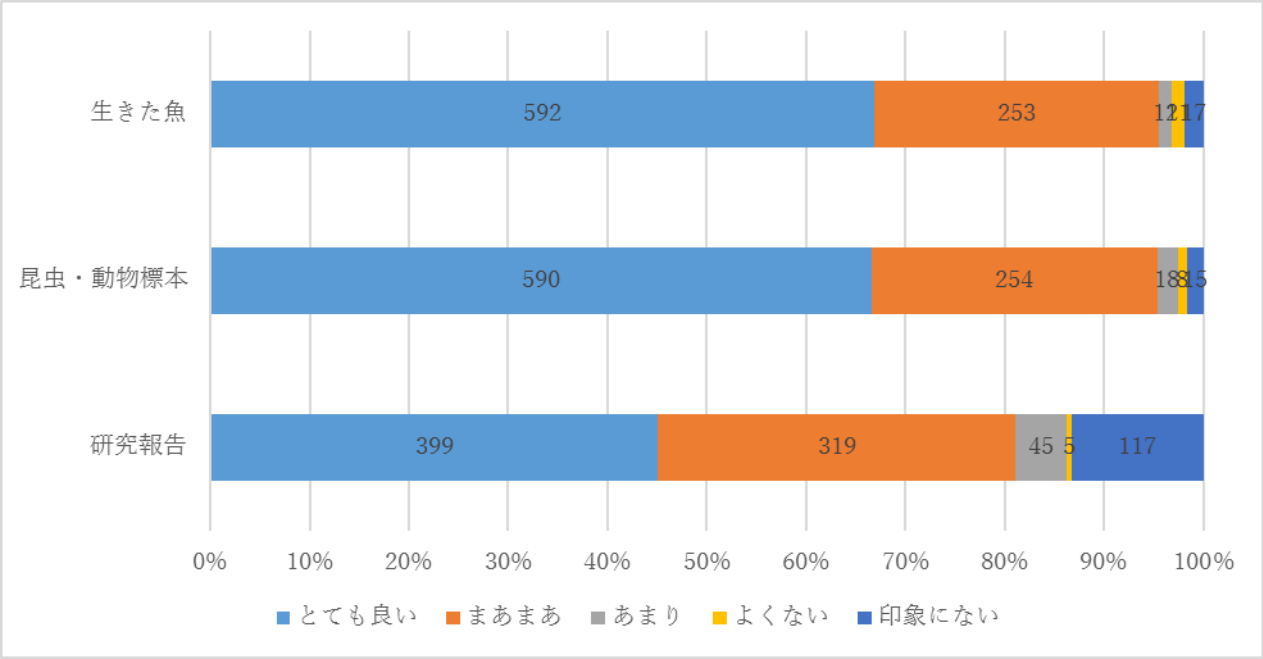
８８５件の情報のうち、**２１０件（２３．７%）**が学校から配布されたチラシをもとに来館したと答えていた。また、来館して企画展を知ったという人は減少した。県内の小学校児童全員へチラシを配布したのは効果があった。

⑦　企画展(特別展)全体の満足度（2017 冬以前は、データなし）



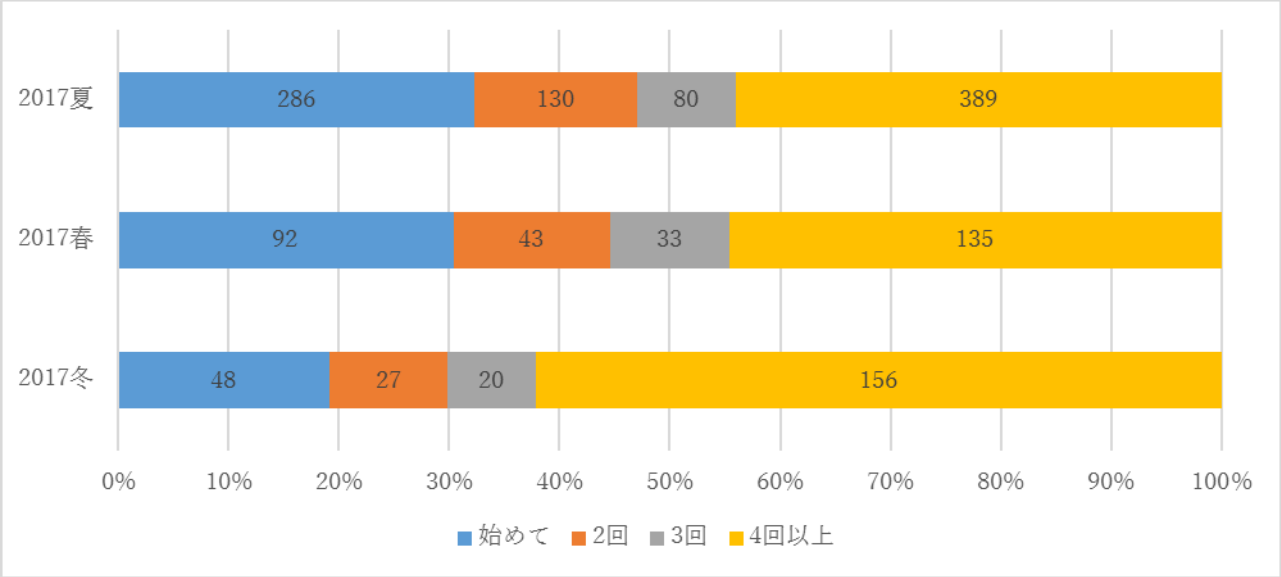
今回の企画展は、満足＋だいたい満足＝【満足】としてとらえると、**９３．６％**の人が満足としていた。

⑧　展示で印象に残った、良かった物



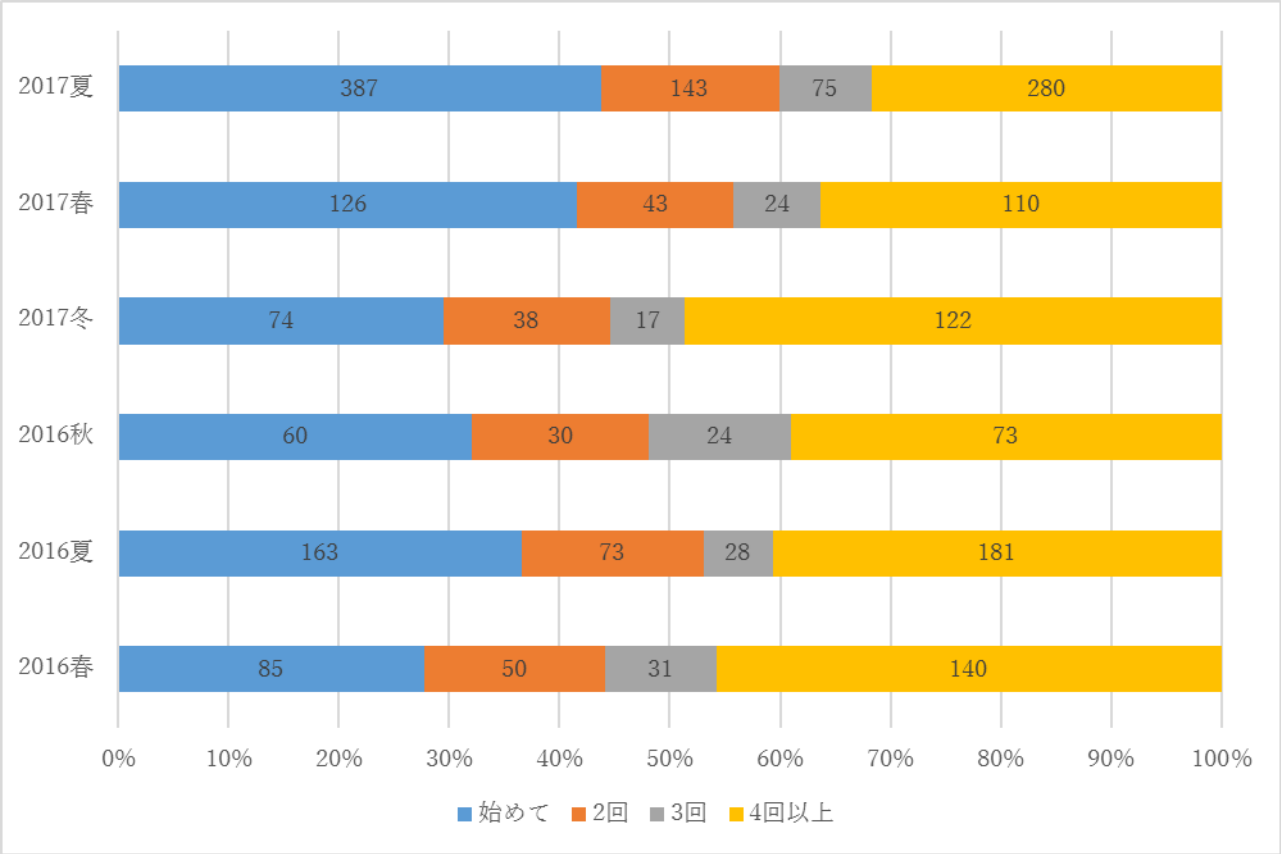
子どもは、生態展示、昆虫・動物標本を好み、研究報告について低い評価をしていた。

⑨ **博物館に来館されるのは何回目ですか。**



過去の企画展と比べても大きな差はない。

⑩ **博物館の特別展や企画展を観るのは何回目ですか。**



過去の企画展と比べても大きな差はない。

Ⅰ　アンケート

回答数：885 件

年代構成：10 歳未満 28%，10 歳代 35%，20 歳代 4%，30 歳代 13%，40 歳代 14%，50 歳代 2%，60 歳以上 3%

居住地：群馬県内 65%，県外 35%

来館回数（県内）：初めて 32%，2 回目 15%，3 回目 9%，4 回目 44%
企画展を何で知ったか：
来館して 30%，チラシ 36%，ポスター14%インターネット 5%，その他 35%
企画展の内容：満足 62%，やや満足 32%，やや不満 5%，不満 2%

③　第 55 回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」

A　趣旨

平野、段丘、渓谷、火山、山脈、滝など、絶景を目の前にした私たちはつい言葉を失ってしまう。ぐんまでは、このような素晴らしい景観を多くの場所で見ることができる。景観は、空気が地形を切りだした彫刻のようにも見えるし、空気という入れ物の中に壮大な造形作品が鎮座しているようにも見える。絶景の構成要素である地形は、空気や水などで削り取られたものの場合もあるし、火山のマグマから造られたり川・海の堆積作用で後から造られたりする場合もある。この企画展では、ぐんまの絶景・景観美を道標として、景観の成因（つまり地形・地質の成因）について紹介する。ぐんまの美しい景観を造る要因を「つく」・「もる」・「けずる」・「たまる」・「いろどる」の５つに区分して、それぞれ付加作用、火山活動・断層活動、風化・浸食作用、堆積作用、光や色の効果に関する地球科学的作用の理解を促すことを目的とする。

B　開催期間

平成 29 年 10 月 7 日（土）～平成 29 年 12 月 3 日（日）（50 日間）

C　展示構成

a）導入展示・エントランス展示

常設展示室出口となっている階段下から企画展示室への誘導の工夫として、湯檜曽川のラフティング風景を橋上から撮影した動画を床面スクリーンに投影した。導入部のスクリーンでは、展示イメージに合わせて選曲したテーマソング（Golden Youth「Seven　Seas」）にのせてぐんまの素晴らしい景観のイメージ動画をゲートのスクリーンに投影することで視覚的・聴覚的に誘導した。

導入展示は、本企画展の目玉である東京藝術大学 COI 拠点のアーティスト桐山孝司教授と桒原寿行

く 2 名と連携した作品「ダイダラの砂箱」を設置した。このハンズオン展示作品は、砂箱の砂を動かすことでリアルタイムにセンサーが砂の高さを読み取り、高さに応じて色を砂に投影するものである。この作品では、砂箱の上空に手をかざすことで、その直下に水を模した青色が投影され、その部分は砂の傾斜に合わせて標高の低い方へと視覚的に流されていく。展示のメカニズムや使い方の説明パネルは意図的に省くこと及びこの展示物付近に看視員を１名配置することで、「会話の生まれる展示室」と「楽しみながら驚き・気づきを誘える展示物」を演出した。

また、展示全体の基礎知識として、岩石を構成する要素である主な鉱物を紹介した。岩石・鉱物という用語は一般的に馴染みづらいものであるため、本企画展の中では岩石を「石」と呼び、鉱物を「宝石」と呼ぶことで、科学的用語の使用法より一般的に内容が浸透しやすいように工夫した。

b）つく　－海底の造形教室－

日本の基盤の大部分は、過去に海洋底で形成された岩石が海洋プレートとして海溝へと運ばれて、沈み込む際にはぎとり・おしつけの作用で日本に付いたものであり、これを付加体と呼ぶ。付加体が表層に顔を出している地域の特徴は、海洋性の岩石がブロックとして岩峰や断崖を形成することである。このコーナーでは、写真家長瀬正太氏の大型写真パネルをアクセントに、実物の海洋性岩石の標本、実体顕微鏡で見る放散虫、火打石として利用されていたチャートの火打石体験などを紹介した。

c）もる　－地球の息吹－

このコーナーでは地球のダイナミックな活動を取り上げて、活断層の剥ぎ取り標本と当館の火山岩コレクションを火山の景観写真パネルとともに展示した。活断層である平井断層の剥ぎ取り標本は、大人８名でようやく持ち上げられる重さを１枚として合計４枚をつなぎ合わせた巨大な標本である。この標本は取り扱いが難しいため、今まで展示されたことはなかったが、この度初めて展示で活用され、企画展示室導入のアイキャッチとして印象深いものとなった。また、火山岩コレクションは１つにつき大人１名がなんとか担げる程度の大きなサイズのものを展示し、「もる」景観を作るものとして紹介した。また、県のスポーツ振興課と連携することで、「ぐんま県境稜線トレイル」を動画と大型景観画像パネルで紹介するとともに、パンフレットを自由配布して普及に努めた。

d）けずる　－自然の彫刻美－

景観を形作り、今も継続的に景観を変化させているのが「けずる」に相当する風化・浸食作用である。このコーナーでは岩石の削れやすさ、浸食の原因である雪、氷、水を含む大型景観画像パネル、浸食作用に伴う災害などを紹介・展示した。段丘地形はこのコーナーと次の「たまる」のコーナーを組み合わせた内容であるため、日本一の段丘地形と称される沼田の段丘地形の大型景観画像パネルを展示し、そこにダイダラの砂箱を設置した。このコーナーに設置したダイダラの砂箱は、導入部の仕組みと同じであるが、砂の高さに応じて投影するのは色ではなく、等高線という仕様の作品である。災害写真は、県の砂防課及び河川課の協力を得た。また、本企画展示で行ったいくつかの当館初めての試みのひとつとして、360 度全球カメラで撮影した「絶壁の景観」を VR ゴーグルで味わってもらうコーナーを設置した。展示期間中も継続的に県内の絶壁の景観を取材し、隔週で画像を更新した。こ

れに加えて、初めてギアエッジパネルより上の展示室壁面に幅約７メートルの巨大スクリーンを設置して、ぐんまの素晴らしい景観の数々を放映した。通常は簡素で展示利用がほとんどされない壁面上部を企画展示スペースとして有効利用した。

e)たまる　－大小の粒たちの旅路－

風化・浸食作用を受けて生まれた大小の岩石の粒たちは、主に水のはたらきによって下流方向へと運ばれ、どこかで堆積する。堆積した粒たちの旅はそこで終わる場合もあるが、たいていの場合は削る作用と水のはたらきで更に下流方向へと旅を続ける。たまる作用を体験できるように、長さ 1.5 メートルの堆積実験用スタンド付きアクリル円柱と、川で運ばれ堆積する作用を体験できるアクリル流路を製作し、体験型ハンズオン展示とした。景観としては、尾瀬ヶ原や日光白根山周辺の堰止湖の写真パネルを展示したほか、群馬県が誇る３つのラムサール条約湿地を紹介した。また、聴いてみようのコーナーを設置し、鳥の楽園である早朝の渡良瀬遊水地のようすが聴けるヘッドフォンを設置した。

このコーナーと次のコーナーの間には、素晴らしい景観と人の生活を地球の一部として表現したアーティスト康夏奈氏による作品「地質山」を展示した。「地球の一部をショベルでざくっと持ってきたら・・・」というコンセプトで制作したとされるこの作品では、地球の断面、人の営み、自然景観の多くの要素が表現されている。

f)いろどる　－色彩に溢れる世界－

エピローグに繋がる最後のコーナーでは、光がなければ景観を楽しむことができないため、光を景観の演出家と位置づけ、光の作用と光によって彩られる植物や神秘的に見える奥四万湖及び草津白根山の湯釜の水などを紹介した。企画展示室出口の上方には、「けずる」のコーナーと同様に約７メートルの巨大スクリーンを設置し、草津町の嫗仙の滝の映像を音声つきで投影した。

本企画展示では、体験コーナーとして恒例のぬり絵コーナーは設置せず、その代わりに手彫り消しゴムハンコアーティストの横澤紗恵子氏と連携して、群馬の景観や自然に関わる 18 種類のオリジナルスタンプを制作してもらうことで、自由にハガキをデザインするスタンプコーナーを設置した。

D 展示点数

250 点（内当館の資料 221 点）

E　関連事業

a）企画展ワークショップ

題目：「ドコの星から来たの？ 自分の星を作って、みんなで宇宙にしよう！」

講師：康 夏奈（アーティスト）

日時：2017 年 10 月 8 日（日）13：30～15:30

場所：当館実験室

内容：山に登ったり海に潜ったりという風景の記憶を作品にする今注目のアーティスト康夏奈氏と、風景がたくさんつまった「自分だけの星」を紙粘土とアクリル絵の具でつくる。

参加人数：30 名

b)企画展講演会

題目：「世界10大トレイルとニッポンのロングトレイル」

講師：シェルパ斉藤（紀行作家・バックパッカー）

日時：2017年10月15日（日）13：30～15:30

場所：当館学習室

内容：野営道具を背負って歩くバックパッキングスタイルで国内外を旅している紀行作家のシェルパ斉藤氏が、世界各地のトレイルの旅を旅先で撮りためた写真とともに語る。さらに世界に誇れるニッポンのロングトレイルも紹介する。参加者に自然の中へ自らの足で歩み出していく旅の魅力を伝授する。

参加人数：95名

c)学芸員によるギャラリートーク

担当：菅原久誠（理学博士・当館学芸員）

日時：2017年10月21日（土）、11月12日（日）、11月25日（土）各回13:30～

※11月25日のみ英語でギャラリートークを行います。

場所：企画展スペース内

内容：企画展の主担当である菅原学芸員が、裏話を交えてぐんまの景観が素晴らしい理由についてギャラリートークを行う。

参加人数（10月21日）：9名

参加人数（11月12日）：12名

参加人数（11月25日）：1名

d)ぐんまの絶景バスツアー

案内：みなかみエコパークガイド2名

日時：2017年11月5日（日）6:50～18:00

場所：谷川岳一ノ倉沢周辺

内容：2017年6月認定のみなかみユネスコエコパークサイト「一ノ倉沢」の絶景とみなかみの自然を堪能します。

費用：50円（保険代）

参加人数：18名

F　後援

産総研 地質調査総合センター、上毛新聞社、NHK前橋放送局、群馬テレビ株式会社、FM GUNMA

G　機材協力

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

H　協力

東京藝術大学COI拠点、（一社）草津温泉観光協会、（一社）中之条町観光協会、太田市観光協会、浅間山ジオパーク推進協議会、ジオパーク下仁田協議会、日本製紙総合開発株式会社（丸沼高原スキー場）、嬬恋村、みなかみ町、群馬よいじゃねぇ（土井一樹、茂木達也、小暮哲也）、康 夏奈、佐藤真由美、下谷 通、関 栄、千明靖久、長瀬正太、生巣愛莉、藤野麻子、安江 健、ねぎ坊、Golden Youth、群馬県県土整備部河川課・砂防課、生活文化スポーツ部スポーツ振興課 （以上、敬称略）

I　アンケート結果

第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」アンケート集計結果

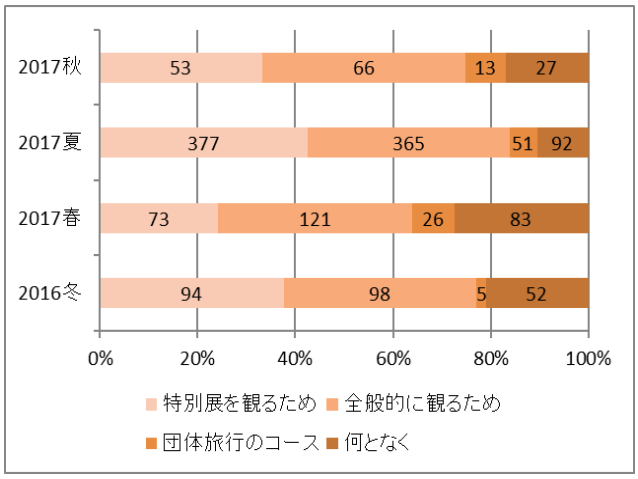
（159 件）

1　基本データ 過去との比較

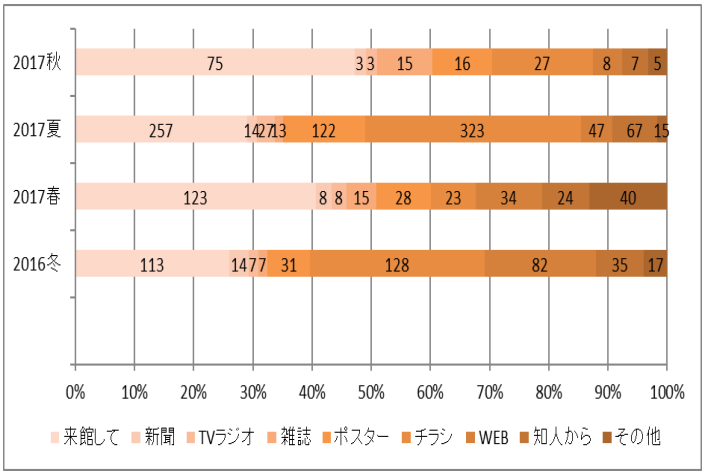
①　来館者数と会期、1 日平均来館者数

2017 年秋	【ぐんまの景観】	36, 232 人	50 日	725 人/日
2017 年夏	【アマゾンはいま】	70、425 人	49 日	1437 人/日
2017 年春	【尾瀬を科学する】	34, 713 人	50 日	694 人/日
2016 年冬	【20 周年記念】	11, 792 人	32 日	369 人/日
2016 年秋	【T. rex エピソードⅡ】	43, 004 人	50 日	860 人/日
2016 年夏	【T. rex エピソードⅠ】	74, 447 人	64 日	1163 人/日
2016 年春	【よろい】	42, 495 人	51 日	833 人/日
2015 年冬	【ぐんまの自然のいま】	10, 263 人	31 日	331 人/日

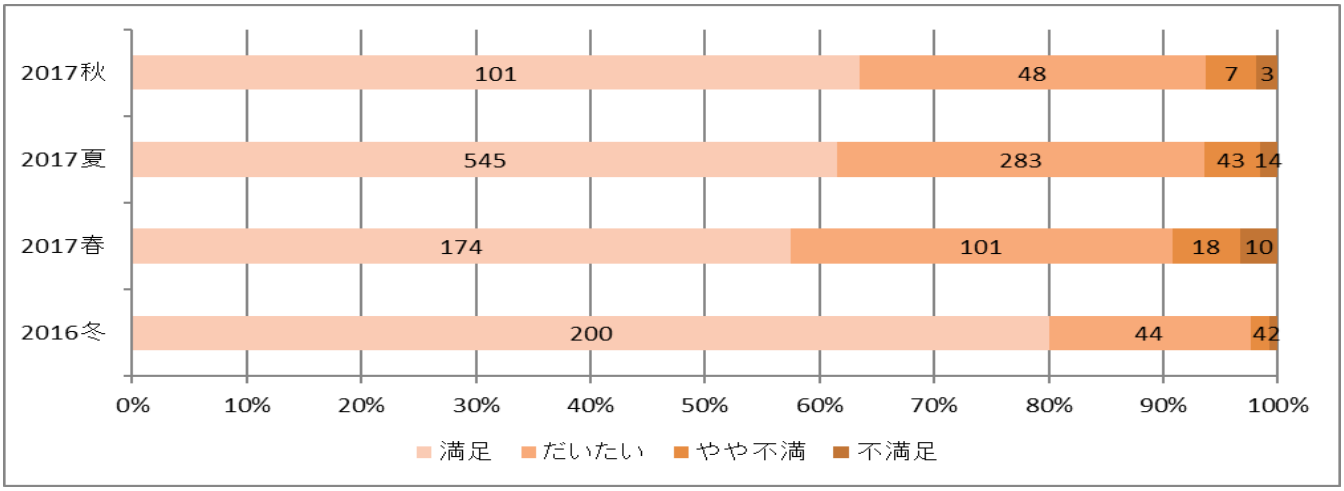
②　来館理由



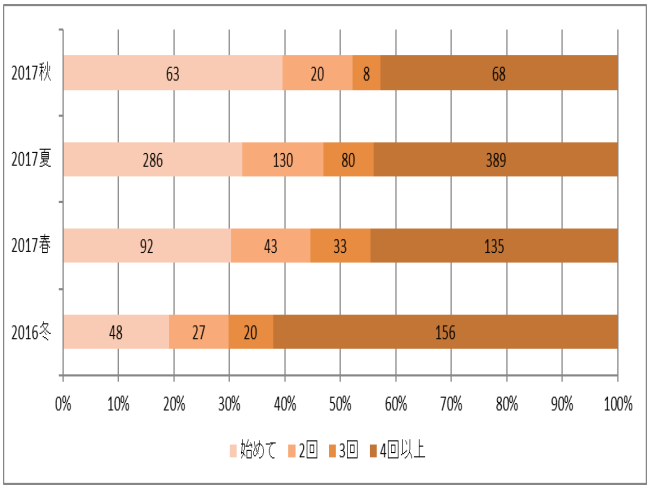
③　企画展（特別展）を知った情報



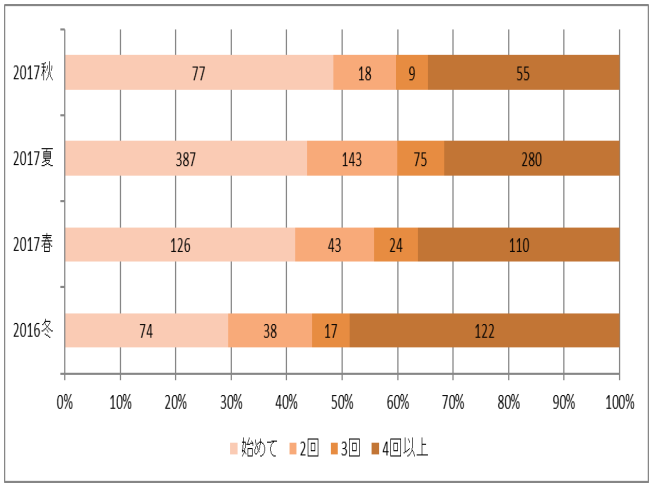
④　企画展（特別展）全体の満足度



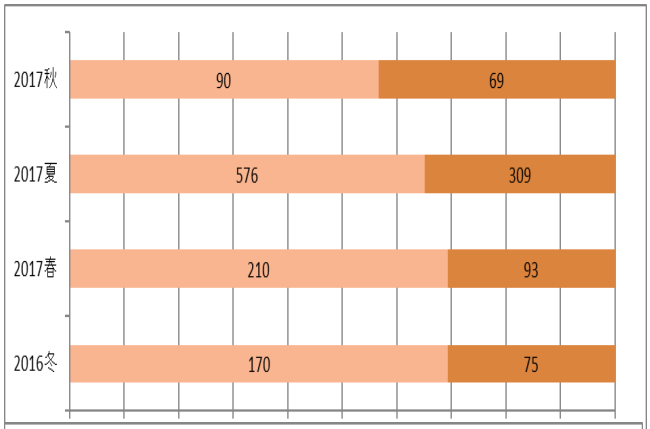
⑤　自然史博物館に来た回数

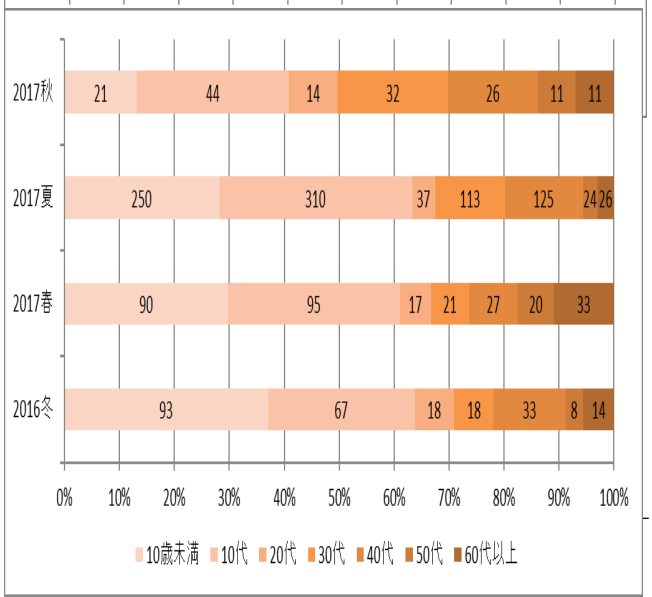


⑥　企画展や特別展を見た回数

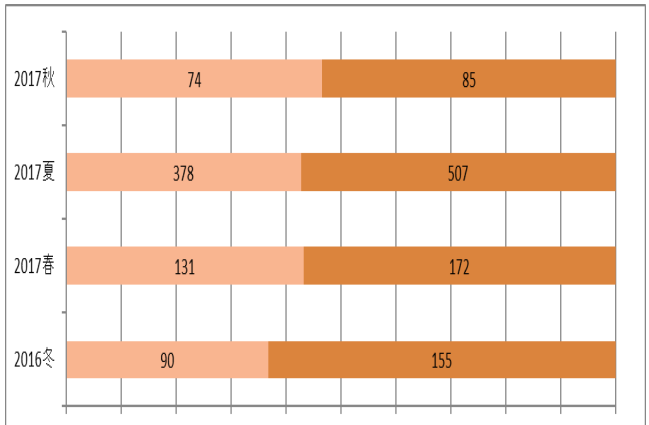


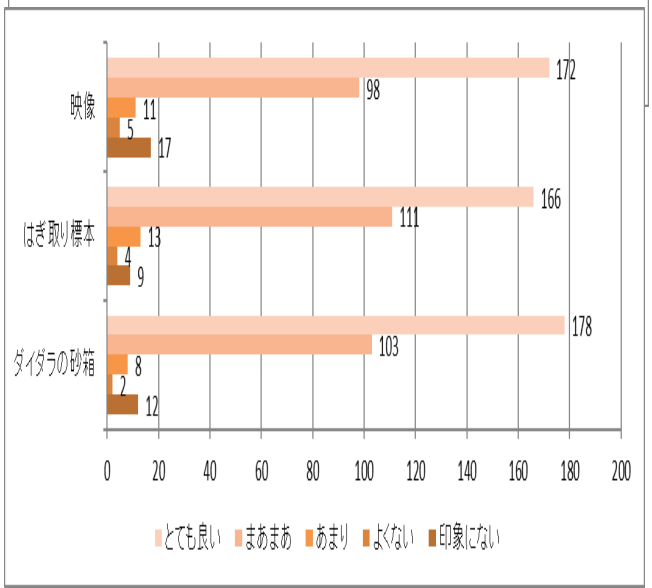
⑦　住所





⑧　性別

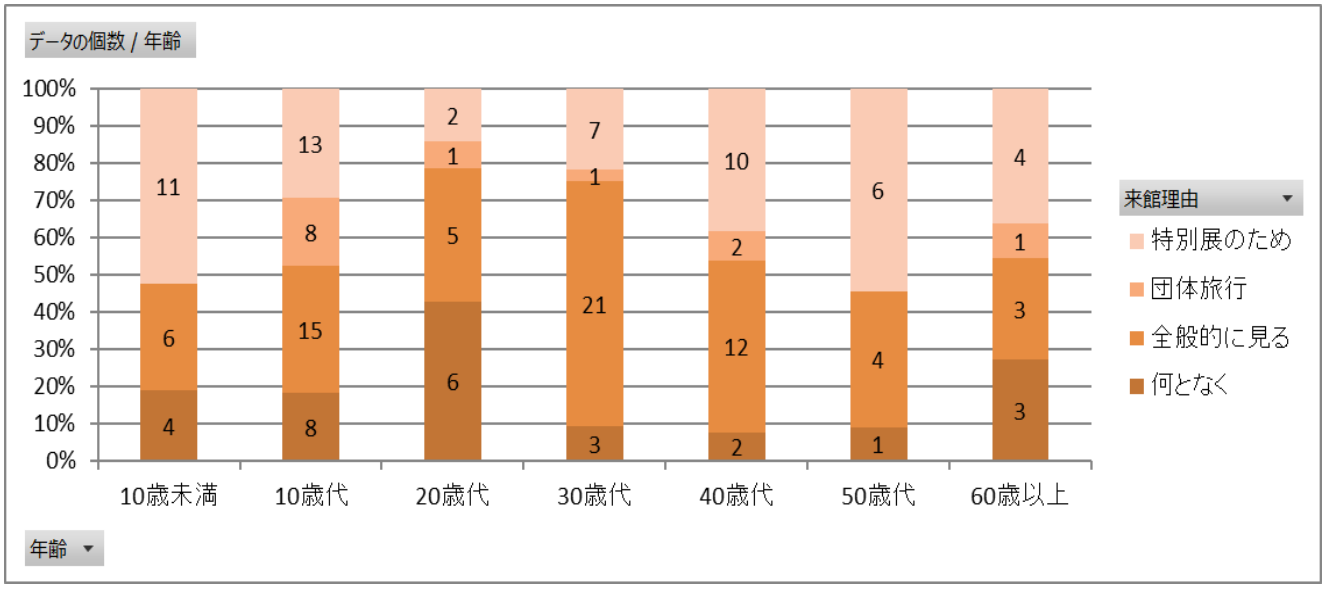




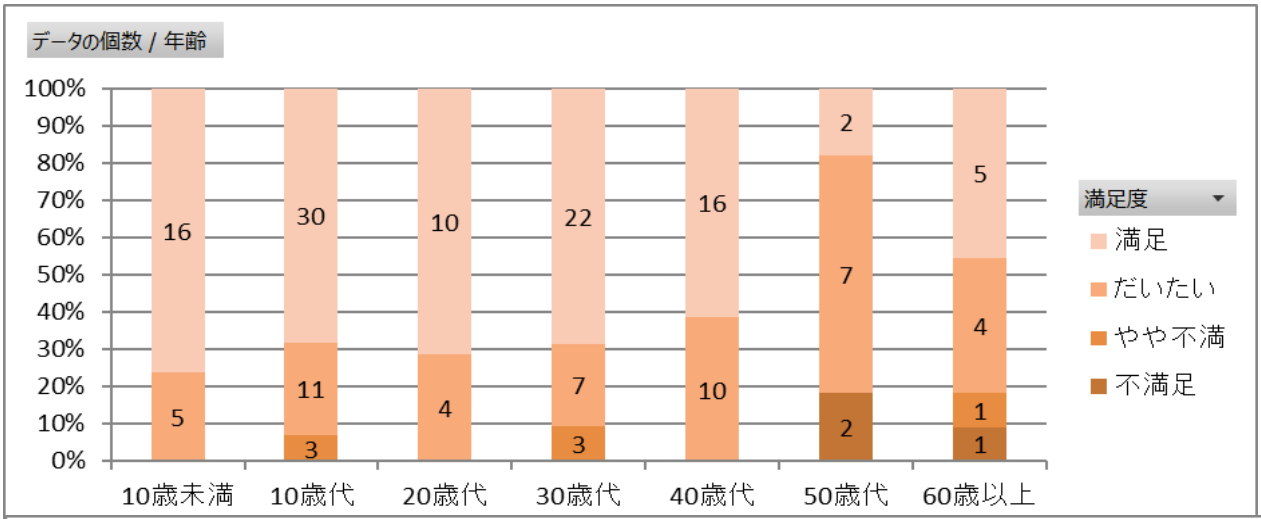
来館者数 36,232 人のうち 159 人を対象としてアンケート調査を行ったため、信頼率を 95%に固定すると要求精度を 7.77%の結果を得ることができた。さらに精度よく要求精度 5%と設定して分析したい場合、381 人にアンケートを行う必要がある。

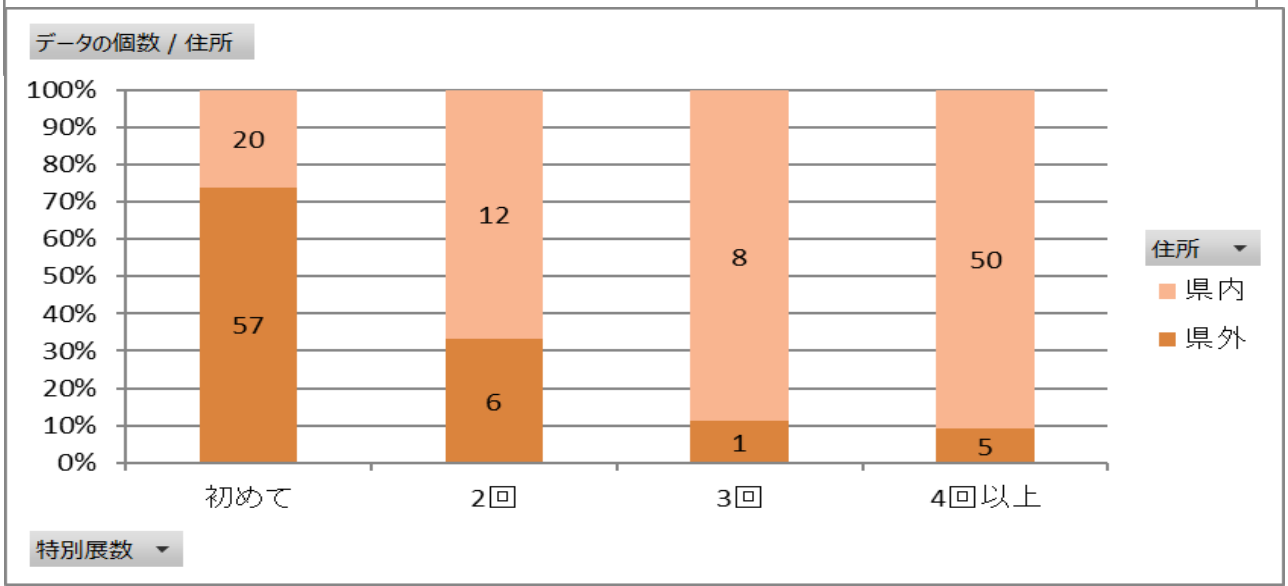
2　年齢とのクロス集計

（1）来館理由

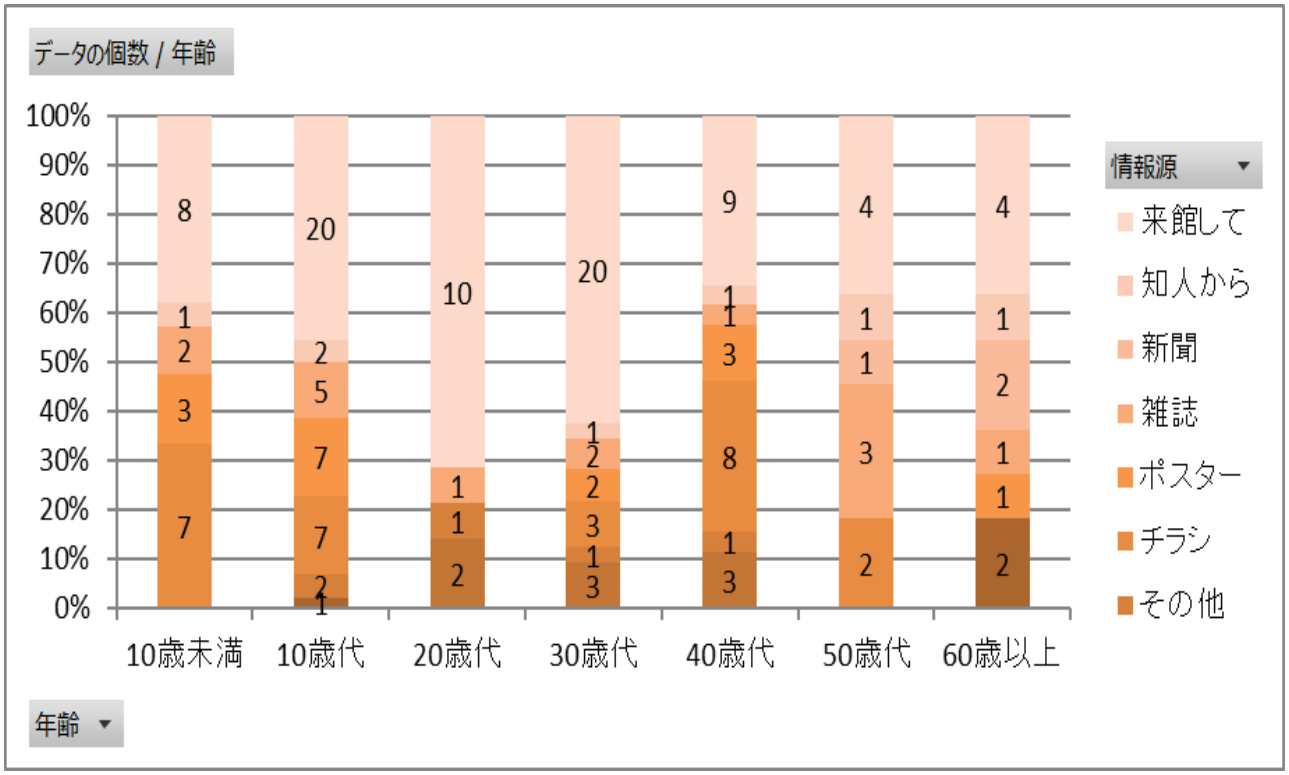


（2）　特別展の満足度





（４）　情報源



3　過去５年間の秋期企画展との統計比較に基づく考察

本企画展では会期前半の一部以外は好天が多く、秋の企画展で入館者数に大きな影響を学校団体の割合は、秋の企画展過去5回と比較してワースト2位であったにも関わらず、全体の入館者数は良好な結果を残すことができた。

集客戦略のひとつとして、ターゲットを20代から30代に絞って実施したが、大人の入館者数のみが伸びていたわけではなく、学校団体以外の子どもの入館者数も伸びており、過去5回の秋季企画展と比較して、20周年の恐竜展に次ぐ入館者数を記録した。

展示内容の国際化の試みとして、初めてパネル・ラベルなどを完全英語併記とし、ALTの学校教員や群馬大学の留学生に広報したが、目に見えて外国人の入館者は増加していなかったと報告を受けている。ただし、当館では外国人来館者数の統計データはとっていないため、展示会場スタッフ複数に対する聞き取り調査に基づく。また、担当学芸員が英語で案内するギャラリートークイベントを開催したが、外国人参加者はいなかった。これは、展示内容やイベントの国際化を計っても、適切な広報及び情報普及の時間が必要であることを表していると考えられ、オリンピックに向けた今後の国際化に関する計画の重要な参考となる。

④　第56回企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」

Ａ　趣旨

首都圏を潤し、日本における流域面積１位の川「利根川」は県民にとっては「身近な自然の１つ」であり「ふるさと」といった存在である。本館では常設展示として群馬県内の利根川を扱った展示はあるが、今回、県外の流域情報や人とのつながりなどについての展示も扱い、利根川と利根川流域に生きる生物とその現状を知ってもらうとともに、生物との関わり方も知ってもらうことを目的とした企画展を行った。また、山、森、里、川、海などの自然や環境を大切にしようとする心を県民に広く育むことも、もう１つの目的としている。さらに、利根川の過去と現状を知ることで、河川災害や火山災害などに対して私たち知っておくべき基礎的な情報の公開も目的の１つとした。

B　開催期間

2018 年 3 月 17 日（土）～3 月 31 日（土）（開催日数 13 日）

C　展示構成

a）導入展示・エントランス展示

エントランス展示は食材としてなじみ深く、しかし、世界的な絶滅危惧種であるウナギを展示した。ここには水槽を用意し、ウナギの生態展示を行った。また、3 月 38 日～30 日までの 3 日間は同所にてウナギのタッチプールを開催した。

企画展示室導入部(回廊)では、子供向けな導入として巨大アオウオの剥製(背比べができ、写真スポット場所)や利根川の源となる水滴を体験できる展示物、ぐんまちゃんが映る動画、ダムカレー食品サンプルなどを展示した。また、大人向けな展示として、前橋と利根川の歴史的な関係や利根川に架かるすべての橋などの紹介、群馬県内の利根川流域すべてのダムマップなどを紹介する展示をした。

b）利根川を河口より遡る展示

太平洋から遡る展示(銚子方面)では、汽水域に見られる魚の剥製展示のほか、ボラの幼魚、スズキの幼魚、クサフグ、アカエイの生体展示を行った。また、その上流域に相当するエリアではカメの剥製展示のほか、ニホンイシガメの生体展示を行った。さらに、利根川の中流域に相当するエリアでは魚の標本展示のほか、コイ、ニホンナマズ、ニホンスッポンの生体展示をした。

東京湾から遡る展示(江戸川)では、東京湾の深海ザメの剥製展示や三番瀬の干潟の生きものを標本による展示を行った。また、災害対策として通称地下神殿といわれる首都圏外郭放水路や堤防工事などを紹介するとともに、江戸時代の河川の付け替え工事や利根川を用いた水運を模型などで紹介することにより利根川と人の暮らしについての結びつきを伝える展示をした。

企画展示室内では、群馬の絶滅魚、サケの遡上、生息域を広げる国内外来種のヌマガエル、近年の科学的分析により明らかになったサクラマス、利根川源流部の奥利根地域や大水上山などを剥製、液浸、映像、音声など多様な方法で紹介するとともに、沼田段丘はアルミの切削模型を作成し、さわって認識できる展示物を用意した。

c）ニホンカワウソに関わる展示

日本では絶滅種となったニホンカワウソについて、明治時代の前橋市で捕獲･保存され、現在知られる中で国内唯一の液浸標本を期日と時間限定で特別公開できた。また、利根川支流に当たる大谷川

産のニホンカワウソの剥製、同じく桐生川沿いの洞窟で発見された頭骨の一部も展示できた。

d）利根川と私たちの生活の視点での展示

利根川の洪水災害では、群馬県内各市町村の作るハザードマップの確認を促す展示をし、火山災害では、地質図を基に過去の災害を知ることから、今後の災害に備える展示をした。

また、河川の汚染具合を調べる方法として、河川に棲む動物を活用する方法の紹介や、家庭で使用した水をきれいにしてから川に返すことを促す展示をした。

e）テーマのまとめとしての展示

今回の企画展は自然への入り口であるととらえ、本当の自然はそれぞれの場所にあるため、現地を訪れたくなるような展示物を複数用意した。この 1 つとして乗船体験のできるラフティングボートを展示した。また、ラフティングボートの背景に、利根川でラフティングを楽しむ人たちが映る画像を使うことで、来館記念になるような写真スポットを用意した。

今回の企画展はぐんまちゃんとコラボを行うことで、利根川流域各地の紹介やそれぞれの資料紹介はぐんまちゃんを通して伝えるスタイルを選択した。また、子供向けの展示のまとめとして、ぬりえの原画にぐんまちゃんを採用し、ぬりえの余白に「ぐんまちゃんのお願い」として企画展のメッセージを書き込み、子どもたちにの目にとまりやすくする工夫を施した。

D　展示点数：535 点（ただし、生体展示のボラの幼魚は除く）（内当館収蔵資料数 264 点）

E　関連事業

a）　ワークショップ

題目「サケ一匹から切り身鮭まで、すべて見せます、さわれます」

講師　群馬県水産試験場（久下敏宏、田中英樹、重田英男）

実施日　3 月 21 日（水･祝）10 時 00 分～12 時 00 分

参加者　27 名

利根川を通じて群馬県にサケが遡上していることを伝えるとともに、普段見る機会がないサケ一匹の観察し、そののち、解剖を進めながら各部位の解説を聞き、最後には切り身鮭になるまでを学んだ。

b）　特別展示

「群馬県初公開！　おかえり前橋産カワウソ」

実施日　3 月 17 日（土）9 時 30 分～12 時 00 分

企画展オープニングセレモニー終了までは、E コーナーカナダカワウソ標本の前で展示し、企画展オープニングセレモニー終了後からは、企画展示室内の所定場所で展示した。

c）　特別展示

「ウナギのタッチプール」

実施日　3 月 28 日（水）～30 日（金）

エントランで実施したため、参加者数はカウントしていない。

d）　イベント

「ぐんまちゃんに会える＠利根川の企画展」

実施日　毎週土曜日（3 月 24 日、31 日）　9 時 30 分～10 時 00 分、10 時 30 分～11 時 00 分

エントランスやもぎり周辺で実施。来館者のお出迎えのため、参加者数はカウントしていない。

F　後援

群馬テレビ株式会社、上毛新聞社、株式会社エフエム群馬、株式会社ラジオ高崎

G　協力団体（順不同）

福島大学、群馬大学、国立科学博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、栃木県立博物

館、群馬県立歴史博物館、埼玉県立川の博物館、千葉県立関宿城博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、富山市科学博物館、アクアマリンふくしま、国土交通省江戸川河川事務所首都圏外郭放水路管理支所、独立行政法人水資源機構沼田総合管理所矢木沢ダム管理所、独立行政法人水資源機構利根導水総合事業所、みなかみ町役場、前橋市役所危機管理室、前橋市教育委員会文化財保護課、前橋市立図書館、伊勢崎市役所、千代田町役場、玉村町役場、埼玉県久喜市役所栗橋総合支所、茨城県取手市、東京電力ホールディングス株式会社リニューアブルパワー・カンパニー奥利根事業所、群馬大学ワンダーフォーゲル部、群馬県山林種苗緑化協同組合、社団法人日本下水道協会、公益社団法人日本水環境学会、和亀保護の会、佐野子町カッパの手保存会、奥入瀬川鮭鱒増殖漁業協同組合、(一社)中之条町観光協会、みなかみ町観光協会、日本養鰻漁業協同組合連合会、武尊山観光開発株式会社水上宝台樹スキー場、株式会社鈴木商会奥利根スノーパーク、東洋プロセス、カッパCLUB、上州おにし道の駅(味楽)、道の駅八ッ場ふるさと館、むさしの自然史研究会、有限会社佐藤製作所、国陽工芸株式会社、内外地図株式会社、群馬愛石会（秋山 一成、新井 茂、飯島 忠、石井 郁雄、上原 一雄、小沢 繁夫、佐藤 栄一、下出 英明、関 定明、福島 光男、藤巻 和良、吉田 元之）、秩父石酔会(高橋稔）、ニッポンダム協会ダムマイスターおかん部会（NOW2000、夕顔）、群馬県広報課、群馬県河川課、群馬県下水環境課、群馬県内水面漁場管理委員会、群馬県下水道総合事務所、群馬県水産試験場、群馬県水産試験場川場養魚センター、群馬県林業試験場、群馬県館林土木事務所、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

H　協力者(50 音順)

新井 雅之、安藤 元一、飯野 耕治、井上 素子、岩田 雅光、潮田 好弘、小賀野 大一、加倉田学、河野 重範、菊地 如子、北爪 二郎、桐林 生武、久下 敏宏、久保 誠二、斉藤 裕也、佐野誠、重田 英男、四十万 智博、篠原 現人、関根 和伯、高橋 雅紀、田中 智大、田中 英樹、樽創、千明 靖久、土屋 勝、寺岡 誠二、寺本 萌華、中島 啓治、中村 庄八、西堀 智子、楡井尊、早川 由紀夫、林 光武、藤井 智子、藤田 宏之、松岡 栄一、松崎 令、松原 利光、丸山正樹、水澤 玲子、宮崎 重雄、森口 一、矢口 裕之、山崎 陽平、横田 雅博、吉川 和男、渡邉駿介　（以上、敬称略）

I　入館者数

平成 30 年 3 月 31 日までの入館者数 8,423 人

(3)　特別展示

①　ぐんまの自然のいま

A 趣旨

この企画では、群馬県内で長年にわたって地域に根ざして活動している自然保護、保全に携わる団体等や自然史博物館職員・ボランティア・特別研究員の活動成果を、収蔵実物標本等を活用しながら、ポスターやパネル等で紹介した。広く一般の県民に展示、教育普及することで、県民の自然史に関する好奇心・探求心を刺激し、地域の生物多様性の保全への関心を高めることを目的とした。更に、地域活動を支える新たな担い手を養成し、その担い手がさらに担い手を養成するという輪を創出した。

B　展示点数：約 500 点（うち博物館収蔵資料 460 点）

展示内容：

・各種団体、自然史博物館職員・ボランティア・特別研究員のパネルやパンフレット
・映像（動画）
・哺乳類・鳥類等の剥製、菌類標本、貝標本、植物標本、鉱物標本、羽毛標本
　ドイツ箱・昆虫標本、哺乳類の骨格標本

C　期　　間

平成 30 年 1 月 13 日（土）～2 月 18 日（日）（開催日数 32 日）

D 入場者数

12,068 人

E　関連事業

・ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017　　※詳細は、Ⅱ2（4）学会等の開催を参照

(4)　ミニ展示

①　ミニ展示「ミドリヒョウモンの雌雄モザイク」

A　趣旨

利根沼田の自然を愛する会の皆様から当館に寄贈された雌雄モザイク型のミドリヒョウモンを展示した。後半にはこの標本になった個体の生態映像も展示を行った。標本の左半分がメスで右半分はオス。雌雄モザイクは珍しい現象である。

B　開催期間

平成 30 年 1 月 13 日（土）～2 月 18 日（日）

② Ｃコーナー解説員カウンター展示内容

展示テーマ	実施期間	展示構成
キツネ	5 月 1 日～ 5 月 31 日	・世界のキツネ ・キツネの狩り ・キツネの食べ物 ・観察しよう ・キツネと私たち
ワレカラ	6 月 1 日～ 10 月 1 日	・ワレカラってどんな生き物？ ・どこにいるの？ ・観察しよう ・ワレカラの生態 ・藻場の生態系
知っていますか？ぐんまの〇〇	10 月 3 日～1 月 31 日	・「ぐんまの〇〇」ってどういうこと？ ・「ぐんまの〇〇」はこれだ！ ・あなたが選ぶ「ぐんまの〇〇」は？ ・10 月 28 日は群馬県民の日
チョウの翅	2 月 1 日～5 月 31 日	・チョウの翅はどうなっているだろう？ ・翅の持つ役割は何だろう？ ・鱗粉ってどんなものだろう？ ・鱗粉に水を垂らしたらどうなるだろう？ ・翅の機能はどのようなところで活用されているだろう？ ・世界の美しいチョウの翅

Ｃコーナー解説員カウンター展示風景写真

「キツネ」

「ワレカラ」

「知っていますか？ぐんまの〇〇」

「チョウの翅」

(5)　共催展示

ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017　　※詳細は、Ⅱ2（4）学会等の開催を参照

２　教育普及

平成 29 年度は、教育普及事業および学校支援において、のべ 16,822 回の事業を開催し、59,826 名の参加者を得た。その内訳は、以下のとおりである。

（１）教育普及事業

① 解説員対応

ア　展示解説（一般向け）

常設展示室並びに企画展示室の解説は、時間を決めて行う「定時解説」と来館者の質問に答えたり、解説員から声をかけて説明したりする「随時解説」を実施した。「定時解説」は、常設展示室内を、Ａコーナー(地球の時代)、Ｂコーナー(群馬の自然と環境)、2 階(ダーウィンの部屋、自然界におけるヒト、かけがえのない地球)の 3 つに区分し、それぞれの定時解説時間は 30 分で 1 日３回実施した。企画展開催中は、企画展の定時解説（30 分）を加えて行った。

月	開館日数	定時解説実施回数	常設展定時解説参加者	企画展定時解説参加者	定時解説参加者	一日平均参加者数	随時解説回数	随時解説参加者
4	26	75	150	65	215	8.3	746	1701
5	27	61	105	35	140	5.2	1651	4137
6	19	13	42		42	2.2	864	2156
7	27	62	143	109	252	9.3	2192	5337
8	31	94	278	221	499	16.1	3432	8453
9	26	55	210	55	265	10.2	1201	2894
10	26	50	168	52	220	8.5	1803	4804
11	26	64	136	54	190	7.3	1073	2544
12	9	19	78		78	8.7	285	715
1	23	29	108		108	4.7	613	1464
2	20	36	95		95	4.8	757	1882
3	27	48	123	31	154	5.7	1005	2541
合計	287	435	1618	640	2258	7.9	15622	38628

※対面アンケートを 50 人に実施（満足度結果：満足～とても満足：100%）

イ　ビデオ上映会（一般向け）

自然に対して興味関心を持つきっかけとなることを目的として、参加無料のビデオ上映会を行った。対象は、子どもや家族連れとし、上映内容も自然に関係する小学校低学年用のものを多くした。毎週土曜日の午前 11 時と日曜日・祝日の午前 11 時、午後 2 時に上映した。また、夏期休業中は連日午前 11 時、午後 2 時に上映した。ただし、上映場所である学習室を他の行事で使用する場合は上映を行わなかった。

月	上　映　作　品	上映回数	参加者数
4	「尾瀬～この自然を未来に～」　GW特別期間） 「ディズニーアニマルワールド「カンガルー」	13	94
5	「ディズニーアニマルワールド「イヌ」　GW特別期間） 「ディズニーアニマルワールド「カンガルー」	19	426
6	「自然なぜなに？ＤＶＤ図鑑「トノサマバッタ」	7	76
7	「どうぶつせかいりょこう」	25	861
8	(前半)「まんが日本昔ばなし－梨山の大蛇・念仏の鼻 (後半)「恐竜、化石を求めて」	31	1582

9	「まんが日本昔ばなしー梨山の大蛇・念仏の鼻」	13	297
10	「風のこころ」	13	108
11	「ビジュアル博物館ー骨格ー」	16	150
12	「生命大躍進。そして、目が生まれた」	6	30
1	「かしき長者・ソラ豆の黒いすじ」	19	329
2	「自然なぜなに？ＤＶＤ図鑑アリ」	14	217
3	「まんがイソップ物語　田舎ネズミと都会ネズミ　父と娘たち」	13	188
合　　計		189	4358

ウ　ポイント解説（一般向け）

一般向けの「ポイント解説」を２階展示室から１階Ａコーナーの恐竜を見下ろす位置から行った。恐竜について 10 分程度の解説をした。

月	ポイント解説実施回数	ポイント解説参加者	１回平均参加者数
4	6	30	5.0
5	3	13	4.3
6	3	11	3.7
7	9	63	7.0
8	2	5	2.5
9	6	35	5.8
10	11	72	6.5
11	11	67	6.1
12	5	24	4.8
1	6	18	3.0
2	0	0	0
3	5	19	3.8
計	67	357	5.3

エ　紙芝居（一般向け）

当館に来館する子育て中の親子を対象に、自然に対して興味関心を持つきっかけとなることを目的として、参加無料の一般向け「紙芝居」を学習室で実施した。内容も自然に関係する幼児向けのものを多くした。土曜日の午後 2 時 15 分に実施した。

月	紙芝居実施回数	紙芝居参加者	１回平均参加者数
4	5	55	11.0
5	4	89	22.3
6	3	63	21.0
7	5	86	17.2
8	4	90	22.5
9	5	99	19.8
10	4	84	21.0
11	4	125	31.3
12	2	43	21.5
1	4	43	10.8
2	4	82	20.5
3	5	90	22.5
計	49	949	19.4

オ　スポット解説（学校向け）

学校等の団体を対象に「スポット解説」を実施した。スポット解説は、引率者と事前の打ち合わせを行い、特定の展示資料について 15 分程度の解説を行った。

計　実施数 55 回　3775 名

内　　容	団体数	内　　訳
恐竜 カマラサウルス	55	幼稚園・保育園0　小学校 47 特別支援学校・学級2　　その他 6
尾瀬	4	小学校 2　中学校 1　その他 1
キリンとゾウ	1	幼稚園 1
館内一周解説	0	
AコーナーBコーナー解説	0	
飛ぶ種	1	小学校 1

カ　ビデオ上映会（学校向け）

学校等の団体を対象に「ビデオ上映会」を実施した。ビデオ上映会は、引率者と事前の打ち合わせを行い、自然史に関係する内容について上映した。

計　実施数 19 回　1395 名

団体数	内　　訳
19	小学校 15　幼稚園 4

キ 解説員研修

展示解説の充実と資質向上のため、解説員の研修を以下の通り実施した。

・第５４回企画展研修
　６月１３日、７月７、１４、１９，２０，２１日
・生物系野外研修（野鳥観察）　６月１４日
・職員全体研修（接遇研修）　　６月１４日
・第５５回企画展研修
　９月２２日、９月２９日、１０月６、１１、１２、１３日
・常設展示解説研修　１２月２７日
・危機管理研修１２月２７日
・展示更新コーナー（Ｄコーナー）解説研修　１２月２８日
・解説業務改善のための協議　１２月２８日
・第５６回企画展研修
　２月２０日、３月９日、３月１６、２１、２２、２４日
・救命救急講習　３月１０日（新人解説員１名）

② ファミリー自然観察会

群馬県内の自然についての理解を深めるために、県内各地や博物館周辺を会場として自然観察会を開催し、家族で自然

に親しむ機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月23日(日)	化石さがしに 挑戦しよう	吉井運動公園周辺の鏑川河川敷で化石の観察と採集を行った。	学芸係 髙桒祐司	28
6月25日(日)	浅間山北麓ジオパークの自然にふれよう －夏休み自由研究教室（1）－	鬼押出し浅間園で、鬼押出溶岩や植物観察、岩石標本作りを行った。	浅間山北麓ジオパーク推進協議会	21
7月16日(日)	水の中の生きものを 調べよう －夏休み自由研究教室（2）－	富岡市和合河川敷周辺の鏑川で水棲昆虫の観察と採集を行った。	土屋清喜	35
11月12日(日)	秋を見つけて、 秋と遊ぼう！ －博物館周辺の自然の中で－	博物館周辺で、紅葉した葉や木の実の観察、ドングリを使った置物作りを行った。	教育普及係 静野聡	17
12月3日(日)	“空飛ぶ宝石” カワセミを見付けよう －水辺に集まる野鳥の仲間－	高田川周辺で見られるカワセミや水辺に集まる野鳥の仲間を観察した。	当館資料整理ボランティア 清水伸彦	14
延５回開催				計115

アンケート結果	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
参加者の満足度	33	2	0	0
県民のニーズ	・化石発掘体験の場所を変えるなどしてもっと増やしてほしい。 ・以前行った青岩公園（下仁田町）での石探しをまた企画してほしい。			

③ 天体観望会

博物館の天体ドームに設置している 40cm 反射望遠鏡・15cm 屈折望遠鏡や移動式の天体望遠鏡、大型双眼鏡を使い、その時季に見られる代表的な星座・星雲、惑星について観察した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月29日(土)	木星と春の夜空に輝く星たちを見てみよう	口径40cm反射望遠鏡や移動式屈折望遠鏡を使って惑星の観察をしたり、春の星座解説を行ったりした。	学芸係 茂木　誠	25
5月4日 (木･祝)	実は出ている昼の星を見てみよう	口径 40cm の反射望遠鏡や移動式屈折望遠鏡を使って昼間見える惑星や恒星を観察した。	学芸係 茂木　誠 博物館ボランティア１名	47
8月12日(土)	見上げてみよう夏の星たちとペルセウス座流星群	天候不良により、博物館学習室において、PC を活用して、「夏の星座」や「ペルセウス座流星群」の解説を行った。	学芸係 茂木　誠	24
10月9日 (月･祝)	実は出ている昼の星を見てみよう	口径 40cm の反射望遠鏡や移動式屈折望遠鏡を使って昼間見える惑星や恒星を観察した。	学芸係 茂木　誠	44

10月21日(土)	見上げてみよう 秋の星たちを	天候不良により、博物館学習室において、PCを活用して、秋の星座解説を行った。	学芸係 茂木　誠	19
2月18日(日)	見上げてみよう 冬の星たちを	口径40㎝反射望遠鏡や移動式屈折望遠鏡を使って惑星の観察をしたり、冬の星座解説を行ったりした。	学芸係 茂木　誠 博物館ボランティア２名	24
延６回計画				計183

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	55	8	0	0
県民のニーズ	・流星群の観察される日に、観察会を企画してほしい。			

④ 自然史講座

自然科学の第一戦で活躍される研究者を講師に招き、県民に自然への興味・関心や知識を高める機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月30日(日)	ツバメの多様な求愛戦略	身近な鳥ツバメの知られざる生態について話した。	総合研究大学院大学 特別研究員 長谷川　克	46
7月17日(月)	地球史４６億年を楽しむ	地球がどのように誕生し、どのように変容していったか地球史４６億年の概要について話した。	神奈川県立生命の星・地球博物館　館長 平田　大二	61
10月8日(日)	骨は語る　～人骨に刻まれた個性を読み解く自然人類学～	自然人類学において、人骨から何が読み解けるのか、具体的な事例からわかりやすく話した。	国立科学博物館　研究主幹 坂上　和弘	36
1月21日(日)	きのこの自然誌	胞子や菌糸の働き，植物と共生する様子など，きのこの暮らしぶりについて話した。	千葉県立中央博物館　植物学研究科長 吹春　俊光	56
延４回開催				計199

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	106	44	5	0
県民のニーズ	・群馬の文化と自然について話を聞きたい。 ・動物の骨について話を聞きたい。 ・渡り鳥の渡りについて話を聞きたい。			

⑤ 企画展 講演会

企画展に協力していただいた研究者や展示内容に関連する専門家を招いたり、企画展担当者が講師となったりして、企画展に関連した講演会を開催した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月16日(日)	尾瀬ガイダンス	尾瀬ビジターセンターでの経験を生かした視点で、尾瀬の歩き方、見どころ、楽しみ方を解説した。	尾瀬保護財団 宇野翔太郎	56
5月7日(日)	尾瀬保護専門委員 リレー講演会	小講演会とミニディスカッションを通して、尾瀬の植生とその現状を解説した。	尾瀬保護専門委員 片野光一 鈴木伸一 吉井広始	49
8月11日(金)	アマゾン川の固有種アマゾンマナティーってどんな動物？日本の最新技術で見えない彼らの生態を見てみよう	データロガーという小型記録計をもとに、そのデータを解析し、濁ったアマゾン川に生息するアマゾン川固有種のアマゾンマナティーについて解説した。	京都大学野生動物研究センター 菊池　夢美	96
10月15日(日)	世界１０大トレイルとニッポンの ロングトレイル	世界と日本におけるロングトレイルの旅を美しい映像と共に解説した。	紀行作家 シェルパ斉藤	95
延４回開催				計296

⑥ 企画展 自然教室

企画展に展示された資料や標本、また企画展に関連した資料や標本等を題材として、企画展に関する興味と関心を高めるために、さまざまな自然教室を実施した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
7月30日(日)	アマゾンの楽器をつくろう　ーガンザdeサンバー	ブラジルのサンバで使われる楽器ガンザをペットボトルを利用して制作した。出来上がったガンザを持って中庭でサンバを演奏した。	スマイルビート 清水　和美	52
10月8日(日)	どこの星から来たの？自分の星を作って、みんなで宇宙にしよう！	紙粘土をつかって、自分だけのオリジナルの天体模型を作った。	アーティスト 康　夏奈	26

11月5日(日)	ぐんまの絶景 バスツアー	谷川岳「一ノ倉沢」周辺を散策しながら自然観察を行った。	谷川岳エコツーリズム推進協議会	18
10月21日(土)	企画展 ギャラリートーク	企画展主担当による企画展ギャラリートークを行った。	学芸係 菅原久誠	9
11月12日(日)	企画展 ギャラリートーク	企画展主担当による企画展ギャラリートークを行った。	学芸係 菅原久誠	12
11月25日(土)	企画展 ギャラリートーク	企画展主担当による企画展ギャラリートークを英語で行った。	学芸係 菅原久誠	1
3月21日(水・祝)	サケ一匹から切り身鮭まで、すべて見せます、さわれます	サケをまるごと一匹解剖して、サケのからだのつくりを学んだ。	群馬県水産試験場 久下　敏宏 田中　英樹	27
延11回開催				計145

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	４６	6	1	0

⑦ 自然史博物館探検隊

夏休みに入ったばかりの小学校高学年の子どもたちを対象として、博物館に一泊し、普段公開していない収蔵庫や展示室の裏側などを探検した。わくわく、ドキドキしながら、自然史への興味・関心を持つとともに、博物館ですてきな夏の思い出づくりを行った。参加者へ指導（宿泊指導を含む）は、教育普及係長、教育普及係２名、学芸係１名、展示解説員３名で行った。

日　　時：7 月 22 日(土)　集合　午後 6:00
　　7 月 23 日(日)　解散　午前 8:00
参加人数：小学生 29 名　（募集対象：小学 4～6 年生）

⑧ ミュージアムスクール

小学５年生から中学３年生を対象に、博物館南の山を主な調査地として動植物の自然界での関わりについていろいろな角度から調べた。年間８回の野外実習を行い、最後には研究発表会をした。

月　日	概　　要	指導担当職員
5月21日（日）	調査の仕方や写真の撮り方など野外調査の方法を学んだ。	学芸係：茂木 教育普及係：小須田
5月28日（日）	博物館周辺のため池に住む生き物調査と地層観察をした。	学芸係：木村・茂木 教育普及係：小須田
6月25日（日）	前日に職員が仕掛けておいた昆虫トラップの回収をした。	学芸係：高橋・茂木

7月30日（日）	昆虫トラップを３０個仕掛けた。	学芸係：茂木 教育普及係：小須田
8月19日（日）	昆虫トラップ回収を行い、捕獲した昆虫にマーキングを行い、リリースした。	学芸係：高橋・茂木 教育普及係：小須田
10月22日（日）	キノコの調査をした。	学芸係：伊藤・茂木
11月5日（日）	植物の調査をした。	学芸係：大森・茂木
11月19日（日）	赤外線カメラのデータ解析をした。	学芸係：高橋・茂木
12月3日（日）	調査のまとめをした。	学芸係：茂木
12月10日（日）	調査のまとめをした。	学芸係：茂木 教育普及係：小須田
1月14日（日）	学習室で研究発表会を行った。	学芸係：茂木 教育普及係：小須田

⑨ 出張展示

ア 移動博物館

遠隔地のため博物館に来館する機会の少ない人等に博物館を利用する機会を提供するため、県内各地の公民館や大型商業施設へ資料を運んで展示する移動博物館を開催した。前年度中に県内の各学校・各公民館、県内特別支援学校に開催希望をとり、実施した。

また、「飛ぶタネの模型づくり」等の体験活動を行った。

会　　場	期　　日	利用者数	博物館資料点数
イオンモール高崎	7月1日(土)・2日(日)　　2日間	3630	108
中之条町立中央公民館	3月3日(土)・4日(日) 2日間	594	108
合　　計		4224	216

イ 他館連携出前教室

年間に数回、県内の公共施設等においてはく製や化石などを展示するとともに、当館のチラシを配布してＰＲ活動を行った。また、必要に応じて化石のレプリカづくり等の体験活動を実施し、当館への興味・関心を高めた。

会　　場	期　　日	担当	参加者数
群馬県生涯学習センター	7月21日(金)	教育普及係　月田典寿	30
スマーク伊勢崎	8月 5日（土）	教育普及係　月田典寿	701
群馬県 社会福祉総合センター	10月29日（日）	教育普及係　武井郁也 月田典寿	69
富岡市生涯学習センター	11月11日（土）	教育普及係　月田典寿	45
合　　計			845

⑩ サイエンス・サタデー

毎週土曜日の午後 2 時から 3 時まで、実験室や館周辺を活用した生物や地学に関連する簡単な実験・観察・ものづくり等の教室を行った。対象を小学生以上とし、講師や補助指導は館職員とボランテ

ィアが行った。

月	テーマ	概　　要	参加者数
4	ツバメ型グライダーをつくろう	ツバメについて学んだあと、ツバメ型グライダーをつくり，中庭で飛ばした。（5回）	210
5	尾瀬の花　ミズバショウをつくろう	ミズバショウについてクイズ形式で学んだあと、フェルトを使ってミズバショウをつくった。（4回）	97
6	光るスライムをつくろう	生物の様々な発光について学び、蓄光材を利用した光るスライムをつくった。（2回）	131
7	アマゾンのチョウをつくろう	アマゾンに生息する世界一美しいチョウといわれるミイロタテハのペーパークラフトをつくった。。（5回）	200
8	翼竜アンハングエラをつくろう	ブラジルで発見された翼竜アンハングエラについて学び、スチレンペーパーでグライダーをつくった。（4回）	229
9	アンモナイト化石レプリカに色つけをしよう	アンモナイトについて学んだあと、石膏でアンモナイト化石のレプリカをつくった。出来上がったレプリカにアクリル絵の具で色つけをした。（5回）	189
10	においのするカラフルスライムをつくろう	色や香りを使って生き物がメッセージを送る仕組みについて学んだあと、香りつきカラフルスライムをつくった。（4回）	206
11	河原の石をよく見て、さわって、遊ぼう	川のでき方を知るために砂山を水で崩す簡単な実験を行い、その後、河原の石に絵を描き、ペーパーウエイトをつくった。（4回）	109
12	コケのテラリウムをつくろう	コケのからだのつくりについて学んだあと，コケの採取を行い，コケのテラリウムをつくった。（2回）	88
1	動物糸電話をつくろう	動物の耳や口のはたらきについて学んだ後、動物の顔を形作った糸電話を作った。（4回）	76
2	木の葉化石をさがそう	化石のでき方、化石の探し方について学んだ後、実際に岩石の中から木の葉化石をさがした。（4回）	207
3	火山灰から宝石を見つけよう	火山活動について学んだ後、火山灰の椀がけを行い、いろいろな鉱物を探し出した。（4回）	280
合　　計			2045

アンケート結果	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
参加者の満足度	105	7	0	0

⑪ ミュージアム・ナイト・ツアー

夜の博物館をキャラクター等に扮した館職員が案内した。

地球４６億年の歴史について恐竜について紹介したり、動物の生態について紹介したりしながら、薄暗い展示室の特徴を生かして解説を行った。

開催日：１月 27 日（土）・２月３日（土）

参加者合計：83 名

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	60	2	1	0
県民のニーズ	・大人から子どもまで楽しむことができた。 ・今後もナイトツアーを続けて開催してほしい。			

⑫ バックヤード・ツアー

普段は公開していない博物館のバックヤード（収蔵庫や研究施設）を館職員が案内した。収蔵庫に保管してある化石や剥製などの様々な標本、資料整理の仕方や職員が取り組んでいる調査・研究などについて紹介した。また、毎月第一日曜日にバックヤードツアー30 を行った。

バックヤードツアー30 参加者

月	参加者数	月	参加者数	月	参加者数	月	参加者数
4	8	7	11	10	12	1	12
5	11	8	11	11	11	2	12
6	11	9	11	12	10	3	10
合計							130

⑬ 高校生学芸員

高校生の自然科学への関心を高めるため、自分で設定した研究テーマについて、学芸係職員の指導をもとに調査・研究を行う事業を実施した。今年度は６組７名の高校生が、４分野のテーマに取り組み、研究発表会を行った。

分 野		研究内容	参 加 者	担当
1	化石	恐竜の成長スピードと生存戦略	県立高崎高等学校 ２名	髙桒
		魚竜における種の特徴から見る進化の歴史	県立前橋高等学校 １名	
		恐竜の新たな分類　自然史博物館の標本で観察できる分類形質	県立高崎高等学校 １名	
2	ほ乳類	サルの歯の傷の傾向～上顎・下顎から見た傷の傾向～	県立渋川女子高等学校 １名	木村 姉崎
3	地質	北部秩父帯におけるチャートから産する微生物化石	県立高崎女子高等学校 １名	菅原
4	昆虫	日本産リンネセイボウは近似の別種を含む可能性	県立高崎女子高等学校 １名	高橋

⑭ 大人の自然史倶楽部

大人向けの講座として、参加者の知的好奇心を満たし、それぞれの分野に対する興味関心が高まるきっかけとなるよう以下の３コースで実施した。

コース	内　　容	延べ人数	担当
浅間山北麓ジオパークの地形と植物コース	当館展示室・実験室における講義や浅間山北麓ジオパーク周辺における野外観察を通して、浅間山北麓の火山活動史と植物の遷移について学んだ。	18	大森
鉱山と戦国武将が読み解いた地形コース	下仁田・南牧エリアや沼田・月夜野エリアにおける野外観察を通して、「鉱山」と「戦国武将」、そして、「戦国武将が築いた城」を自然史における「地形」を切り口に歴史的な背景を学んだ	16	菅原
専門的に学ぶ化石コース	当館収蔵庫・実験室における講義や下仁田・南牧エリアにおける野外実習、ならびに県境の二子山エリアのサンプルの処理を通して、化石における専門的な知識と技能について学んだ。	12	髙桒

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	15	1	0	0

県民のニーズ	・地質、鉱物について学びたい。 ・榛名山における植物の観察会を企画してほしい。

⑮ 外部資金

・貸出トランクキットの開発

公益財団法人日本海事科学振興財団、船の科学館「海の学びミュージアムサポートプログラム２」の支援を受け、海を学ぶ「浜／干潟」貸出用トランクキットを開発した。

事業名：「海洋教育」体感型アウトリーチ教材（トランクキット）運用と新規開発

事業期間：平成 29 年 6 月 1 日（木）　～ 平成 30 年 2 月 28 日（日）

協力機関等：群馬県立盲学校、神奈川県立生命の星・地球博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、群馬県立女子大学、葛西臨海水族園、新江ノ島水族館、国立科学博物館

支援額：300 万円

事業内容：海のない群馬県における海洋教育の一助とすることを目的に、学校教育機関と連携・協働しながら、平成 28 年度に開発した「磯を探索しよう」トランクキットの運用を行い、「浜／干潟」トランクキットをプロトタイプとして新規に開発、制作した。

(1) 平成 28 年度制作「磯を探索しよう」運用とプログラム開発

特別支援学校（群馬県立高崎高等特別支援学校）

特別支援学級（富岡市立丹生小学校、第１・４・６学年）

「群馬県視覚障害者等リハビリネットワーク・まゆだまネット」

群馬県立盲学校

サイエンスアゴラ

科学へジャンプイン東京

(2) 「浜／干潟を探索しよう」新規開発

潮の満ち引き体験模型

アサリの身体のつくり体験拡大模型

いろいろな海の砂体験キット
鳴き砂体験キット
いろいろな海藻体験キット

(3) キット改良、運用、完成

開催事業：海に触れるワークショップの開催
開催日：平成 30 年 1 月 13 日（土）、1 月 14 日（日）
講師：庄山由美（サイエンスコミュニケーター）

制作物:

トランクキット

トランク外観

トランクあけたところ

アサリ布製拡大模型

アサリの身体

潮の満ち引き体験模型

鳴き砂体験、海辺の砂体験キット

砂の粒度の違い体験キット

さわれる海藻新規開発標本

印刷物

・チラシ	1,000 部
・チラシ（点字）	100 部
・浜／干潟パンフレット	200 部
・浜／干潟パンフレット（点字）	50 部
・海藻ってなに？パンフレット	200 部
・海藻ってなに？パンフレット（点字）	50 部
・アンケート（点字）	30 部
・トランクキットの中身説明（点字）	100 部
・広報媒体・オリジナル下敷き	500 部
・広報媒体・オリジナルふせん	300 部

(2) 教育支援

① 学校・教科主任会などへの講師派遣や館内での講師対応

ア　大学・高等学校教育への支援　　計実施数 8 回　164 名

支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
群馬大学	大学院	5 月 9 日	自然史博物館	7	博物館を活用した教育普及教材の開発	姉崎
群馬大学	大学院	5 月 30 日	群馬県立盲学校	7	視覚障害者を対象とした自然史を学ぶ教材の開発	姉崎
群馬県立太田女子高校	高校	6 月 22 日	女子高校		社会人講演会・学芸員の仕事	姉崎
青山学院大学	大学	8 月 12 日	自然史博物館	24	見学及び博物館や学芸員の職務に関する講義	岩井 髙桒
群馬医療福祉大学	大学	9 月 7 日	自然史博物館	19	見学及び博物館の効果的な利用法についての講義普及事業体験	武井 静野
麻布大学	大・大院	9 月 2 日	自然史博物館	30	資料作成の基本実習：植物、昆虫	姉崎 高橋 大森
群馬県立高崎女子高等学校	高校	10 月 29 日	自然史博物館	14	博物館の展示見学と収蔵施設の見学	髙桒 静野
群馬県立尾瀬高等学校	高 1	11 月 16 日	自然史博物館	32	自然史博物館の展示概要、博物館ボランティアによる展示解説	武井 静野
群馬大学	大学院	2 月 14 日	自然史博物館	7	視覚障害者を対象とした自然史を学ぶ教材開発について	姉崎
群馬県立高崎女子高等学校	高校	3 月 25 日	吉井運動公園	6	化石発掘実習	髙桒 静野

非常勤講師（大学・研究機関）

・慶應義塾大学文学部（博物館学特論 III）：姉崎智子
　2017 年 9 月 22 日（金）～2018 年 1 月 19 日（金）14 回
　履修人数　15 名（延べ 210 名）
　講義：１）博物館の基本、２）博物館が担う社会的な役割、３）自然史博物館とは、４）調査研究と教育普及、５）自然史系の資料と収蔵、６）生物多様性の普及、７）企画展・教育普及事業のつくり方、８）その他

企画立案・制作・発表テーマ

(1) 君の家ってどんなとこ？－身近な動物たちのすみかー（４名）

(2) 身近な昆虫展（３名）

(3) 鉱物の魅力展（２名）

(4) 南極展－雪と氷の世界－（３名）

(5) 植物のチカラ展（３名）

イ　小中学校教育への支援

ⅰ　総合的な学習の時間への対応（一般見学は除く）　計２校　218 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容（対応方法）	対応職員等
富岡市立妙義中学校	中１	５月 23 日	31	尾瀬学校事前学習	解説員
富岡市立西中学校	中１	７月 11 日	90	尾瀬学校事前学習	解説員

ⅱ　小学校・中学校及び理科主任会等への職員派遣・支援　計７回　180 名

職員派遣先等	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
富岡市中学校理科主任会	教員	４月 25 日	富岡市立南中学校	10	博物館の貸し出し資料の有効活用	静野
富岡市小学校理科主任会	教員	４月 28 日	富岡市立富岡小学校	10	博物館の貸し出し資料の有効活用	静野
富岡市小中学校校長会	校長	５月１日	富岡市教育委員会	30	自然史博物館の効果的な利用方法	静野
群馬県小学校理科部会	教員	５月 16 日	県生涯学習センター	50	自然史博物館の効果的な利用方法	静野
群馬県中学校理科部会	教員	５月 24 日	県生涯学習センター	50	自然史博物館の効果的な利用方法	静野
小学校理科研修講座	教員	８月１日	総合教育センター	30	水のはたらきと運ばれる大小の粒たち	菅原
かぶら理科研究会	教員	11 月 21 日	富岡市立高瀬小学校	15	トランクキットの説明(小須田)、ヌマガエルの分布の話(茂木)	小須田 茂木
明和県央高校	教員	11 月 28 日	自然史博物館	10	博物館の展示見学（学芸員によるギャラリートーク）と収蔵施設の見学	武井 静野
高崎市理科主任会	教員	２月８日	高崎市市民活動センター	58	自然史博物館の効果的な利用方法	静野

【出前授業】　計 計画回数 28 回・実施回数 28 回　993 名

支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
高崎市立中尾中学校	クラブ	６月８日	高崎市立中尾中学校	32	天体望遠鏡を使った太陽の黒点	茂木 静野

富岡市立 黒岩小学校	クラブ	6月22日	富岡市立 黒岩小学校	13	液体窒素実験	静野
下仁田町立 下仁田小学校	小 1 ～6	7月25日	高崎市立玉 村南小学校	13	化石のレプリカ作り	静野
高崎市立 玉村南小学校	小 1 ～6	7月26日	高崎市立玉 村南小学校	30	化石のレプリカ作り	静野
高崎市立 金子小学校	小1 ～6	8月4日	高崎市立 金子小学校	113	化石のレプリカ作り	静野
高崎市立 中尾中学校	クラブ	8月9日	高崎市立 中尾中学校	32	化石のレプリカ作り	静野
丹生公民館	小1 ～6	8月10日	丹生公民館	18	飛ぶタネの模型作り	武井
南牧村立 南牧小学校	小1 ～6	8月20日	南牧村立 南牧小学校	24	化石のレプリカ作り 飛ぶタネの模型作り	静野
高崎市立吉井 西小学校	小6	9月12日	高崎市立吉 井西小学校	38	天体観望会	茂木
江戸川区立鹿 本小学校	小6	9月12日	妙義青少年自 然の家	29	天体観望会	茂木
高崎高等支援 学校	中2 ～3	9月26日	高崎高等支援 学校	15	磯の生き物 トランクキット	武井 静野
安中市立 後閑小学校	小6	10月5日	碓井川周辺	9	地層観察・化石発掘	静野
富岡市立 西小学校	クラブ	10月25日	富岡市立 西小学校	27	化石のレプリカ作り	月田
高崎市立 浜尻小学校	クラブ	10月26日	高崎市立 浜尻小学校	29	葉のパウチ標本作り	静野
富岡市立 丹生小学校	特別 支援	10月26日	富岡市立 丹生小学校	3	磯の生き物 トランクキット	武井
富岡市立 高田小学校	小4 ～6	10月31日	妙義青少年自 然の家	40	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木
伊勢崎市立 宮郷小学校	クラブ	11月8日	伊勢崎市立 宮郷小学校	37	化石のレプリカ作り	月田
富岡市立 妙義小学校	小3 ～6	11月8日	妙義青少年自 然の家	42	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木
富岡市立 黒岩小学校	クラブ	11月9日	富岡市立 黒岩小学校	13	簡易モーター作り	静野
妙義青少年自 然の家	小1 ～6	12月9日	妙義青少年自 然の家	42	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木
上尾市図書館	小1 ～6	12月10日	上尾市図書館	37	化石のレプリカ作り	静野
富岡市観光協 会		12月16日	妙義ふるさと 美術館	50	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木
高崎市立 矢中小学校	クラブ	12月21日	高崎市立 矢中小学校	27	飛ぶタネの模型作り	静野

高崎市立 佐野小学校	小6	1月10日	高崎市立 佐野小学校	161	天体望遠鏡を使った太陽の黒点と月の観察	茂木 静野
高崎市立 浜尻小学校	クラブ	1月18日	高崎市立 浜尻小学校	29	化石のレプリカ作り	静野
富岡市立 黒岩小学校	小4	1月19日	自然史博物館	15	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木 静野
富岡市観光協会		1月20日	妙義ふるさと 美術館	50	冬の星座について 講話・天体観望会	茂木
伊勢崎市立 宮郷小学校	クラブ	2月17日	伊勢崎市立 宮郷小学校	13	化石のレプリカ作り	静野

② 館内授業　　計　参加校等46校、授業数63件、参加人数2,590名

学校名	学年	実施日	人数	授業内容	授業数
桐生市立桜木小学校	6	5月10日	47	化石のレプリカ作り	1
板橋区立大谷口小学校	5	5月17日	54	化石のレプリカ作り	1
本庄市立中央小学校	6	5月18日	95	化石のレプリカ作り	2
板橋区立中根橋小学校	5	5月19日	58	化石のレプリカ作り	1
板橋区立金沢小学校	5	5月24日	108	化石のレプリカ作り	2
玉村町立上陽小学校	4	5月25日	55	化石のレプリカ作り	1
太田市立沢野中央小学校	4	5月26日	68	化石のレプリカ作り	2
館林市立第二小学校	4	5月26日	52	化石のレプリカ作り	1
北本市立東小学校	5	6月7日	66	化石のレプリカ作り	2
板橋区立上板橋第四小学校	5	6月8日	54	植物化石を探そう	1
板橋区立志村第二小学校	5	6月9日	77	化石のレプリカ作り	2
板橋区立赤塚新町小学校	5	6月28日	23	化石のレプリカ作り	1
群馬県立二葉特別支援学校	中	6月29日	12	植物化石を探そう	1
中野区武蔵台小学校	5	6月30日	81	化石のレプリカ作り	2
文京区立本郷台中学校	中1	7月5日	58	化石のレプリカ作り	2
板橋区立下赤塚小	5	7月12日	80	化石のレプリカ作り	2
文京区立第八中	中1	7月14日	27	化石のレプリカ作り	1
佐野市子ども科学クラブ		7月27日	40	化石のレプリカ作り	1
板橋区立前野小学校	5	9月8日	100	化石のレプリカ作り	2
板橋区立高島第五小学校	5	9月15日	36	植物化石を探そう	1
桐生市立西小学校	4	9月21日	46	化石のレプリカ作り	1
板橋区立高島第二小学校	5	9月22日	83	化石のレプリカ作り	2

中野区向台小学校	5・6	9月27日	63	化石のレプリカ作り	2
渋川市特別支援学校		9月29日	8	化石のレプリカ作り	1
板橋区立新河岸小学校	5・6	9月29日	52	化石のレプリカ作り	1
伊勢崎市立境小学校	4	10月4日	61	化石のレプリカ作り	1
板橋区立赤塚小学校	5	10月5日	96	化石のレプリカ作り	2
板橋区立板橋第七小学校	5	10月6日	28	化石のレプリカ作り	1
桐生市立神明小学校	4	10月6日	40	化石のレプリカ作り	1
榛東村立北小学校	4	10月12日	87	化石のレプリカ作り	2
太田市立宝泉南小学校	4	10月13日	44	化石のレプリカ作り	1
前橋市立総社小学校	4	10月13日	41	化石のレプリカ作り	1
太田市立尾島小学校	4	10月18日	89	化石のレプリカ作り	2
玉村町立南小学校	4	10月19日	60	化石のレプリカ作り	2
大泉町立南小学校	4	10月20日	111	化石のレプリカ作り	2
高崎市立矢中小学校	4	10月25日	88	化石のレプリカ作り	2
渋川市立古巻小学校	4	10月26日	108	化石のレプリカ作り	2
板橋区立板橋第一・九小学校	5	10月27日	65	化石のレプリカ作り	2
前橋市立笂井小学校	6	11月8日	34	化石のレプリカ作り	1
高崎市立城南小学校	4	11月10日	42	化石のレプリカ作り	1
高崎市立北小学校	4	11月10日	38	化石のレプリカ作り	1
安中市立秋間小学校	5	11月16日	17	植物化石を探そう	1
桐生市立南小学校	5	11月24日	49	化石のレプリカ作り	1
前橋市立大胡中学校	中1	12月1日	9	化石のレプリカ作り	1
甘楽町立新屋小学校	6	3月15日	40	植物化石を探そう	1

アンケート結果 参加者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	２０	２	０	０
参加者のニーズ	・展示に対する興味関心が高まる内容でよい。			

※授業内容は以下の通り

レプリカ:「化石のレプリカを作ろう」　　飛ぶタネ：「飛ぶタネの模型を作ろう」

植物化石：「植物化石を探そう」　葉のパウチ：「葉のパウチ標本をつくろう」

③ 職場体験活動（中学校・高等学校）　　計 9 校・24 日・延べ 62 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容	対応職員
高崎市立 吉井西中学校	中2	5月16日～ 19日	2	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	高橋・茂木・静野

富岡市立 東中学校	中２	８月 29 日～ 30 日	2	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	木村・静野
安中市立松井 田南中学校	中２	８月 30 日～ ９月１日	3	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	髙桒･木村･月田 静野
富岡市立 西中学校	中２	９月５日～ ６日	5	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	木村・静野
安中市立 第一中学校	中２	９月 12 日～ 14 日	4	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	茂木･佐藤 静野
富岡市立 富岡中学校	中２	10 月 12 日 ～13 日	2	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	木村・高橋 静野
安中市立 第二中学校	中２	10 月 17 日 ～19 日	2	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	茂木･佐藤 静野
富岡市立 南中学校	中２	10 月 19 日 ～20 日	3	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	高橋･静野
安中市立 北中学校	中２	11 月７日 ～９日	1	教育普及業務 学芸業務に関わる資料整理	茂木・静野

④ 教育用資料貸出

延べ 53 団体

貸出先	貸出資料	利用目的	貸出	返却
高崎経済大学付属高等学校	・液体窒素（10ℓ）	理科部活動	４月 30 日	
藤岡市立西中学校	・液体窒素（10ℓ） ・運搬容器 ・実験セット	理科授業	４月 30 日	５月５日
高崎経済大学付属高等学校	・液体窒素（10ℓ） ・運搬容器	理科部活動	５月７日	５月９日
群馬県立勢多農林高等学校	・液体窒素（10ℓ） ・運搬容器	植物の凍結保存	５月 11 日	５月 31 日
群馬県立前橋高等学校	・液体窒素（10ℓ）	科学部活動	５月 12 日	
高崎経済大学付属高等学校	・液体窒素（５ℓ）	理科部活動	５月 26 日	
群馬大学教育学部付属小学校	・地層露頭モデル	理科授業	５月 27 日	６月 16 日
群馬県立高崎高等学校	・液体窒素（10ℓ） ・運搬容器 ・実験セット	科学部活動	５月 30 日	６月６日
高崎経済大学付属高等学校	・液体窒素（10ℓ） ・運搬容器	理科部活動	６月１日	６月２日
群馬県立高崎高等学校	・液体窒素（20ℓ）	科学部活動	５月 30 日	
高崎市立豊岡小学校	・ティランノサウルスの歯 ・カマラサウルスの歯	校長講和	６月４日	６月 10 日

	・胃石 ・サメの歯			
群馬県立富岡東高等学校	・液体窒素（10ℓ ） ・運搬容器 ・実験セット	理科部活動	6 月 9 日	6 月 11 日
富岡市立西小学校	・動物頭骨標本 (ウマ、ウサギ、ウシ、ヒツジ、ヤマヤギ、トラ、ライオン、イヌ、パンダ、ブタ、ホモ・サピエンス)	理科授業	6 月 9 日	6 月 27 日
安中市立磯部小学校	・レプリカ作成セット ・石膏＆水 ・アンモナイト型 ・三葉虫型 ・アンモナイト実物化石 ・三葉虫実物化石	理科授業	6 月 7 日	6 月 24 日
前橋市立元総社小学校	・昆虫標本セット	理科授業	6 月 23 日	6 月 30 日
安中市立臼井小学校	・液体窒素（10ℓ ） ・運搬容器 ・実験セット	校長講和	6 月 30 日	7 月 4 日
高崎市立榛名中学校	・動物頭骨標本 （草食動物・肉食動物）	理科授業	7 月 7 日	7 月 20 日
富岡市立富岡小学校	・動物頭骨標本 （ウマ、シベリアトラ、ゴリラ、ホモ･サピエンス） ・動物の歯のレプリカセット	保健指導	7 月 7 日	7 月 13 日
藤岡市立小野小学校	・液体窒素（10ℓ ）・運搬容器	理科クラブ	7 月 11 日	7 月 15 日
前橋市立第六中学校	・液体窒素（10ℓ ） ・運搬容器 ・実験セット	理科授業	9 月 1 日	9 月 9 日
伊勢崎市立第四中学校	・動物頭骨標本 （ウサギ、ウマ、ウシ、ヒツジ、シマウマ、ヤマヤギ、ブタ、チンパンジー、キツネ、イヌ、トラ、クマ、ライオン、ヒョウ、キツネ、パンダ）	理科授業	9 月 5 日	9 月 8 日
高崎市立大類中学校	・動物頭骨標本 （ウサギ、ウマ、ウシ、ヒツジ、シマウマ、ヤマヤギ、ブタ、チンパンジー、キツネ、イヌ、トラ、クマ、ライオン、ヒョウ、キツネ、パンダ）	理科授業	9 月 3 日	9 月 29 日

高崎市立大類中学校	・進化の根拠化石セット	理科授業	9 月 4 日	9 月 29 日
高崎市立大類中学校	・昆虫等標本セット	理科授業	9 月 5 日	9 月 29 日
高崎市立長野小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 大アンモナイト型 ラバーボール・スパチュラ	理科授業	9 月 15 日	9 月 21 日
富岡市立黒岩小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 小アンモナイト型 三葉虫型	クラブ活動	9 月 16 日	9 月 28 日
高崎市立豊岡小学校	・アルソミトラの種子（実物・標本） ・フタバガキの種子（実物・標本）	校長講話	9 月 30 日	10 月 7 日
群馬県立渋川青翠高等学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型 ビカリア型	文化祭	10 月 4 日	10 月 15 日
高崎市立城南小学校	・レプリカ作成セット	理科授業	10 月 7 日	10 月 12 日
下仁田町立下仁田小学校	・動物頭骨標本 （ウサギ、ウマ、ヒツジ、ネコ、キツネ、イヌ、ライオン、ブタ、クマ、ゴリラ）	理科授業	10 月 8 日	10 月 19 日
高崎市立吉井西小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型 実物化石（アンモナイト・三葉虫）	理科授業	10 月 9 日	10 月 27 日
みなかみ町立藤原小学校	・いろいろな化石	理科授業	10 月 10 日	11 月 11 日
群馬県立盲学校	・海のトランクキット ・剥製（カモメ、ユリカモメ）	理科授業	10 月 29 日	11 月 11 日
南牧村立南牧中学校	・動物頭骨標本 （ウマ、ライオン、トラ、パンダ）	保健指導	10 月 31 日	11 月 14 日
南牧村立南牧中学校	・歯のレプリカセット	保健指導	10 月 31 日	11 月 14 日

富岡市立吉田小学校	・動物頭骨標本 （ウシ、ヒョウ、ブタ）	保健指導	10 月 31 日	11 月 14 日
富岡市立吉田小学校	・歯のレプリカセット	保健指導	10 月 31 日	11 月 14 日
富岡市立丹生小学校	・動物頭骨標本 （ウシ、ヒョウ、ブタ）	保健指導	11 月 2 日	11 月 14 日
富岡市立丹生小学校	・歯のレプリカセット	保健指導	11 月 2 日	11 月 14 日
高崎市立塚沢小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型	理科授業	11 月 2 日	11 月 3 日
明和県央高等学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型 実物化石セット	地学基礎	11 月 4 日	11 月 11 日
富岡市立西小学校	・いろいろな化石	理科授業	11 月 12 日	11 月 19 日
藤岡市立小野小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型	理科クラブ	11 月 19 日	11 月 25 日
富岡市立黒岩小学校	・飛ぶタネの模型セット	理科授業	11 月 7 日	11 月 29 日
藤岡市立藤岡第一小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型	クラブ活動	11 月 26 日	12 月 3 日
高崎女子高等学校	・屈折式天体望遠鏡	観測実習	1 月 27 日	2 月 4 日
安中市立臼井小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 アンモナイト実物化石	クラブ活動	2 月 9 日	2 月 15 日
安中市立松井田北中学校	・液体窒素実験セット	理科授業	2 月 12 日	2 月 16 日
前橋市立桂萱小学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 化石セット	クラブ活動	1 月 13 日	1 月 20 日
太田市立太田中学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型 ビカリア型	理科授業	2 月 22 日	3 月 2 日

新島学園中学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型 ビカリア型 実物化石	理科授業	2 月 28 日	3 月 9 日
伊勢崎市立第四中学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 いろいろな化石セット	理科授業	3 月 13 日	3 月 20 日
中之条町立六合中学校	・レプリカ作成セット 石膏＆水 アンモナイト型 三葉虫型	理科授業	3 月 22 日	3 月 28 日

アンケート結果 利用者の満足度	満足	ほぼ満足	やや不満	不満
	36	0	0	0
利用者の感想	・実物化石を借用した。本物の持つ力は大きく、児童は興味深く学習できました。 ・天体望遠鏡を借用した。学校にあるのと合わせて、十分な台数で天体を観察させることができました。また、各自がしっかりと望遠鏡の操作も学ぶことができました。 ・歯のレプリカセットを借用した。保健指導で活用したが、児童は歯に興味関心を持ち、歯を大切にしようとする意識を高めることができました。			

⑤ 博物館実習

学芸員資格取得のため、当館での実習を希望した学生を対象に博物館実習を行った。

・募集期間：平成 29 年 4 月 1 日～4 月 30 日

・受入期間：平成 29 年 8 月 1 日～8 月 11 日〔実日数 10 日間〕

・受入人数： 10 名（大学別の内訳は下表）

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数
新潟大学	1	立正大学	2	帝京大学	1
長岡造形大学	1	専修大学	1	大正大学	1
尚美学園大学	1	筑波大学	1	群馬県立女子大学	1

・主な内容

（講義）「学芸員を目指す人たちへ」、「博物館の組織」、「学芸業務」、「教育普及業務」、「資料の保管・維持管理」、「企画展のできるまで」等

（実習）資料整理業務実習（哺乳類、魚類、昆虫、貝類、菌類、植物、岩石、古生物）

教育普及活動実習（来館者アンケート等）

企画展計画立案・展示製作・解説実習

１班：「草原の生き物のいま」

２班：「身近にいる擬態昆虫」

３班：「あなたの知らないシーボルト」

⑥　インターンシップ

日本大学生物資源科学部動物資源学科１名　平成 29 年 8 月 4 日～8 月 17 日

・主な実習内容

資料整理業務実習（哺乳類、岩石、昆虫、貝類）

教育普及活動実習（来館者アンケート、来館者への解説説明等）

企画展計画立案・展示製作・解説実習他

⑦　大学パートナーシップ、連携等事業の実施状況

⑧　学生・大学院生等の指導状況

学校名	人数	実施日	指導内容	対応職員
帯広畜産大学	１名	５月 14 日	クマ検体について	姉崎
中央農研	１名	５月 24 日	赤城、神津のシカについて	姉崎
帯広畜産大学	１名	１月 3 日	クマ検体について	姉崎
麻布大学	２名	２月 22 日	群馬県におけるシカ、カモシカの分布状況について	姉崎
中央農研	１名	２月 22 日，２月 23 日	シカの計測手法について	姉崎

(3)　外部からの問い合わせ対応

当館では社会的ニーズを把握するため、平成 24 年度より外部からの問い合わせ対応について集計を始めた。平成 29 年度の問い合わせ件数は 212 件で前年比より17件減少したが、平成 27 年度より 8 件多く、近年 200 件台前半で推移している。問い合わせ元では一般(学生を除く)からの問い合わせが 69 件で最も多く、以下研究者(42 件)、マスコミ(36 件)、公共団体(30 件)の順になり、平成 28 年度に比べ、研究者からの問い合わせが増加し、公共団体からの問い合わせは減少した(表 1)。今年度も平成 28 年度に引き続き、教示(90 件)が一般的な問い合わせ(63 件)を上回り、同定依頼も 42 件あった(表 1)。問い合わせ方法は年々増加傾向にあった電子メール(95 件)が電話(62 件)に比べて大きな比率を占めた。また、来館による問い合わせも 41 件と、依然増加傾向にあり、問い合わせ方法の 2 極化が続いている(表 3)。マスコミからの対応を除く一般および学生、研究者、専門機関からの問い合わせの発信元は県内 116 件に対して県外 73 件で、県外からの問い合わせの比率が増加している(表 4)。このほか海外からの問い合わせも 12 件あった。県内からの問い合わせは、近隣市町村(富岡市、安中市)からの割合が年々低下し、県央地域の前橋市や高崎市からの問い合わせの比率が高まるとともに、沼田や伊勢崎など、問い合わせ件数上位の地域が広域化する傾向は平成 29 年度も続いている。

①　問い合わせ元の職・所属

一般	69
研究者	42
マスコミ	36
公共団体	30
博物館施設	12
民間機関	11
小中高生	5
その他	4
大学生・院生	3
合計	212

②　問い合わせ内容の種別

教示	90
問い合せ	63
同定	42
取材	6
その他	11

③　問い合わせ方法

電子メール	95
電話	62
来館	41
郵送	6
その他	8

④ マスコミ以外の問い合わせ元の居住地・所在地

群馬県内	116
県外国内	73
海外	12

⑤ ④のうち県内内訳

前橋	37
高崎	13
伊勢崎	9
富岡	7
沼田	7
長野原	6
渋川	6
館林	6
その他	21

(4)　学会等の開催

①ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017

・開催日時：平成 30 年（2018）年 1 月 14 日（土）13:00～16：50
・場所：自然史博物館　学習室・企画展示室
・参加者数：150 名
・報告会趣旨

群馬県には、かけがえのない生き物たちを育む自然を調べ、伝え、守る活動をされている専門機関や団体が数多くあります。地域に根ざし活動を続けるこれらの方々が、互いに出会いその活動を共有化し、関係を深めていくとともに、より多くの県民の方々に多様な取り組みをお伝えしていきたいとの思いから、平成 20 年度より「ぐんまの自然の『いま』を伝える」報告会を開催しています。そして、平成 27 年度より特別展「ぐんまの自然の『いま』」も開催し、県内の野生生物たちが置かれている状況や、多様な保護保全活動の取り組みを広く一般にご紹介するとともに、みんなで群馬の自然の「いま」を共有し、その未来を考えていきたいと思います。

・主催：群馬県（群馬県自然環境課、群馬県立自然史博物館、群馬県立ぐんま昆虫の森）
・後援：

群馬県自然環境調査研究会、NPO 群馬県自然保護連盟、（公財）尾瀬保護財団、群馬野外生物学会、（公財）日本自然保護協会、日本野鳥の会群馬、NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会、群馬県野生きのこ同好会、利根沼田自然を愛する会、ヤリタナゴ調査会、かんな川水辺の楽校運営協議会、赤城姫を愛する集まり、NPO 法人日本チョウ類保全協会、環境カウンセラーズぐんま、特例財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、南限のサケを育む会、NPO 法人 片品・山と森の学校、群馬県緑のインタープリター会、特定非営利活動法人 ピッキオ、日本クマネットワーク、NPO 法人観音山丘陵調査、群馬ナチュラリスト自然保護協議会、NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク、嬬恋村高山蝶を守る会

・基調講演：講師　藤田卓　公益財団法人　日本自然保護協会
　　演題　里山の生きものを見守る市民のちから
　　～モニタリングサイト 1000 里地調査　10 年の歩みと市民調査の可能性～
・口頭発表：NPO 群馬県自然保護連盟、群馬県立尾瀬高等学校、麻布大学
　　群馬県水産試験場、筑波大学山岳科学センター
・ポスター発表　56 本（タイトル、要旨集等は HP で公開）

・報告会のようす

基調講演	ポスター発表

・アンケート結果（34 名）
○報告会の内容について
とても満足：１２名、満足：２２名、どちらでもない：０名、やや不満：０名、不満：０名

②自然史セミナー「専門的に学ぶ地衣類同定講座」

・開催日時:平成 29 年 6 月 10 日、11 日、10:00～16:00
・場所:自然史博物館周辺、自然史博物館実験室
・参加者人数:17 人
・講座趣旨

専門の研究者の指導のもと、身近に存在する地衣類を屋外で観察し、観察のポイントを学びます。また、顕微鏡観察や、呈色反応、化学成分などの分析を行い、専門的な種の同定を行います。

・共催　国立科学博物館
・講師　国立科学博物館植物研究部　大村 嘉人

③日本蘚苔類学会第 46 回群馬大会 2017

・開催日時：2017 年 8 月 29 日（火）から 31 日（木）
・開催場所：
　会場：群馬県利根郡みなかみ町・水上公民館
　宿泊・懇親会：水上ホテル聚楽
　エクスカーション：谷川岳天神平
・開催内容
　8 月 29 日（火）午後：蘚苔類同定講座、記念講演会、写真コンテスト、苔普及グッズ展示
　　蘚苔類同定講座講師・蘚類 木口博史氏、苔類・古木達郎氏　参加者人数 53 名（定員 14 名）
　　記念講演会・樋口正信氏「群馬県のコケ類とその特徴」
　　井藤賀操氏「六合チャツボミゴケ生物群集の鉄鉱生成地」　参加者人数 80 名
　8 月 30 日（水）
　　日本蘚苔類学会奨励賞受賞講演
　　研究発表（口頭発表、ポスター発表）
　　写真コンテスト（出展作品 15 点）

最優秀賞：木村全邦・コウヤノマンネングサとナガレヒキガエル
優秀賞・野村俊尚・パタゴニアの苔花畑
健闘賞：中澤和則・さわちゃん
群馬県立自然史博物館長賞：鵜沢美穂子・チャツボミゴケの細胞

苔普及グッズ展示
（コケを育てるキット、コケアクセサリー他、コケ図鑑トランプ、ダチョウゴケの刺繍）
総会、懇親会
「日本の貴重なコケの森：奥利根水源の森と田代湿原」認定証授与式
発表参加者 86 名

8 月 31 日（木）午前
エクスカーション・谷川岳天神平
講師・古木達郎氏、樋口正信氏　参加者人数　68 名

・運営スタッフ（群馬県のみ記載）
群馬県立自然史博物館
実行委員長・藤巻 敦、副委員長・岩井 利信、庶務／会計・姉崎智子
運営スタッフ・伊藤 智史、大森威宏、高橋克之、居村久美子、中澤和則
武井郁也、小須田健志、月田典寿
みなかみ町役場エコパーク推進課・小野 宏和

④NPO 等団体との連携
特になし

３　資料収集・管理

(1) 資料管理

①温湿度管理

管理場所	管理状況（設定）
第１収蔵庫	夏季：20℃、50%　冬季：18℃、55%　春秋：18～20℃、55～50%
第２収蔵庫	夏季：20℃、50%　冬季：18℃、55%　春秋：18～20℃、55～50%
第３収蔵庫	夏季：20℃、50%　冬季：18℃、55%　春秋：18～20℃、55～50%
常設・企画展示室	常設 1F：24～26℃　常設 2F：20～21℃　企画：23～24℃ 55～50%　55～50%　55～50%

②資料の安全な保護対策

ア 文化財害虫等への忌避対策

忌避対策として以下を実施した。

○第二収蔵庫出入り口に積層タイプの除塵粘着シートのマットを設置し、害虫等の侵入を防いだ。

イ 文化財害虫等の燻蒸作業

番号	作業場所	実施内容	実施日	受託者	使用薬剤
1	第二収蔵庫（生物系）燻蒸	防虫防黴	平成 28 年 6 月 13 日～19 日	関東港業株式会社	アルプ
	常設展示室（2 階 C コーナー奥）	防虫	平成 28 年 6 月 13 日～19 日	関東港業株式会社	ブンガノン＋ライセント
2	（秋季燻蒸庫燻蒸は実施せず）				
3	燻蒸庫保守点検ならびに第 1～3 回燻蒸庫燻蒸	防虫防黴	平成 29 年 2 月 21 日～2 月 27 日	関東港業株式会社	エキヒューム S

（２）基準標本と天然記念物の状況

正基準標本 Holotype

No.	分類群等			標本番号	種名
1	化石	脊椎動物	鳥類	GMNH-PV-170	*Limnofregata hasegawai* Olson et Matsuoka, 2005 ハセガワグンカンドリ
2	化石	無脊椎動物	節足動物三葉虫類	GMNH-PI-1341	*Pseudophillipsia kiriuensis* Kobayashi et Hamada, 1984
3	化石	無脊椎動物	節足動物十脚類	GMNH-PI-1701	*Nipponopon hasegawai* Karasawa, Kato et Terabe, 2006 ハセガワニッポノポン
4	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI-1256	*Eolyttonia kiryuensis* Tazawa et Takakuwa, 2009
5	化石	脊椎動物	哺乳類	GMNH-PV-2401	*Joumocetus shimizui* Kimura et Hasegawa, 2010 ジョウモウケタス

6	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3158	*Ikeyacythereis kumejimensis* Tanaka, Hasegawa et Nomura, 2010
7	化石	無脊椎動物	軟体動物 二枚貝類	GMNH-PI- 2116	*Saccella annakensis* Kurihara, 2010
8	化石	無脊椎動物	軟体動物 二枚貝類	GMNH-PI- 2164	*Limopsis nakajimai* Kurihara, 2010
9	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3167	*Hemicytherura huangi* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
10	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3170	*Hemicytherura notoensis* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
11	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3173	*Hemicytherura okuboi* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
12	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3182	*Hemicytherura choeae* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
13	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3185	*Hemicytherura japonica* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
14	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3188	*Hemicytherura taiwanensis* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
15	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI- 3537	*Dasysaria japonica* Tazawa et al., 2012
16	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI- 3504	*Linoproductus ashioensis* Tazawa et al., 2012
17	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 3162	*Loxoconcha tuberculatus* Tanaka et al., 2012
18	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4001	*Aurila joushuensis* Tanaka et al., 2012
19	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4211	*Krithe tomiokaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013a
20	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4228	*Acanthocythereis oshimaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013a
21	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4231	*Acanthocythereis noriyukikeyai* Tanaka and Hasegawa, 2013a
22	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4122	*Semicytherura kaburagawaensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
23	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4125	*Semicytherura usuigawaensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
24	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4128	*Loxoconcha jyoumouensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
25	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4133	*Loxoconcha maedai* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
26	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI- 4137	*Callistocythere nanamagariensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)

27	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4142	*Callistocythere annakensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
28	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4147	*Callistocythere kyokoae* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
29	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4152	*Callistocythere kamitsukensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
30	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4157	*Callistocythere izanami* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
31	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4159	*Callistocythere kuwanoki* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
32	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4163	*Callistocythere myogiensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
33	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4167	*Loxocythere tetsurohanaii* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
34	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4172	*Cornucoquimba kyokoae* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
35	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4177	*Yezocythere takaokai* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
36	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4181	*Trachyleberis itahanaensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
37	化石	脊椎動物	哺乳類	GMNH-PV-2570	*Ninjadelphis ujiharai* Kimura, 2016 (in Kimura and Barnes, 2016)

等価基準標本 Syntype

No.	分類群等			標本番号	種名
1	化石	脊椎動物	魚類	GMNH-PV-042	*Sebastes kanezawai* (Niino, 1951)

従基準標本 Paratype

No.	分類群等			標本番号	種名
1	化石	無脊椎動物	節足動物 三葉虫類	GMNH-PI-1342	*Pseudophillipsia kiriuensis* Kobayashi et Hamada, 1984
2	化石	無脊椎動物	節足動物 十脚類	GMNH-PI-1700	*Hoploparia kamimurai* Kato et Karasawa, 2006 カミムラホプロパリア
3	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI-1257, 1258	*Eolyttonia kiryuensis* Tazawa et Takakuwa, 2009
4	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-3159	*Ikeyacythereis kumejimensis* Tanaka, Hasegawa et Nomura, 2010
5	現生	無脊椎動物	節足動物 昆虫類	GMNH-II	*Uresiphita fusei* Inoue, 1982 イタクラキノメイガ

6	化石	無脊椎動物	軟体動物二枚貝類	GMNH-PI-2113-15, 2117-2124	*Saccella annakensis* Kurihara, 2010
7	化石	無脊椎動物	軟体動物二枚貝類	GMNH-PI-2165 - 2170	*Limopsis nakajimai* Kurihara, 2010
8	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI-3538, 3539	*Dasysaria japonica* Tazawa et al., 2012
9	化石	無脊椎動物	腕足動物	GMNH-PI-3505 - 3525	*Linoproductus ashioensis* Tazawa et al., 2012
10	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3164	*Loxoconcha tuberculatus* Tanaka et al., 2012
11	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4003	*Aurila joushuensis* Tanaka et al., 2012
12	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4123, 4124, 4203, 4204	*Semicytherura kaburagawaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013b
13	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4126, 4127, 4205, 4206	*Semicytherura usuigawaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013b
14	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4129, 4130, 4131, 4132	*Loxoconcha jyoumouensis* Tanaka and Hasegawa, 2013b
15	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4134, 4135,4136	*Loxoconcha maedai* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
16	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4138, 4139, 4140, 4141	*Callistocythere nanamagariensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
17	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4143, 4144, 4145, 4146	*Callistocythere annakensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
18	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4148, 4149, 4150, 4151	*Callistocythere kyokoae* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)

19	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4153, 4154, 4155, 4156	*Callistocythere kamitsukensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
20	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4158, 4206, 4159, 4207	*Callistocythere izanami* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
21	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4160, 4161, 4162, (4161)	*Callistocythere kuwanoki* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
22	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4164, 4165, 4166	*Callistocythere myogiensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
23	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4168, 4169, 4170, 4171	*Loxocythere tetsurohanaii* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
24	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4173, 4174, 4175, 4176	*Cornucoquimba kyokoae* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
25	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4178, 4179	*Yezocythere takaokai* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)
26	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-4182, 4183, 4184, 4185	*Trachyleberis itahanaensis* Tanaka, 2013 (in Tanaka and Hasegawa, 2013b)

従基準標本（別性） Allotype

No.	分類群等			標本番号	種名
1	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3160-61	*Ikeyacythereis kumejimensis* Tanaka, Hasegawa et Nomura, 2010
2	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3168	*Hemicytherura huangi* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
3	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3171	*Hemicytherura notoensis* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
4	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3174	*Hemicytherura okuboi* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
5	化石	無脊椎動物	節足動物貝虫類	GMNH-PI-3183	*Hemicytherura choeae* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)

6	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-3186	*Hemicytherura japonica* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
7	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-3189	*Hemicytherura taiwanensis* Kaseda et Ikeya, 2011 (in Tanaka, Kaseda and Ikeya, 2011)
8	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-3163	*Loxoconcha tuberculatus* Tanaka et al., 2012
9	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4002	*Aurila joushuensis* Tanaka et al., 2012
10	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4212	*Krithe tomiokaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013a
11	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4229	*Acanthocythereis oshimaensis* Tanaka and Hasegawa, 2013a
12	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-4231	*Acanthocythereis noriyukikeyai* Tanaka and Hasegawa, 2013a

同地基準標本 Topotype

No.	分類群等			標本番号	種名
1	化石	無脊椎動物	節足動物 貝虫類	GMNH-PI-3162-64	*Ikeyacythereis wutzushuii* (Hu et Tao, 2008) (in Tanaka, Hasegawa et Nomura, 2010)

国指定 特別天然記念物

No.	分類群等			標本番号	種名	特別指定年月日
1	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-1028	*Diomedea albatrus* Pallas, 1769 アホウドリ	1962.04.19
2	動物	脊椎動物	哺乳類	GMNH-VM-066 ほか	*Capricornis crispus* (Temminck, 1836) カモシカ	1955.02.15
3	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-855	*Spilornis cheela* (Latham, 1790) カンムリワシ	1977.03.15
4	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-677 ほか	*Grus japonensis* (Muller, 1776) タンチョウ	1952.03.29
5	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-936 ほか	*Lagopus mutus* Montin, 1781 ライチョウ	1955.02.15
6	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA	*Nipponia nippon* (Temminck, 1835) トキ	1952.03.29

国指定 天然記念物

No.	分類群等			標本番号	種名	指定年月日
1	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-546 ほか	*Aquila chrysaetos* (Linnaeus, 1758) イヌワシ	1965.05.12

2	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-4658 ほか	*Parnassius eversmanni daisetsuzanus* Matsumura, 1926　ウスバキチョウ	1965.05.12
3	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-847 ほか	*Haliaeetus pelagicus* (Pallas, 1811) オオワシ	1970.01.23
4	動物	無脊椎動物	甲殻類	GMNH-IC-113	*Coenobita cavipes* Stimpson, 1858 オカヤドカリ	1970.11.12
5	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-31292 ほか	*Vacciniina optilete daisetsuczana* (Matsumura, 1926)　カラフトルリシジミ	1967.05.02
6	動物	脊椎動物	爬虫類	GMNH-VR-289	*Plestiodon kishinouyei*　(Stejneger, 1901)　キシノウエトカゲ	1975.06.26
7	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-9674 ほか	*Oeneis melissa daisetsuzana* Matsumura, 1926　ダイセツタカネヒカゲ	1965.05.12
8	動物	脊椎動物	鳥類	GMNH-VA-959	*Anser albifrons* (Scopoli, 1769) マガン	1971.06.28
9	動物	脊椎動物	魚類	GMNH-VP-197 ほか	*Tanakia tanago* (Tanaka, 1909) ミヤコタナゴ	1974.06.25
10	動物	脊椎動物	哺乳類	GMNH-VP-197 ほか	*Tanakia tanago* (Tanaka, 1845) ヤマネ	1975.06.26

県指定　天然記念物

No.	分類群等			標本番号	種名	指定年月日
1	地球	鉱物		GMNH-EM-781	Zunyite ズニ石（みなかみ町入須川産）	1973.08.21
2	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-858　ほか	*Colias palaeno aias* Fruhstorfer, 1903 ミヤマモンキチョウ	1977.04.01
3	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-2203　ほか	*Erebia niphonica* (Janson, 1877) ベニヒカゲ	1977.04.01
4	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-2203　ほか	*Aporia hippia japonica* Matsumura, 1919 ミヤマシロチョウ	1977.04.01
5	動物	無脊椎動物	昆虫類	GMNH-II-3332 ほか	*Luehdorfia puziloi inexpecta* Sheljuzhko, 1913　ヒメギフチョウ	1976.03.07
6	動物	脊椎動物	両生類	GMNH-VR-206 ほか	*Hynobius lichenatus* Bouleger, 1883 トウホクサンショウウオ	2007.03.27
7	動物	無脊椎動物	両生類	GMNH-VR-035 ほか	*Hynobius kimurae* Dunn, 1923 ヒダサンショウウオ	2007.03.27
8	化石	脊椎動物	両生類	GMNH-PV-001 ほか 1 点	*Rana* aff. *architemporalia* ムカシアカガエル	1996.03.29

9	化石	脊椎動物	哺乳類	GMNH-PV-2401	*Joumocetus shimizui* Kimura et Hasegawa, 2010　ジョウモウケタス	2012.03.23

(3) 収蔵資料数

番号	分　　野	29 年度登録		全登録	
		収蔵資料点数	画像登録点数	収蔵資料点数	画像登録点数
1	哺乳類	624	1	5,855	933
2	鳥類	80	0	2,157	645
3	両生･爬虫類	0	0	642	91
4	魚類･円口類	2	5	791	247
5	昆虫	1,196	0	56,454	643
6	クモ類	36	0	88	37
7	甲殻類	0	2	507	99
8	その他の節足動物	0	0	6	2
9	軟体動物	0	0	12,188	6,920
10	その他の無脊椎動物	20	33	208	99
11	ロット標本	0	0	578	0
12	種子植物	3,339	0	68,377	532
13	シダ植物	444	0	11,301	20
14	蘚苔類	0	0	670	21
15	藻類	0	0	330	39
16	地衣類	5	0	565	124
17	菌類	499	408	5,659	3,432
18	細菌類	0	0	0	0
19	人類	0	0	1,908	2,007
20	古動物	225	46	6,082	4,918
21	古植物	172	170	3,004	3,163
22	岩石	1	14	2,429	2,252
23	鉱物	10	13	1,802	1,854
24	環境･地質現象	4	7	48	43
	合　計	6,657	699	181,649	28,121

(4) 資料購入

番号	資　料　名　称	分野	数量	購　入　業　者
1	*T. rex* (STAN) 頭骨レプリカ	古生物	1	パレオサイエンス

(5) 委託（製作・資料整理）

番号	委 託 業 務 名 称	分野	数量	委 託 先 名 称
1	ティランノサウルス大腿骨等化石レプリカ作成業務委託	古生物	3	（株）パレオサイエンス
2	ナヌークサウルス頭骨レプリカ作製業務委託	古生物	1	(有)ゴビサポートジャパン
3	ミンククジラ骨格標本輸送業務委託	哺乳類	1	（株）パレオサイエンス
4	群馬県産鉱物調査収集委託	鉱　物	1	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
5	ハチドリ剥製作製業務委託	鳥　類	1	(有)上野剥製所
6	アクリル樹脂標本製作業務委託	動　物	2	国陽工芸(株)
7	群馬県産鉱物資料調査収集業務委託	鉱　物	1	ホリミネラロジー(株)
8	中生代の香り等嗅覚展示実施業務委託	その他	1	(株)ポプリ・ド・ヨーコ

(6) 寄贈資料・管理移管資料

① 寄贈資料

番号	受贈資料名称	分野	数量	寄贈者	受付年月日
1	昆虫乾燥標本（ドイツ箱） ・昆虫関係書籍	昆虫類図書	25 744	池沢　隆一	H28.6.5
2	ミンククジラ骨格標本	哺	1	非公表	H28.6.30

		乳類			
3	軟体動物標本（乾燥）	軟体動物	1518	大谷　洋子	H28.6.22
4	ウミガメ剥製等	脊椎動物・軟体動物	3	池田　武士	H28.7.3
5	キノコ模型	菌類	709	鈴木　豊江	H28.7.14
6	ニホンジカ（剥製）	哺乳類	1	山本　修	H28.7.27
7	陸産軟体動物標本等	軟体動物・棘皮動物ほか	3126	磯　泰巳	H28.8.14
8	昭島市産コククジラ類化石	古脊椎動物	一式	昭島市教育委員会	H28.8.28
9	日本産ホシクサ科植物	植物	10	高田　順	H28.9.21
10	大型哺乳類等剥製等	哺乳類鳥類ほか	144	保坂　好子	H28.10.20
11	「巨木学」	図	1	宮　誠而	H28.10.30

		書			
12	ツミ（剥製）	鳥類	1	非公表	H28.11.1
13	ヤマドリ、カモ（剥製）	鳥類	3	真砂　照代	H28.11.1
14	内山層産クジラ類頭骨化石標本	古脊椎動物	1	細谷　宗平	H28.12.25
15	サンゴ標本等	刺胞動物・軟体動物ほか	64	磯　泰巳	H29.1.25
16	ウミガメ頭骨化石標本	古脊椎動物	1	永田　健太郎	H29.3.31
17	陸棲哺乳類検体	哺乳類	812	県内市町村、環境森林事務所等	通年
18	鳥類資料	鳥類	36	県内市町村、環境森林事務所等	通年
19	両生類・爬虫類資料	両生類爬虫類	5	県内市町村、環境森林事務所等	通年

② 管理移管資料

番号	管理移管資料名称	分野	数量	移管者	受付年月日
	液浸・剥製標本	魚類、無脊椎動物、哺乳類、鳥類	30	群馬県立富岡東高校	201803

(7) 寄託資料

番号	寄託資料名称	数量	寄託者名称	寄　託　期　間
	本年度は該当無し			

(8) 貸出資料

番号	貸出資料名称	数量	貸出先名称	貸出期間	備　考
1	アマルガサウルス全身骨格	1	神流町恐竜センター	H10.3.23～	前年度から継続
2	アンモナイト化石等	5	佐野市葛生化石館	H27.6.11～H28.7.31	前年度から継続,企画展
3	ディメトロドン足跡化石、K/Pg 境界層柱状標本	2	愛媛県美術館	H27.12.15～H28.4.10	前年度から継続,特別展
4	花粉模型等	59	埼玉県立自然の博物館	H27.12.18～H28.6.30	前年度から継続,企画展
5	ハイデルベルク人産状模型等	3	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H28.1.28～H28.6.28	前年度から継続,企画展
6	カマラサウルス亜成体全身骨格、群馬産スピノサウルス類歯化石（実物）	2	朝日新聞社・国立科学博物館	H28.2.25～6.30	前年度から継続,特別展
7	ディメトロドン足跡化石、K/Pg 境界層柱状標本	2	大阪市立自然史博物館	H28.4.6～H28.7.10	特別展
8	アマルガサウルス全身骨格等	7	名古屋市科学館	H28.4.6～H28.7.10	企画展
9	群馬産スピノサウルス類歯化石（レプリカ）	1	朝日新聞社・北九州市立いのちのたび博物館	H28.6.30～9.30	特別展
10	ディメトロドン足跡化石、K/Pg 境界層柱状標本	2	岡山シティミュージアム	H28.7.8～H28.9.10	特別展
11	群馬産スピノサウルス類歯化石（レプリカ）	1	朝日新聞社等	H28.9.10～H29.1.20	特別展
12	ルビラエウス（昆虫化石）等	24	岩手県立博物館	H28.5.23～9.5	企画展
13	アマルガサウルス等	11	月山あさひ博物村（月山あさひ振興公社）	H28.6.28～10.31	特別企画展
14	アンテトニトルス部分骨格等	19	豊橋市自然史博物館	H28.6.27～10.31	特別企画展
15	アフリカゾウ頭骨等	7	萩博物館（山口県）	H28.6.28～10.14	特別展
16	アロデスムス全身骨格等	3	海遊館（大阪市）	H28.7.1～H29.5.31	企画展

17	ヤマホタルブクロ樹脂封入標本等	4	朝霞市博物館	H28.7.7～9.9	夏季テーマ展
18	ペンギン化石産状レプリカ等	3	名古屋市科学館	H28.7.1～9.15	特別展
19	チョウ頭部拡大模型	1	群馬県立ぐんま昆虫の森	H28.6.12～9.16	企画展
20	アパトサウルス大腿骨等	4	丹波竜化石工房ちーたんの館（丹波市産業経済部恐竜・観光振興課）	H28.7.22～9.1	夏期展示
21	コクチバス剥製標本	1	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H28.9.20～H29.2.10	企画展
22	ウラベニホテイシメジ（レプリカ）、ムキタケ樹脂封入標本、ツキヨタケ樹脂封入標本	3	埼玉県立自然の博物館	H28.8.24～H29.1.31	企画展
23	スイートピー（花および果実）等生物拡大模型	9	国立科学博物館	H28.12.8～H29.3.31	企画展
24	タカノホシクサ頭花	1	高田　順	H28.12.10～12.31	研究目的
25	ヤベオオツノジカ下顎骨レプリカ	1	東海化石研究会（名古屋市）	H28.12.20～H29.4.15	特別展，H29年度継続
26	有孔虫拡大模型等	26	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H29.2.2～6.30	企画展，H29年度継続
27	トゥオジアンゴサウルス全身骨格等	26	那須塩原市那須野が原博物館	H29.6.18～10.7	特別展，H28年度分

(9) 借用資料

番号	借用資料名称	数量	借用先名称	借 用 期 間	備考
1	K／T境界層標本（常設展示）	1	馬場健司	H26.4.1～H29.3.31	前年度から継続期間更新
2	アンモナイト（ヘテロケラス）等化石標本（常設展示等）	7	松原剛史	H26.4.1～H29.3.31	前年度から継続期間更新
3	沼田湖成層産貝化石等（常設展示等）	6	佐藤千代子	H26.4.1～H29.3.31	前年度から継続期間更新
4	ストロマトライト等、岩石資料（常設展示）	9	神奈川県立生命の星・地球博物館	H28.4.1～H29.3.31	前年度から継続期間更新
5	サイカニア等ヨロイ竜頭骨レプリカ標本	4	田村　博	H28.2.4～5.31	前年度から継続，企画展

6	アノマロカリス等 古生物標本	60	栃木県立博物館	H28.3.2～ 5.31	前年度から 継続,企画展
7	カブトガニ関係画像等	6	笠岡市立カブトガニ博物館	H28.3.5～ 5.15	前年度から 継続,企画展
8	ニホンイシガメ画像	1	和亀保護の会	H28.3.9～ 5.15	前年度から 継続,企画展
9	鉄黒漆塗六十二間筋兜等	17	永田　仁志 (日本甲冑武具研究保存会)	H28.3.15～ 5.15	前年度から 継続,企画展
10	甲冑魚（ドゥンクレオステウス）頭部化石標本	1	十津　守宏	H28.3.17～ 5.31	前年度から 継続,企画展
11	甲冑魚（ドゥンクレオステウス）復元模型等	2	十津　守宏	H28.3.17～ 5.31	前年度から 継続,企画展
12	*T. rex* 肋骨化石標本等	2	十津　守宏	H28.3.17～ 12.15	前年度から 継続,企画展
13	「ウォーキング with ダイナソー」映像	1	株式会社さらい	H28.3.17～ 5.15	前年度から 継続,企画展 (使用料)
14	ナノティランヌス頭骨標本等	2	北海道大学総合博物館	H28.4.8～ 12.15	企画展
15	プテラノドン	1	十津　守宏	H28.4.8～ 12.15	企画展
16	根無し山全景写真	1	ジオパーク下仁田協議会	H28.5.18～ 6.30	ﾃﾞﾒﾃｰﾙ掲載
17	ティランノサウルス 全身骨格レプリカ	1	天草市立御所浦白亜紀資料館	H28.6.21～ 12.15	企画展
18	ティランノサウルス 幼体頭骨（複製）等	3	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	H28.6.3～ 12.15	企画展
19	ティランノサウルス 下顎骨レプリカ等	4	栃木県立博物館	H28.6.8～ 12.15	企画展
20	ティランノサウルス科 歯化石（旧和泉村産）レプリカ	1	大野市教育委員会	H28.6.7～ 12.15	企画展
21	ティランノサウルス 実物標本	2	名古屋市科学館	H28.6.13～ 12.15	企画展
22	ティランノサウルス 頭骨レプリカ等	9	神奈川県立 生命の星地球博物館	H28.6.22～ 12.15	企画展
23	白亜紀化石実物標本	6	むかわ町立穂別博物館	H28.6.20～ 12.15	企画展
24	カルカロドントサウルス 頭骨等	8	十津　守宏	H28.6.23～ 12.15	企画展
25	テスケロサウルス頭骨レプリカ	1	所　十三	H28.6.11～ 12.15	企画展
26	パキケファロサウルス	21	国立科学博物館	H28.6.30～	企画展

	全身骨格レプリカ等			12.15	
27	タルボサウルス頭骨レプリカ	1	みどり市大間々博物館（コノドント館）	H28.6.30～12.15	企画展
28	恐竜化石標本	9	田村　博	H28.6.15～12.15	企画展
29	長崎市産ティラノサウルス科および他の獣脚類歯化石画像	1	福井県立恐竜博物館	H28.6.15～12.15	企画展
30	タルボサウルス幼体組み上げ全身骨格レプリカ等	2	岡山理科大学生物地球学部	H28.6.22～12.15	企画展
31	ティランノサウルス前上顎骨歯	1	所　十三	H28.6.11～12.15	企画展
32	カルカロドントサウルス頸椎等実物化石標本	4	十津　守宏	H28.6.23～12.15	企画展
33	白山市産ティラノサウルス類歯化石画像	1	白山市教育委員会	H28.6.18～12.15	企画展
34	篠山層群産ティラノサウルス類顎歯標本画像	1	兵庫県立人と自然の博物館	H28.6.30～12.15	企画展
35	カナダ産恐竜実物化石標本	1	森田　洋子	H28.7.11～12.15	企画展
36	篠山層群産ティラノサウルス類顎歯標本	1	兵庫県立人と自然の博物館	H28.9.15～12.15	企画展
37	タルボサウルス頭骨レプリカ	1	(有)ゴビサポートジャパン	H28.10.16～12.15	企画展（使用料）
38	サメ類化石標本	2	天草市立御所浦白亜紀資料館	H28.12.14～H29.12.13	研究目的
39	獣害防止ネット	1	群馬県立林業試験場	H29.1.14～5.31	H29年度へ継続,企画展
40	コウモリ乾燥標本	2	木村　吉幸	H29.1.24～5.31	H29年度へ継続,企画展
41	ヤチヒロヒダタケ標本等	2	国立科学博物館	H29.2.23～5.31	H29年度へ継続,企画展
42	尾瀬保護財団PRビデオ等	31	公益財団法人 尾瀬保護財団	H29.2.27～5.16	H29年度へ継続,企画展
43	尾瀬調査調査旗等	9	群馬県庁 尾瀬保全推進室	H29.2.27～5.16	H29年度へ継続,企画展
44	シラネワラビ等写真	20	吉井　広始	H29.2.27～5.31	H29年度へ継続,企画展
45	コウホネネクイハムシ生態写真	1	ホシザキグリーン財団	H29.2.14～5.15	H29年度へ継続,企画展
46	シマアシブトハナアブ等展翅標本3点、ナミハナアブ等写真7点	10	群馬県立ぐんま昆虫の森	H29.2.27～5.31	H29年度へ継続,企画展

47	アカシボ関係資料（粒子検体、断面写真）	2	福原　晴夫	H29.2.17～5.31	H29 年度へ継続,企画展
48	オコジョ標本	2	国立科学博物館	H29.3.3～5.31	H29 年度へ継続,企画展
49	尾瀬への取組み紹介パネル	3	(株)東京パワーテクノロジー尾瀬林業事務所	H29.3.9～5.31	H29 年度へ継続,企画展
50	ストロマトライト等、岩石資料（常設展示）	9	神奈川県立生命の星・地球博物館	H29.4.1～H30.3.31	本年度から継続期間更新

(10) 特別観覧

①研究目的

番号	観覧資料名称	数	特別観覧申請者		申請期間	備考
1	鳥類骨格標本	15	（桐生市在住）	宮崎重雄	H28.7.27	熟覧撮影
2	シカ類化石標本	4	京都大学大学院（修士課程）	鮫島悠甫	H28.8.9	熟覧実測撮影
3	ドクササコ（アクリル封入標本）	3	日本神経学会	登木口　進	H28.8.22	熟覧撮影
4	ホシクサ科植物（さく葉標本）	50	秋田自然史研究会	高田　順	H28.9.6	熟覧撮影
5	カワヂシャ類標本	3	カワゲラの会	掛川優子	H28.10.28	撮影
6	兜岩層産カエル化石標本	5	筑波大学大学院	指田勝男ほか一名	H28.12.21	熟覧模写実測撮影
7	アズマツメクサ、マメダオシ（環境省絶滅危惧種）	一式	人間環境大学	藤井　伸二	H29.1.20	熟覧
8	サメ類顎乾燥標本	一式	東京学芸大学（学部生）	徳丸沙耶夏	H29.1.18	熟覧模写実測撮影

② 撮影等の目的

番号	観覧資料名称	数	特別観覧申請者		申請期間	備考
1	ネアンデルタール人埋葬ジオラマ	1	パトリア（番組制作会社；BS-TBS 番組「花めぐり」11/26･27 放送分で使用)	勝木　孝	H28.10.4	撮影

(11) 画像等使用許可

番号	使用画像等の名称	数	使用者名称	使用開始日
1	始祖鳥復元模型	1	（株）仮説社 （「せぼねのある動物たち」掲載イラスト用参考資料）	H28.12.21 ～
2	ハドロサウルス類？の卵	1	(株)世界文化クリエイティブ （世界文化社発行「ワンダーしぜんランド9月号」掲載）	H28.9.1～
3	ディノサウロイド	1	（株）小学館（同社発行 「恐竜のクライシス」掲載）	H28.7.20～
4	動画「トリケラトプスの復元」（再利用）	1	名古屋大学博物館（博物館展示に関する講義にて3D動画の利用例として上映）	H28.5.30～
5	下仁田産鶏冠石、上黒岩産ヤベオオツノジカ	2	日本地質学会（同学会選定の「県の石」基礎資料、学会Webpage、会員向け広報誌、報道発表用資料に使用）	H28.5.10～
6	鬼押出し溶岩、下仁田産鶏冠石、上黒岩産ヤベオオツノジカ	3	読売新聞前橋支局（「県の石」群馬県分に関する新聞報道で使用）	H28.5.16
7	下仁田産鶏冠石、上黒岩産ヤベオオツノジカ	2	上毛新聞社（「県の石」群馬県分に関する新聞報道で使用）	H28.5.11
8	スピノサウルス全身骨格（飯田市美博所蔵標本）	1	(株)gb（宝島社発行TJMOOK「最新版!恐竜のすべて」に掲載）	H28.7.28～
9	研究報告20号掲載論文「青森県尻屋地域の更新統より産出した2種のウミガラス類および1新種の記載と体重推定（英文）」の図（p.63, 68）	4	渡辺順也（論文著者；北海道海鳥センター友の会会報誌「Möwe」向け解説文で使用）	H28.7～
10	研究報告20号掲載論文「北太平洋の中新統より産出した新たなアロデルフィス科クジラ類（英文）」の図（p.35, 40）	2	Olivier Lambert（Elsevier発行「The Encyclopedia of Marine Mammals, 3e」掲載予定）	H28.6.21～
11	上黒岩産 ヤベオオツノジカ	1	産総研・地質調査総合センター（「県の石」ポスター展示に使用）	H28.7.27～
12	ティランノサウルス頭骨	1	(株)小学館クリエイティブ（NHK出版発行書籍「NHKスペシャル 完全解剖ティラノサウルス」に掲載）	H28.8.22～
13	クラドセラケ、ディメトロドン、ディアトリマ（全身骨格）	3	(株)ネイチャー＆サイエンス（河出書房新社発行「楽しい動物化石」掲載）	H28.10.30 ～

14	ディノサウロイド	1	(株)小学館（同社発行「キッズペディア地球館」に掲載）	H28.11.24
15	常設展示 A5 コーナー、、B1 コーナー展示パネル	4	近藤愛子（学校法人清心幼稚園「清心フェスティバル、近藤愛子ワークショップで使用）	H28.11.12
16	群馬県産スピノサウルス類歯化石	1	(株)gb（宝島社発行 TJMOOK「世界に誇る！恐竜王国日本」掲載）	H29.1.20～
17	ディノサウロイド	1	（株）小学館（同社発行「恐竜のクライシス」中国語版に掲載予定）	H28.12.28～
18	ディノサウロイド	1	（株）小学館（同社発行「恐竜のクライシス」韓国語版に掲載予定）	H28.12.28～
19	アマルガサウルス、カマラサウルス幼体（全身骨格）	2	読売新聞大阪本社（2017 夏開催予定のメガ恐竜展 2017 の広報で使用）	H28.12.27～
20	ウグイ、オイカワ、ギンブナ、アユ、イワナ、ヤマネ	6	高崎市教育委員会（同市環境副読本「地球とともに」掲載予定）	H29.4.1～
21	上黒岩産ヤベオオツノジカ鑑定書（遍照寺所蔵）	1	日本地質学会（学会広報誌「ジオルジュ 2017 前期号の記事「怪異と古生物（仮）」掲載予定）	H29.5.10～
22	ギガノトサウルス頭骨	1	(有)ハユマ（PHP 研究所発行「巨大生物陸・海・空から大集合！」掲載）	H29.2.7～
23	常設展示Ａコーナー展示風景	1	ドゥアンドドゥプランニング(有)（岩崎書店発行「ヒサクニヒコの世界恐竜絵本」で掲載予定）	H29.6～
24	「カタクリの成長段階」（総合案内 p.41）	1	丸善出版(株)（同社発行「エコツーリズム：こころおどる里山の旅－飯能エコツアーに学ぶ」掲載）	H29.3.10～
25	常設展示Ａコーナー展示風景	1	ドゥアンドドゥプランニング(有)（技術評論社発行「生命史図譜（仮）（当館監修）」掲載予定）	H27.4～
26	トール石	1	ダドガドデザイン（別冊「元素と周期表」に掲載予定）	H29.4.1～

(12)　資料・展示関係機器等の修復

天体ドーム内にある天体望遠鏡について、平成 28 年 11 月の天体観望会の時は起動していたものの、12 月の天体観望会の時は起動しなかった。そのため同イベントではこの天体望遠鏡を活用できずにイベントを実施せざるを得なかった。その後、天体望遠鏡システムの起動系 PC 内部のハードディスクの破損が判明し、この故障に対し修繕が施され、1 月末に当館内で実施した出前授業ではこれまで通りに運用することができた。しかし、天体望遠鏡システムの起動系 PC、駆動系 PC、天体望遠鏡本体の駆動モーターなど各部位の経年劣化は否めず、別な箇所でいつ故障してもおかしくない状態である。

D コーナーの二足歩行部のガラスカバーは修繕した。A コーナーのガラスケース内照明、C コーナーの書斎、実験室キャビネット内の棚下照明は LED 化した。

一方、平成 23 年３月 11 日の地震で破損したディメトロドン実物全身骨格の棘突起は、ガラスケース内での作業作業実施が困難であるため、修復に着手しておらず、現状維持となっている。

(13)　科学系博物館情報ネットワーク開発事業自然史標本データ整備事業

国立科学博物館のＳNet（科学系博物館情報ネットワーク開発事業）及びＧＢＩＦ(地球規模生物多様性情報機構)の生物標本収蔵データベースネットワークへの参加に伴い、当館の収蔵データベースシステムにあるデータの加工・変換を行った。

・変換データ数：3,700 件（延べ数）
・データ変換委託事業期間：平成 30 年 1 月 5 日～3 月 9 日
・データ変換業務委託先：株式会社 K-Bix

上記ネットワークへのデータ提供件数は、平成29年度末で84,317件である。

(14)　文献資料等の充実

○ 購入

図書	94 冊
和雑誌	229 冊
洋雑誌	42 冊

○ 寄贈受入

図書	223 冊
雑誌	589 冊
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾒﾃﾞｨｱ	1 点
地図	1 点

○ 交換受入図書数

408 冊

○ 交換館数

国内 371 機関
海外　23 機関

４　調査研究

(1)　奥多野及び周辺地域学術調査（自然史調査）に係る調査報告書の作成

平成 26 年度から 28 年度まで実施された標記調査について調査報告書を作成した。調査報告書は、今回から web 上のみでの公表することとなった。報告書本編の URL は以下の通りである。

http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_inve

また、標本・観察データや図表などの付録データについては以下の URL にて公開した。

http://www.gmnh.pref.gunma.jp/wp-content/uploads/report07_02.xlsx

調査報告書タイトルは　群馬県立自然史博物館 自然史調査報告書　第 7 号　奥多野地域学術調査」で１．研究の経緯・目的に引き続き、２．研究報告の中で 9 編の報告がなされた。総ページ数は 59 ページである。付録データの内容は、菌類、昆虫類の採集記録、菌類の科別種数、小型ほ乳類の計測データである。

(2)　みなかみ地域学術調査（自然史調査）

①調査の背景・目的

群馬県立自然史博物館では、調査地域における動植物、古生物及び岩石・鉱物の分布を数年単位で把握する学術調査を実施し、調査結果を報告書としてホームページで公表している（http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_inve）。調査結果は、分類学的取り扱いや自然史科学的課題を議論するために活用され、県内の自然に関する重要な見識を周知することに役立っている。

これまでの学術調査では、主に自然史博物館が位置する西毛地域を中心として行われてきたが、平成 29 年度から、学術調査地域をみなかみ町及び周辺地域に設定し、5 年間をかけて学術調査を実施する。

この調査では、みなかみ町及び周辺地域の動植物、古生物及び岩石・鉱物の分布を明らかにし、当館収蔵標本と所有データの充実化を図ることで、調査結果を県内外の来館者に効果的かつ正しく伝えることを目的とする。

みなかみ地域学術調査の対象地域は非常に面積が大きく、調査ルートや標本の採集を希望する場所が国立公園、県自然環境保全地域、国有林などに該当する場合が多い。したがって、分野による活動内容のばらつきはあるものの、本調査の第一年目の平成 29 年度は、本調査の前段階である状況確認を含めた初動調査や資料調査に重きをおいた。

ア　調査日及び調査内容

４月１２日　無脊椎動物(昆虫を除く)
５月２３日　小型哺乳類
５月２７日　哺乳類
６月２３日　小型哺乳類
６月１６日　小型哺乳類
６月２０日　菌類
６月３０日　小型哺乳類
７月１９日　菌類
７月２２日　無脊椎動物(昆虫を除く)
７月２６日　無脊椎動物(昆虫を除く)
７月２７日　哺乳類
８月　４日　無脊椎動物(昆虫を除く)

８月１７日　菌類
９月１２日　菌類
１０月１２日　菌類
１１月　１日　菌類
１１月１４日　無脊椎動物(昆虫を除く)
１１月１６日　無脊椎動物(昆虫を除く)
１１月２５日　哺乳類
１１月２６日　無脊椎動物(昆虫を除く)
１１月３０日　無脊椎動物(昆虫を除く)
１２月　９日　哺乳類
２月　８日　小型哺乳類

(3)　担当分野別調査研究一覧

担当分野	内容（自然史調査を除く）	主な方法
植物	・群馬県および上信越・東北地域における維管束植物の分布調査 ・群馬県及び周辺部の絶滅危惧植物の生態と保全に関する調査 ・尾瀬のフロラに関する調査	・踏査、採集、GPS 測位、個体数モニタリング、低温シードバンク保存
菌類	・群馬県における菌類生息状況調査 ・自然史博物館博物館周辺の菌類調査	・群馬県野生きのこ同好会の採集会に参加、採集資料の収蔵 ・博物館周辺の菌類構成の季節的変化の把握 ・博物館周辺のカメラトラップ
鳥類	・群馬県における外来生物調査 ・群馬県における鳥類解剖調査 ・群馬県における放射性物質汚染状況調査	・ソウシチョウ、ガビチョウの受入、収蔵 ・野鳥病院より検体の受入 ・検体分析調査（全県・食性、繁殖状況、性別、年齢など） ・放射性物質汚染状況調査用（ゲルマニウム分析（筋肉））試料の生成、データ蓄積
哺乳類	・群馬県における哺乳類生息状況の長期モニタリング調査 ・群馬県における外来生物調査 ・群馬県における野生動物放射性物質汚染状況調査 ・ニホンジカ個体数調整事業にともなう調査 ・カモシカ個体数調整事業にともなう調査 ・イノシシ個体数調整事業にともなう調査 ・適正管理計画に関わる野生鳥獣の基礎調査	・群馬県鳥獣保護管理員、自然保護指導員報告野生動物情報調査 ・カメラトラップ調査（榛名、玉原、藤原、太田、桐生、稲含山、渡良瀬） ・検体分析調査（全県・食性、繁殖状況、死亡年齢査定） ・放射性物質汚染状況調査用（ゲルマニウム分析（筋肉）、NaI シンチレーション（全身スクリーニング）試料の生成、データ蓄積 ・シャーマントラップ調査（上野村）
脊椎動物化石	・群馬県産ならびに当館所蔵の脊椎動物化石、ならびにそれらと関連性の深い地層や化石に関する調査研究	・収蔵標本のプレパレーションやその研究 ・フィールド調査（県外を含む） ・他の博物館の収蔵標本調査（比較標本など）

		・各分類群の専門家、他団体との共同研究 ・採集、寄贈等による標本収集
無脊椎動物化石	・群馬県産ならびに当館所蔵の無脊椎動物化石、ならびにそれらと関連性の深い地層や化石に関する調査研究	・収蔵標本のプレパレーションやその研究 ・フィールド調査（県外を含む） ・他の博物館の収蔵標本調査（比較標本など） ・各分類群の専門家、他団体との共同研究 ・採集、寄贈等による標本収集
植物化石	・群馬県産ならびに当館所蔵の植物化石、ならびにそれらと関連性の深い地層や化石に関する調査研究	・収蔵標本のプレパレーションやその研究 ・フィールド調査（県外を含む） ・他の博物館の収蔵標本調査（比較標本など） ・各分類群の専門家、他団体との共同研究 ・採集、寄贈等による標本収集
地質・岩石	・荒船山周辺の成因に関わる地質・岩石調査 ・南牧村の三段の滝及び大岩周辺の地質・岩石調査 ・本白根火山の火山灰降灰分布調査	・フィールド調査に基づく岩石の産状及び岩相記載 ・肉眼及び偏光顕微鏡を用いた岩石記載 ・積雪場における火山灰の降灰確認及び採集 ・火山灰の構成粒子観察
鉱物	下仁田町の西牧鉱山に産する鶏冠石に関わる調査研究	・粉末Ｘ線回折装置を用いた構成鉱物の同定
無脊椎動物(昆虫を除く)	群馬県における無脊椎動物(昆虫を除く)生息状況調査	・フィールド調査 ・採集資料の収蔵

(4)　美術館・博物館調査研究

「化石でさぐる哺乳類の進化（仮題）」

今生きている様々な脊椎動物の仲間の中でも、哺乳類は自然の中や動物園などで容易に目にすることができる仲間であり、私たちヒト自身もそれを構成する種である。の祖先にあたる単弓類を含めると約３億年以上となる歴史がある。この仲間は、その生息圏の拡大をその歴史の中で数度にわたり試みており、現在は樹上を含む地上だけでなく、地中や海中、そして空中にも分布している。この企画展では単弓類の存在や数度にわたる放散、そして特に約 6600 万年前以降の複数の大陸で発展した真獣類の多様化を紹介し、進化と地球環境との関係性を示すことで、生物多様性の意義とその重要性を紹介する。

本調査研究では、国立科学博物館（つくば）や神奈川県立生命の星・地球博物館など近隣の博物館を視察し、当館で所蔵していない標本の有無や展示内容へのアドバイスをいただき、その成果を元に基本設計を実施した。また一部の展示用標本の取得も行った。なお、当企画展のタイトルについては、平成 29 年 12 月に「化石動物園～哺乳類３億年の歴史～」と決定し、これが平成 30 年度上期のイベントカレンダー以降、使用されている。

「谷川連峰の自然」

谷川連峰を中心とするみなかみ町のエリアは平成 29 年に UNESCO エコパークに指定された。本地域は、多雪に急峻な地形という特異な環境を有するのみならず、日本本土の中央部にあり、生物の分布や過去の移動経路として重要な意味をもつ。さらに猛禽類の存在や発達したブナ林など、自然度の高い生態系が保存された地域として、また、その自然が志賀高原から尾瀬・奥只見に続く「回廊」としての高い学術的価値をもっている。

本企画展を開催するにあたり、関連する山岳系の博物館に赴き、展示内容や方法を参考とした。また、エコパークや赤谷プロジェクトなど関係機関での情報収集を、国立科学博物館での標本資料調査、さらに現地での写真撮影を行った。

地域活動支援

「ぐんまの自然のいまを伝える」の調査

当館では、自然保護・保全に携わる団体等の活動成果を当館所蔵の実物標本を活用しながら、県民に展示、教育普及することで、県民の地域の生物多様性保全への関心を高めることを目的に「ぐんまの自然の『いま』を伝える報告会」開催してきた。平成 29 年度は生物多様性の主流化、SDGs の目標達成等、環境と保全に関する地球規模の大きな課題を多く抱える中で、参加者が主体的にかつ自立して展示を出展できるよう、働きかけを行った。また参加型展示を実施している他館の調査を行い、生物多様性、にじゅうまるプロジェクトに関連する会議等にも積極的に参加し、平成 29 年度の特別展に反映するとともに、平成 30 年度以降の特別展のあり方について検討を重ねた。

(5) 群馬県立自然史博物館研究報告第 22 号の発行

内容は、論文 12 編（原著論文 9、短報 2、その他 1）である。12 編のうち、外部からの投稿が 7 編であった。

(6) 外部連携による調査研究

事業名	分担区分	担当者名	外部資金	連携組織 資金提供組織	市民団体・自然保護団体	備考
良好な自然環境を有する地域学術調査	分担	大森威宏 姉崎智子 髙桒祐司 菅原久誠	○	群馬県自然環境調査研究会		
生物多様性モニタリング調査	分担	大森威宏 姉崎智子	○	群馬県自然環境調査研究会		
群馬県特定外来生物生息状況調査	代表	姉崎智子	○	群馬県自然環境課		
群馬県希少野生動植物保護条例に係る特定県内希少動植物種モニタリング調査	分担	大森威宏	○	群馬県自然環境課		
環境省第 5 次レッドリスト作成のための調査	県主任調査員	大森威宏	○	日本植物分類学会		
第 4 次尾瀬総合学術調査　基礎研究部会	ｲﾝﾍﾞﾝﾄﾘｰGL	大森威宏	○	第 4 次尾瀬総合学術調査団		
希少植物の生態と保護増殖に関する研究	分担	大森威宏	○	日本植物園協会		
尾瀬における植物分布調査およびシカ食害調査	分担	大森威宏	○	群馬県自然環境課尾瀬保全推進室		
モニタリングサイト 1000 湖沼調査（赤城大沼）	分担	大森威宏	○	環境省		
群馬県シードバンク構築事業	代表	大森威宏	○	群馬県自然環境課		H23～
山中層群の古生物学的研究	連携	髙桒祐司		神流町恐竜センター、埼玉県立自然の博物館等		
絶滅爬虫類の脳形態に関する研究	連携	髙桒祐司		對比地孝亘 （東京大学理学部）		

蝦夷層群を中心とした後期白亜紀サメ類群集に関する研究	連携	髙桒祐司		三笠市立博物館等		
東アジアにおける新生界軟骨魚類群集の変遷に関する研究	連携	髙桒祐司		佐賀県立宇宙科学館、天草市立御所浦白亜紀資料館等		
日本の更新世シカ類に関する研究	連携	髙桒祐司		長岡市立科学博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、千葉県立中央博物館等		
古生物系標本横断データベースの構築	連携	髙桒祐司		東京大学総合研究博物館		
来馬層群産脊椎動物化石に関する研究	連携	髙桒祐司		フォッサマグナミュージアム		
群馬県内における菌類調査	連携	伊藤智史		群馬県林業試験場 群馬県野生きのこ同好会		
昭島市産ヒゲクジラ類化石に関する研究	連携	木村敏之		国立科学博物館		
瑞浪市産クジラ類化石に関する研究	連携	木村敏之		瑞浪市化石博物館		
群馬県特定動物保護管理計画にともなう検体分析事業（ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、ニホンジカ、ニホンイノシシ）	連携	姉崎智子		群馬県自然環境課、市町村 東京農業大学、（財）自然環境研究センター、京都大学霊長類研究所、総合研究大学院大学、麻布大学		
尾瀬シカ捕獲事業における科学的な分析	分担	姉崎智子	○	群馬県自然環境課尾瀬保全推進室、群馬県自然環境課野生動物係		
赤城シカ対策事業におけるシカの科学的な分析	分担	姉崎智子	○	群馬県自然環境課野生動物係		
神津牧場シカ対策事業におけるシカの科学的な分析	分担	姉崎智子	○	群馬県自然環境課野生動物係		
太田金山イノシシ対策事業におけるイノシシの科学的な分析	分担	姉崎智子	○	群馬県自然環境課野生動物係		
群馬県における野生動物カメラトラップ調査	連携	姉崎智子		利根沼田自然を愛する会 桐生自然観察の森	○	
セルロース分解に関する消化管内細菌叢とその制御システムの多様性	共同	姉崎智子	○	琉球大学熱帯生物圏研究センター、京都大学霊長類研究所		
群馬県産ニホンザルの遺伝的多様性	共同	姉崎智子		京都大学霊長類研究所		
群馬県内におけるニホンジカの遺伝的多様性	共同	姉崎智子		麻布大学		
群馬県内におけるニホンカモシカの遺伝的多様性	共同	姉崎智子		麻布大学		
群馬県におけるツキノワグマの遺伝的多様性	共同	姉崎智子		東京農業大学、東京農工大学		
群馬県におけるツキノワグマの遺伝的追跡調査	共同	姉崎智子		東京農工大学、森林総合研究所		
「海洋教育」体感型アウトリ	代表	姉崎智子	○	船の科学館ミュージ		

ーチ補助教材（トランクキット）開発				アムサポートプログラム２		
尾瀬産維管束植物の分布と保全に関する研究	連携	大森威宏		黒沢高秀（福島大学）		
日本産カヤツリグサ科分布図作成事業	連携	大森威宏		すげの会		
東北日本産トリカブト属植物の分子系統学的研究	連携	大森威宏	○	中屋敷　徳（岩手医科大）		
雲場池シードバンク撒きだし事業	連携	大森威宏		軽井沢サクラソウ会議	○	
川場村誌調査員（植物）	分担	大森威宏	○	川場村		
共同利用研究「群馬県空中写真デジタル化・環境解析事業」	連携	姉崎智子		同志社大学		
動物園個体の標本化・収蔵	連携	姉崎智子		株式会社群馬サファリワールド、桐生市桐生が岡動物園		
西牧鉱山に関する学際的研究	連携	菅原久誠		鉱山研究会		
インドネシアの金鉱山地域における水銀汚染リスクの低減に関する超学際的研究	分担	菅原久誠		愛媛大学		

・外部研究者への調査協力

研究テーマ	協力者	協力元代表研究者名（所属）	備考
環境省絶滅危惧種の分布	大森威宏	藤井伸二（人間環境大）	情報提供
群馬県産アザミ・トリカブトについて	大森威宏	門田裕一（元国立科学博物館）	情報提供
ミヤマヤナギの分布と分類学的な取り扱いについて	大森威宏	David Glenny (The Allan Herbarium: NZL)	情報提供
当館の資料取扱要領について	髙桒祐司	加藤ゆき（神奈川県立生命の星・地球博物館）	情報提供
博物館の収蔵庫の仕様基準について	髙桒祐司	林　光武（栃木県立博物館）	情報提供
学校所蔵標本の保管・活用例について	髙桒祐司	白井亮久（武蔵高等学校）	情報提供
兜岩層産クモ類化石について	髙桒祐司	筒井学（群馬県立ぐんま昆虫の森）	情報提供
廃校を宿泊施設とした活用例について	髙桒祐司	小林快次（北海道大学総合博物館）	情報提供
海外産標本の産地の規制について	髙桒祐司	茨木洋介（フォッサマグナミュージアム）	情報提供

大学院修士論文のテーマについて	髙桒祐司	太田　晶（北海道大学大学院）	情報提供
サメ類の進化について	髙桒祐司	髙野朋子（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）	情報提供
県埋文・研究紀要の所蔵状況について	髙桒祐司	佐藤興平（気象大学校）	情報提供
久慈層群産板鰓類化石について	髙桒祐司	平山廉（早稲田大学）	標本同定に関する情報提供
エディアカラ型生物群の標本の収蔵状況について	髙桒祐司	佐々木智啓（東京大学大学院）	標本に関する情報提供
キクザメ類標本の収蔵状況について	髙桒祐司	佐藤たまき（東京学芸大学）	標本に関する情報提供
ディプロモセラスについて	髙桒祐司	安藤寿男（茨城大学）	標本に関する情報提供
クモ類化石標本の収蔵状況について	髙桒祐司	筒井　学（ぐんま昆虫の森）	標本に関する情報提供
関東支部の巡検で依頼可能な県内のバス会社について	髙桒祐司	笠間友博（日本地質学会関東支部）	情報提供
塩ノ沢石灰岩に関する文献について	髙桒祐司	下仁田町自然史館	情報提供
貸出可能なオオツノジカの標本の収蔵状況について	髙桒祐司	九州国立博物館	情報提供
大学講義での T.rex 展図録の使用について	髙桒祐司	石垣　忍（岡山理科大学）	入手方法に関する情報提供
ハクジラ類化石標本について	木村敏之	村上瑞季（早稲田大学）	標本同定に関する議論
カワイルカ類化石標本について	木村敏之	松岡廣繁（京都大学）	標本に関する情報提供
ミトコンドリア DNA ハプロタイプ分析による群馬県ツキノワクマの遺伝的集団構造	姉崎智子	佐々木剛（東京農業大学）	試料提供
ツキノワグマの安定同位体分析	姉崎智子	小池啓介（東京農工大学）	試料提供
ツキノワグマの核 DNA 解析	姉崎智子	大西尚樹（森林総合研究所）	試料提供

ツキノワグマの放射性セシウム汚染・筋肉と血液の相関性	姉崎智子	山崎晃司（東京農業大学）	試料提供
群馬県ニホンザル苦味受容体遺伝子解析	姉崎智子	今井啓雄、鈴木南美（京都大学霊長類研究所）	試料提供
群馬県ニホンジカの遺伝的集団構造	姉崎智子	南正人（麻布大学）	試料提供
群馬県ニホンカモシカの遺伝的集団構造	姉崎智子	南正人（麻布大学）	試料提供
日本産ワニ類化石について	長谷川善和	飯島正也（北海道大学大学院）	
琉球列島産シカ類化石について	長谷川善和	榊山　匠（北海道大学大学院）	
国内産カメ類化石について	長谷川善和	高橋亮雄（岡山理科大学）	
港川人遺跡の両生・爬虫類研究	長谷川善和	池田忠広（兵庫県立人と自然の博物館）	
日本産ワニ類化石について	長谷川善和	堀　睦（北海道大学大学院）	

(7) 協働的調査研究の状況

①みんなで調べる群馬の自然史の実績
　ツバメ調査
②外部団体との協働実績
　哺乳類のカメラトラップ調査　利根沼田自然を愛する会
　　桐生自然観察の森
　地衣類調査（玉原）　利根沼田自然を愛する会

(8) 特別研究員

①　趣旨
・群馬県立自然史博物館における調査研究活動の充実を図るため、特別研究員の登録制度を設ける。
・特別研究員が博物館において継続的に活動することにより、博物館の基本構想で事業目標としている担い手の輪の創造に資することを目的とする。
②　活動内容
・自然史の特定テーマを深く追究することを目的として承認された者は、博物館の施設を利用して研究することができる。
・特別研究員は調査研究について博物館職員に援助を求めることができるとともに、博物館職員は適宜必要な助言や指導を行うものとする。
・調査研究の過程で収集した資料及び成果については、原則として博物館に帰属する。その際、博物館資料担当職員の了解のもと、博物館の資料として登録する。
③　今年度の特別研究員３名の研究課題
・電子顕微鏡を用いた群馬県内に産する菌類データベースの作成

・群馬県西毛地域における蘚苔類・地衣類調査
・下総層群から産出する有孔虫化石

5 情報システム

自然史博物館情報システムは平成 28 年 10 月 1 日より第四次システムの運用を開始した。従来のシステムの経年による機器更新に加え，一部のサーバをクラウド化するなど，一層の県民サービスの向上，安定性の向上を図った．システム概要は以下の通りである。情報システムは 5 つのサブシステムから構成されており、これらが相互連携して機能することにより、来館者、外部利用者、館職員が利用しやすいように設計されている。

(1) 収蔵品管理システム

収蔵資料の属性データをデジタル化して一元管理するためのシステムである。データは採集関係、産地関係をはじめとする属性情報だけでなく、当該資料の画像等の管理も行っている。また、一元管理されたデータは、展示情報システム、普及広報システムと連携を図ることで、有効活用している。使用ソフトウェアは Musetheque V4（富士通製）である。第４次システムよりデータセンターを利用したクラウド化をすることによりデータの安全性の一層の向上を図っている．また 3D スキャナを導入し，収蔵資料の３次元情報についても蓄積を行う．このほか 3D プリンタ，4K 対応ビデオカメラも導入された．

(2) 展示情報システム

情報コーナー展示システム、常設展示用展示システム、来館案内システムの 3 つからなる。収蔵情報・クイズ・ビデオ・図書情報が簡単な操作で見られるように構成されており、館内の情報コーナー及び各展示コーナーの端末で利用できる。情報コーナーでは全てが、一方、各展示コーナーでは該当部分のみを利用できる。収蔵情報は、収蔵品管理システムと連動しており、新たな収蔵品の更新情報を直ちに見ることができる。ビデオ番組は、群馬県内の自然環境および景勝地などを過去に撮影したもの等、合計 200 タイトルを保有している。来館案内は、企画展、イベントの情報を、博物館エントランスに設置したディスプレイで常時配信している。また第４次システムでは風除室での情報配信も新たに開始し，一層の来館者サービスの向上に努めている．また学習室プロジェクタも第 4 次システムにより更新した．

(3) 図書文献管理システム

館所蔵の図書文献を管理するシステムである。収蔵品管理システムと同様に、一元管理された図書情報は、展示情報システム、普及広報システムと連携を図ることで、有効活用しており、展示情報システム、普及広報システムに反映され、来館者が図書室、情報コーナーに保管している図書を館の内外から検索できる。収蔵システム同様にデータセンターを利用したクラウド化を行うことで，データの安全性の向上を図っている．

(4) 普及広報システム

インターネット上のＨＰにおいて、イベント、博物館活用ネットワーク、友の会、ボランティア、収蔵品、図書、博物館実習等の各情報や、施設案内・博物館だよりなどを紹介している。展示室・イベント情報については動画配信を行っている。学習用ワークシート、調査報告書、博物館便り（デメテール）は、すべて HP からダウンロードできる。また、イベントや団体・学校利用に関する質問、博物館の資料・展示・研究に関する質問、システム・ホームページに関する質問について、それぞれ電子メールでの対応も行っている。なお第４次システムでは，より柔軟かつ迅速な情報提供を行うことを目的として CMS を導入した．

(5) 学習支援システム

学校から学年単位などの団体で来館し、展示室で課題解決学習を行いたいという要望に応える形で作成したプログラムである。児童・生徒が各コーナーの展示資料の見方や展示場所をコンピュータで調べ、実物の資料を観察ながら学習できるシステムである。

６　出版・広報事業

(1)　出版物

①学術的著作、普及的著作

種類	名　　称	規格	頁数	部数
企画展図録	アマゾンはいま	A4 版ｶﾗｰ	54	1,000
	ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由	A4 版ｶﾗｰ	52	800
	ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅	A4 版ｶﾗｰ	36	800
研究報告	研究報告 22 号	A4 版一部ｶﾗｰ	143	600
パンフレット	みんなで調べる！鳥の羽毛を探そう！	B4 二折ｶﾗｰ	4	2,000
	みんなで調べる！トンボを探そう！	B4 二折ｶﾗｰ	4	2,000
	海藻ってなに？	A4 版ｶﾗｰ		200
	海藻ってなに？（点字）	A4		50
	浜／干潟を探索しよう	A4 版ｶﾗｰ		200
	浜／干潟（点字）	A4		50
	バックヤードと学芸員の仕事	A4 版ｶﾗｰ	8	2,100

②広報用印刷物

種類	名　　称	規格	頁数	部数
博物館だより	自然史博物館だより「デメテール」No69	A4 版ｶﾗｰ	4	9,500
	自然史博物館だより「デメテール」No70	A4 版ｶﾗｰ	4	9,500
	自然史博物館だより「デメテール」No71	A4 版ｶﾗｰ	4	9,500
ポスター	第 54 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 54 回企画展ポスター	B3 版ｶﾗｰ		200
	第 55 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 55 回企画展ポスター	B3 版ｶﾗｰ		200
	特別展ぐんまの自然のいまポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	特別展ふんまの自然のいまポスター	B3 版ｶﾗｰ		200
	第 56 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 56 回企画展ポスター	B3 版ｶﾗｰ		100
企画展・特別展リーフレット	第 54 回企画展	A4 版ｶﾗｰ		172,000
	第 55 回企画展	A4 版ｶﾗｰ		172,000
	特別展	A4 版ｶﾗｰ		17,000
	第 56 回企画展	A4 版ｶﾗｰ		172,000
リーフレット	イベントガイド 2017.10～2018.3	A3 版横観音開き表ｶﾗｰ･裏１色		25,000

	イベントガイド 2018.4～2018.9	A3 版横観音開き 表ｶﾗｰ･裏１色		25,000

(2)　出版物の主な配布先（研究報告を除く）

群馬県	市町村教育委員会、小中学校、高等学校、幼稚園、保育園、大学、短期大学、公民館、道の駅、地元企業、報道機関、ホテル、旅館、観光施設、児童館、病院
埼玉県	小中学校（一部）、公民館（一部）、旅行業者（一部）
東京都	市町村教委（一部）
栃木県	小中学校（足利・佐野地域）、市町村教委（一部）、旅行業者（一部）
長野県	小中学校（一部）、市町村教委（一部）、旅行業者（一部）
その他	関東近県博物館、同美術館等

(3)　広報（情報発信）・広告・取材

見学予定の団体に対してプロモーション用ＤＶＤの貸出を行った。さらに写真･資料を雑誌･広報誌等に提供し、館および企画展を紹介した。

①プロモーション用ＤＶＤの貸出

平成 28 年度貸出件数 67 件

②　活字媒体による情報資料掲載

ア　県広報等からの発信（３１件）

出版社等の名称	掲載誌（紙）	発行日（号）	内容
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.4.6	サイエンス・サタデー「ツバメ型グライダーをつくろう」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.4.8	講演会「尾瀬ガイダンス」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.4.16	自然史講座「ツバメの多様な求愛戦略」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.4.23	企画展「尾瀬を科学する」
群馬県	ぐんま広報	2017.5.7	博物館の日イベント
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.5.6	講演会「尾瀬保護専門委員リレー講演会」
群馬県	教育ぐんま	2017.5.10	第５４回企画展「アマゾンはいま」
群馬県	ぐんま広報	2017.6.4	サイエンス・サタデー「光るスライムをつくろう」
群馬県	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.7.1	イオンモール高崎で移動博物館
群馬県	ぐんま広報	2017.7.2	第５４回企画展「アマゾンはいま」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.7.5	サイエンス・サタデー「アマゾンのチョウをつくろう」

上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.7.8	自然史講座「地球史４６億年を楽しむ」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.7.12	企画展イベント　群馬でカーニバル！　「灼熱のサンバショー」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.8.1	講演会「アマゾン川の固有種アマゾンマナティーってどんな動物？」
群馬県	ぐんま広報	2017.8.6	サイエンス・サタデー「翼竜アンハングエラをつくろう」
群馬県	ぐんま広報	2017.9.3	サイエンス・サタデー「アンモナイト化石レプリカに色つけをしよう」
群馬県	ぐんま広報	2017.10.1	第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.10.1	自然史講座「骨は語る～人骨に刻まれた個性を読み解く自然人類学～」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.10.5	サイエンス・サタデー「においのするカラフルスライムをつくろう」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2017.10.6	講演会「世界の１０大トレイルとニッポンのロングトレイル」
群馬県	ぐんま広報	2017.11.5	サイエンス・サタデー「河原の石をよく見て、さわって、遊ぼう」
群馬県	ぐんま広報	2017.12.3	サイエンス・サタデー「コケのテラリウムをつくろう」
群馬県	ぐんま広報	2018.1.1	特別展「ぐんまの自然のいま」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.1.1	サイエンス・サタデー「動物糸電話をつくろう」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.1.7	自然史講座「きのこの自然誌」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.1.12	ミュージアムスクール生による研究発表会
群馬県	ぐんま広報	2017.2.4	サイエンス・サタデー「木の葉の化石をさがそう」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.3.1	移動博物館「中之条町立中央公民館で移動博物館」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.3.2	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2018.3.4	高校生学芸員「研究発表会」
群馬県	ぐんま広報	2018.3.4	第５６回企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」

イ　上記以外からの発信（９８件）

出版社等の名称	掲載誌（紙）	発行日（号）	内容
富岡市	広報とみおか	2017.4.1	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
高崎市 教育委員会	たかさき子ども活動デー・インフォメーション	2017.4.1	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2017.4.1	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.4.1	自然史博物館の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2017.4.14	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「テレナイン」	2017.4.16	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
群馬東部よみうり新聞社	ビバアミーゴ	2017.4.21	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
上毛新聞 TR サービス	月刊デリジェイ	2017.4.25	企画展「尾瀬を科学する」の紹介
元裕社	ハロートラベル群馬	2017.4.28	自然史博物館の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.5.1	自然史博物館の紹介
全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2017.5.1	博物館イベントの紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「オピニオン２１」	2017.5.10	学芸員の仕事とは？
日本博物館協会	博物館研究	2017.6.1	自然史博物館の紹介
株式会社 未来社	群馬県版　道の駅夏号	2017.6.1	自然史博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「オピニオン２１」	2017.6.30	標本継承へ大切な燻蒸
赤尾商事株式会社	テイル君だより	2017.7.1	自然史博物館の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.7.1	自然史博物館の紹介
高崎市 教育委員会	たかさき子ども活動デー・インフォメーション	2017.7.1	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2017.7.1	企画展「アマゾンはいま」イベントの紹介
ぷらざ編集部	月刊ぷらざ	2017.7.1	自然史博物館の紹介
株式会社 JTB パブリッシング	るるぶ群馬　草津　伊香保　富岡’１８	2017.7.1	自然史博物館の紹介

株式会社ジャパン・トータル・クラブ	THE　CLUB	2017.7.1	自然史博物館の紹介
全国科学　博物館協議会	全科協NEWS	2017.7.1	博物館イベントの紹介
上毛新聞社	子ども新聞週間風っ子	2017.7.9	企画展「アマゾンはいま」の紹介
群馬よみうり新聞社	タウンぐんま	2017.7.14	企画展「アマゾンはいま」の紹介
信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞	2017.7.15	企画展「アマゾンはいま」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2017.7.16	企画展「アマゾンはいま」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞マリオン	2017.7.18	企画展「アマゾンはいま」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2017.7.21	企画展「アマゾンはいま」の紹介
株式会社ニュートンプレス	Newton	2017.7.26	企画展「アマゾンはいま」の紹介
株式会社ニュートンプレス	Newton	2017.7.26	自然史博物館の紹介
群馬よみうり新聞社	ビバアミーゴ	2017.7.28	企画展「アマゾンはいま」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2017.7.28	企画展「アマゾンはいま」の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.8.1	自然史博物館の紹介
富岡市	広報とみおか	2017.8.1	企画展「アマゾンはいま」の紹介
新潟日報社	新潟日報	2017.8.７	企画展「アマゾンはいま」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.8.10	企画展「アマゾンはいま」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.8.10	サイエンス・サタデー「翼竜アンハングエラをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2017.8.11	企画展「アマゾンはいま」３万人セレモニー
上毛新聞社	上毛新聞「オピニオン２１」	2017.8.11	研究意欲を高める効果
上毛新聞社	上毛新聞	2017.8.12	企画展講演会「アマゾンマナティー」
旅行読売出版社	旅行読売	2017.8.28	自然史博物館の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.9.1	自然史博物館の紹介
JR東日本	小さな旅群馬富岡エリア	2017.9.1	自然史博物館の紹介

全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2017.9.1	博物館イベントの紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2017.9.15	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
上毛新聞 TR サービス	月刊デリジェイ	2017.9.25	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
株式会社中広	まま・ここっと	2017. ９.29	群馬県民の日特集
株式会社 群馬銀行	群馬銀行グループ報１０月号	2017.10.1	自然史博物館の紹介
高崎市 教育委員会	たかさき子ども活動デー・インフォメーション	2017.10.1	自然史博物館の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.10.1	自然史博物館の紹介
朝日新聞社	朝日新聞マリオン	2017.10.3	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「オピニオン２１」	2017.10.3	博物館はあゆみ続ける
群馬よみうり新聞社	タウンぐんま	2017.10.6	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.10.6	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
読売新聞社	読売新聞	2017.10.20	群馬県民の日特集
株式会社ニュートンプレス	Newton	2017.10.26	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
群馬よみうり新聞社	ビバアミーゴ	2017.10.27	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2017.11.1	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
富岡市	広報とみおか	2017.11.1	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2017.11.1	博物館イベントの紹介
日本博物館協会	博物館研究	2017.11.1	自然史博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.11.2	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.11.9	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2017.11.14	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介
新潟日報社	新潟日報	2017.11.20	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介

日本博物館協会	博物館研究	2017.12.1	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2017.12.1	自然史講座「きのこの自然誌」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2017.12.4	水辺の外来植物紹介
全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2018.1.1	博物館イベントの紹介
全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2018.1.1	博物館 D コーナーの改修について
日本博物館協会	博物館研究	2018.1.1	自然史博物館の紹介
高崎市 教育委員会	たかさき子ども活動デー・インフォメーション	2018.1.1	自然史博物館の紹介
富岡市	広報とみおか	2018.1.1	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞マリオン	2018.1.17	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
日本博物館協会	博物館研究	2018.2.1	自然史博物館の紹介
株式会社　リクルートホールディングス	関東東北じゃらん	2018.2.1	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2018.2.1	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
株式会社ニュートンプレス	Newton	2018.2.7	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2018.2.9	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞マリオン	2018.2.13	特別展「ぐんまの自然のいま」の紹介
全国科学 博物館協議会	全科協 NEWS	2018.3.1	博物館イベントの紹介
日本博物館協会	博物館研究	2018.3.1	自然史博物館の紹介
ASA 富岡 中木新聞店	ニューライフ富岡	2018.3.1	高校生学芸員研究発表会の紹介
株式会社　未来社	群馬県版　道の駅春号	2018.3.1	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2018.3.2	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石をみつけよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2018.3.5	ニホンカワウソ胎児標本公開の紹介
信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞	2018.3.6	沼田河岸段丘のアルミ模型の紹介

長野日報	長野日報	2018.3.7	沼田河岸段丘のアルミ模型の紹介
岡谷市民新聞	岡谷市民新聞	2018.3.8	沼田河岸段丘のアルミ模型の紹介
群馬よみうり新聞社	タウンぐんま	2018.3.16	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2018.3.16	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2018.3.17	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2018.3.17	企画展講演会「利根川に影響を与えた火山噴火の歴史」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2018.3.21	企画展ワークショップ「大水上山の魅力を語る」の紹介
信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞	2018.3.22	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞マリオン	2018.3.27	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2018.3.28	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介

③　電波媒体による情報発信

ア　県広報等からの発信（３６件）

氏名	電波媒体	番組名等	放送内容	放送年月
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	講演会「尾瀬ガイダンス」	2017.4.5
静野　聡	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展「尾瀬を科学する」	2017.4.6
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座 「ツバメの多様な求愛戦略」	2017.4.12
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「ツバメ型グライダーをつくろう」	2017.4.13
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「尾瀬を科学する」	2017.4.19
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	博物館の日イベント	2017.5.11
月田典寿	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	博物館の日イベント	2017.5.11

小須田健志	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	博物館探検隊	2017.6.26
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	移動博物館	2017.6.29
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	博物館探検隊	2017.6.2
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「光るスライムをつくろう」	2017.6.9
月田典寿	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	移動博物館	2017.6.21
小須田健志	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	博物館探検隊	2017.6.26
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	移動博物館	2017.6.29
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「地球史４６億年を楽しむ」	2017.7.7
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５４回企画展「アマゾンはいま」	2017.7.12
小須田健志	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	第５４回企画展「アマゾンはいま」	2017.7.10
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５４回企画展「アマゾンはいま」	2017.8.10
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「翼竜アンハングエラをつくろう」	2017.8.17
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「アンモナイト化石レプリカに色つけをしよう」	2017.9.15
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」	2017.9.26
静野　聡	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」	2017.9.28

静野　聡	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「においのするカラフルスライムをつくろう」	2017.10.5
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」	2017.10.11
小須田健志	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「河原の石をよく見て、さわって、遊ぼう」	2017.11.2
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５５回企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」	2017.11.22
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「コケのテラリウムをつくろう」	2017.12.1
月田典寿	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「コケのテラリウムをつくろう」	2017.12.1
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	特別展「ぐんまの自然のいま」	2018.1.11
月田典寿	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	特別展「ぐんまの自然のいま」	2018.1.11
小須田健志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「きのこの自然誌」	2018.1.19
月田典寿	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	特別展「ぐんまの自然のいま」	2018.2.7
月田典寿	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	高校生学芸員「研究発表会」	2018.2.22
静野　聡	FMいせさき	まん中・ぐんま元気情報	第５６回企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」	2018.3.1
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石をみつけよう」	2018.3.9
静野　聡	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第５６回企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」	2018.3.20

イ　上記以外からの発信（２７件）

氏名	電波媒体	番組名等	放送内容	放送年月

大森威宏	NHK 前橋	ほっとぐんま640	企画展「尾瀬を科学する」	2017.4.11
大森威宏	NHK	NHKニュース（首都圏）	企画展「尾瀬を科学する」	2017.4.11
アナウンサー読み	群馬テレビ	News Just6	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.17
アナウンサー読み	群馬テレビ	ニュース eye8	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.17
長谷川善和	テレビ東京	出没！アド街ック天国	自然史博物館について	2017.7.22
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.22
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.23
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.29
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.7.30
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.8.5
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.8.6
アナウンサー読み	テレビ信州	ゆうがたＧｅｔ！	ティランノサウルスの紹介	2017.8.7
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.8.13
アナウンサー読み	TBS ラジオ	フリースポットCM	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.8.14
アナウンサー読み	TBS ラジオ	ススめて！小森谷さん	企画展「アマゾンはいま」の紹介	2017.8.14

髙桒祐司	ラジオ高崎	Air Place 「大人の学校」	博物館の仕事について	2017.8.29
アナウンサー読み	NHK 前橋	ほっとぐんま640	企画展「アマゾンはいま」	2017.8.31
アナウンサー読み	群馬テレビ	News Just6	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.8
アナウンサー読み	群馬テレビ	ニュース eye8	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.8
アナウンサー読み	ＦＭ群馬	ユウガチャ	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.10
アナウンサー読み	群馬テレビ	ぐんま一番	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.13
菅原久誠	NHK 前橋	ほっとぐんま640	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.20
菅原久誠	NHK	NHKニュース（首都圏）	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.20
菅原久誠	ラジオ高崎	Air Place 「大人の学校」	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.10.31
アナウンサー読み	ＦＭ群馬	ユウガチャ	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」の紹介	2017.11.14
アナウンサー読み	群馬テレビ	News Just6	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介	2017.3.20
アナウンサー読み	群馬テレビ	ニュース eye8	企画展「ぐんまちゃんとめぐる利根川の旅」の紹介	2017.3.20

④　取材対応（１６件）

出版社等の名称	掲載誌（紙）	発行日（号）	内　　容
上毛新聞社	上毛新聞	2017.4.26	企画展２万人セレモニーについて
上毛新聞社	上毛新聞	2017.7.1	移動博物館について
上毛新聞社	上毛新聞	2017.7.15	企画展「アマゾンはいま」について

上毛新聞社	上毛新聞	2017.8.11	企画展３万人セレモニーについて
上毛新聞社	上毛新聞	2017.10.7	企画展「ぐんまの景観がこんなにも素晴らしい５つの理由」について
上毛新聞社	上毛新聞	2017.11.2	まゆだまネットフェスタについて
東京新聞社	東京新聞	2017.11.3	県立盲学校での授業について
上毛新聞社	上毛新聞	2017.11.5	企画展２万人セレモニーについて
上毛新聞社	上毛新聞	2017.11.14	スペシャリストの現場について
上毛新聞社	上毛新聞	2017.11.17	県立盲学校での授業について
上毛新聞社	上毛新聞	2017.12.4	水辺の外来植物について
東京新聞社	東京新聞	2018.1.20	アキシマクジラについて
朝日新聞社	朝日新聞	2018.1.25	アキシマクジラについて
毎日新聞社	毎日新聞	2018.1.28	自然史博物館について
上毛新聞社	上毛新聞	2018.3.5	ニホンカワウソについて
朝日新聞社	朝日新聞	2018.3.28	企画展について

(4)　書籍・雑誌記事の執筆、監修

自然史科学の普及ならびに当館の広報を目的として、「群馬県立自然史博物館」名義で、本年度は以下の書籍の執筆、監修を実施した。

書籍・執筆

・「かなことめぐる 自然散歩・かなこと、ちょっと、裏山へ」
群馬県立自然史博物館編著
編集・執筆：姉崎智子、大森威宏、高橋克之、田野芳久、前田信二、三保尚志
イラスト：松本恵利那
出版社：メイツ出版株式会社
ページ数：128 ページ
発行日：2017 年 6 月 15 日

書籍・監修

「生物ミステリーPRO 生命史図譜」
著　者: 土屋　健
出版社: 技術評論社
ページ数: 216 ページ

発行日: 2017 年 7 月 22 日

雑誌

・2017 年度は無し。

7　ボランティア等支援活動

(1)　ボランティア活動

① ボランティア登録状況

活動者	休止者	合計	新規登録者	辞退者
74 名	5 名	79 名	4 名	3 名（連絡なしも含む）

② ボランティア活動状況　（登録人数は重複あり）

分　　野	登録人数	延活動回数
解　説	23名	204
資料整理	31名	315
発　送	18名	23
サイエンス・サタデー	23名	205
天文天体	1 名	2
合　　計	96名	749

③ ボランティア基礎学習会

ボランティアの基礎知識向上と生涯教育の一環、ボランティアと職員との交流をねらいとして基礎学習会を行った。

テーマ	講　師	日　時	参加者
第 54 回企画展「アマゾンはいま」について	学芸係 高橋　克之	平成 29 年 8 月 5 日(土) (解説ボランティア定例会も兼ねる)	13 名
講話 「沖縄県湊川人遺跡のイノシシの問題点について」	名誉館長 長谷川善和	平成 30 年 3 月 4 日(日)	17 名

④ 解説ボランティア定例会

解説ボランティア同士の情報交換と解説スキル向上のため、2 ヶ月に 1 度、定例会を行った。

日　時	内　容	参加者
平成 29 年 4 月 23 日(日)	情報交換	6 名
平成 29 年 6 月 10 日(土)	常設展 A コーナー解説の情報提供 情報提供者：内藤照夫、野口次郎	8 名
平成 29 年 8 月 5 日(土) （基礎学習会を兼ねる）	第 55 回企画展「アマゾンはいま」について 情報提供者：学芸係　高橋克之	13 名
平成 29 年 10 月 21 日(土)	活断層についての情報提供 情報提供者：須藤修司	7 名
平成 29 年 12 月 2 日(土)	情報交換	5 名
平成 30 年 2 月 17 日(土)	情報交換	9 名

⑤ サタデーボランティア新規メニュー検討会

新規のメニューの説明内容・作成方法等を習得するとともに、改善点を話し合った。

テーマ	講　師	日　時	参加者
・においのするカラフルスライムをつくろう	教育普及係 静野　聡	平成 29 年 8 月 5 日(土)	8 名
・河原の石をよく見て、さわって、遊ぼう	学芸係 茂木　誠	平成 29 年 8 月 5 日(土)	8 名

⑥　資料整理ボランティア情報交換会

様々な区分で活動しているボランティア同士の情報交換を行った。

日　時	内　容	参加者
平成 28 年 6 月 24 日(土)	情報交換	15 名

⑦　天文天体ボランティア

天体観望会の運営を行った。

日　時	内　容	参加者
平成 30 年 2 月 18 日(日)	冬の夜空に見られる星の観察	24 名

⑧　ボランティア全体会

ボランティア全体会を 1 回実施した。内容は、館職員といっしょに、一年間の活動の反省と課題について意見交換を行った。

日　　時	平成 30 年 3 月 4 日(日)10:00～12:00
参加人数	ボランティア 26 名、 館職員 4 名
場　　所	大会議室

⑨　観音山ファミリーパーク 2017 県民参加フェスタ

県内のいろいろな団体が集まるイベント「県民参加フェスタ」へ当館ボランティアも参加した。アンモナイト化石のレプリカづくりを実施した。

日　　時	平成 29 年 5 月 20 日(土)10:00～15:00
参加人数	ボランティア 3 名、 館職員 1 名
場　　所	観音山ファミリーパーク
イベント体験者数	105 名

⑩　富岡市ボランティアフェスティバル

富岡市に在籍するボランティアの団体が一同に集まり交流を深めた。当館からも、剥製や化石 14 点を展示し解説した。また、アンモナイト化石のレプリカづくりを行った。

日　　時	平成 29 年 10 月 23 日(日)10:00～15:00
参加人数	ボランティア 4 名、 館職員 1 名
場　　所	富岡市生涯学習センター
イベント体験者数	86 名

(2)　友の会

①　平成 29 年度会員数　367 名

〈内 訳〉

個人会員	63 名
家族会員	74 家族
賛助会員	団体 7・個人 3

②　総会・講演会

日　　時	2017 年 5 月 7 日(日)
参加人数	21 名
講　　師	名誉館長　長谷川善和
演　　題	港川人の話、フンボルトの話

③　友の会博物館等視察研修会

日　　時	2017 年 11 月 26 日(日)　　7:00～18:20
場　　所	筑波宇宙センター、地質標本館
参加人数	46 名

④ フィールド活動・体験活動

タイトル	火山が生んだ小さな宝石たち	植物観察とアサギマダラのマーキング	炭焼き体験～飾り炭を作ろう～
講　師	菅原久誠（学芸係）	友の会運営委員・群馬ナチュラリスト自然保護協議会	櫻井　昭寛 （友の会運営委員）
日　時	5 月 27 日(土) 10:00～12:00	8 月 6 日(日) 7:30～17:00	12 月 17 日（日） 10:00～12:00
参加者	24 名	24 名	27 名

⑤ 友の会通信

	第 37 号	第 38 号
発　行　日	8 月 22 日(火)	2 月 1 日(木)
編集委員会	7 月 15 日(土)	12 月 17 日(日)
場　　所	中会議室	妙義青少年自然の家
発行部数	1500 部	1500 部

Ⅲ 資料

1 職員の委員会等委員就任状況

職・氏名	名　　称	依頼先	自治体等	学会等	博物館等	期　間
名誉館長 長谷川善和	埼玉県立自然の博物館 資料評価委員会委員	埼玉県立自然の博物館			○	
	日本蛇族学術研究所 理事	日本蛇族学術研究所		○		
	長野県飯田市美術博物館 顧問	飯田市			○	
	日本洞窟学研究所 理事	岩手県岩泉町		○		
館長 藤巻 敦	群馬県ツキノワグマ適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
	群馬県ニホンカモシカ適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
	群馬県ニホンザル適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
	群馬県ニホンイノシシ適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
	群馬県ニホンジカ適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
	群馬県カワウ適正管理検討会	群馬県農政部	○			H28.4.1～
主幹 大森威宏	前橋市自然環境保全推進委員	前橋市生活環境部	○			H17.4.1～
	前橋市文化財審議会調査委員	前橋市教育委員会	○			H27.4.1～
	川場村誌編纂委員	川場村	○			H26.4.1～
	群馬県環境審議会委員	群馬県環境森林部	○			H21.3.25～
	群馬県尾瀬保護専門委員	群馬県知事	○			H23.4.1～
	環境省第 5 次レッドデータブック 植物Ⅰ 群馬県主任調査員	日本植物分類学会		○		H29.1～
	すげの会幹事	すげの会		○		H20.5.7～
	東北植物研究編集委員	東北植物研究会		○		H25.12～
	第 4 次尾瀬総合学術調査実行役員	同学術調査団	○			28.12～
	国土交通省河川環境アドバイザー	国土交通省高崎河川国道事務所	○			H29.4.1～
主幹(学芸員) 髙桒祐司	群馬県自然環境研究調査会 会員／編集委員	群馬県環境森林部	○			H26.11.8～
	ジオパーク下仁田協議会・委員	下仁田町	○			H22.3.2～
	ジオパーク下仁田協議会・学術部会長	下仁田町	○			H27.4.1～
	自然史学会連合・博物館部会委員	自然史学会連合		○		H22.1.1～
	化石研究会・事務局	化石研究会		○		H24.6.9～
	日本古生物学会・将来計画委員会委員	日本古生物学会		○		H24.2.6～
	日本学生科学賞群馬県審査・審査員	読売新聞社	○			H29.10.12
主幹(学芸員) 木村敏之	「全国的な自然史系標本セーフティネット構築」ワーキンググループ委員	国立科学博物館			○	H23.9.10～
	化石研究会・事務局	化石研究会		○		H24.6.9～
	多摩川中上流域上総層群調査研究 プロジェクト協力研究員	多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会	○			H29.7～
主幹(学芸員) 姉崎智子	第 12 次鳥獣事業計画検討専門部会	群馬県環境森林部	○			H28.8～
	群馬県ツキノワグマ適正管理検討会、専門部会	群馬県農政部	○			H25.4.1～

主幹(学芸員) 姉崎智子	群馬県ニホンカモシカ適正管理検討会、専門部会	群馬県農政部	○			H25.4.1～
	群馬県ニホンザル適正管理検討会、専門部会	群馬県農政部	○			H25.4.1～
	群馬県ニホンイノシシ適正管理検討会、専門部会	群馬県環境森林部	○			H25.4.1～
	群馬県ニホンジカ適正管理検討会、専門部会	群馬県環境森林部	○			H25.4.1～
	環境省鳥獣保護管理調査コーディネーター	環境省自然環境局	○			H22.6.17～
	日本哺乳類学会 種名・標本委員会委員	日本哺乳類学会		○		H23.11～
	日本哺乳類学会 イノシシ部会委員	日本哺乳類学会		○		H25.9.6～
	文化庁全国カモシカ調査指導委員	文化庁	○			H27.4～
	河川課審議委員会	群馬県河川課	○			H28.4～
	藤岡市文化財審議委員	藤岡市教育委員会	○			H28.4～
	前橋市自然環境保全推進委員	前橋市生活環境部	○			H26.4～
	全国鳥類繁殖分布調査委員	日本鳥類学会		○		H28.4～
	全国鳥類繁殖分布調査・統計処理委員	日本鳥類学会		○		H28.4～
主任(学芸員) 菅原久誠	国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会・指導助言	前橋市	○			H25.8.20～
	ジオパーク下仁田協議会 学術部会会員	下仁田町	○			H27.4.1～
	群馬県自然環境調査研究会会員	群馬県環境森林部	○			H27.4.1～

2　職員のアウトリーチ等の状況

（1）講師派遣

名　称	主　催　者	期　日	派遣職員
イネ科植物同定研修会（Ⅰ）講師	桐生自然観察の森	H.29.6.3	大森威宏
イネ科植物同定研修会（Ⅱ）講師	桐生自然観察の森	H.29.10.15	大森威宏
講習会「植生調査法」講師	かんな川水辺の楽校	H.29.6.16	大森威宏
講演会「水辺の外来植物」講師	かんな川水辺の楽校	H.29.11.26	大森威宏
尾瀬ボランティア総会講演「尾瀬の植物について」講師	尾瀬保護財団	H.30.2.10	大森威宏
出前なんでも講座「せきつい動物の進化」講師	富岡ロータリークラブ	H29.4.27	髙桒祐司
出前なんでも講座「せきつい動物の進化」講師	桃瀬児童クラブ	H29.8.25	髙桒祐司
自然講座「いろいろな化石ザメ～４億年の歴史をさぐる～」講師	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H29.10.15	髙桒祐司
化石講演会「多様な化石ザメたち～金生山にもサメがいた！～」講師	大垣市金生山化石館（岐阜県）	H30.2.11	髙桒祐司
講演/見学会　「アキシマクジラ」	昭島市教育委員会	H29.7.27	木村敏之
講演/見学会　「アキシマクジラ」	まちづくり昭島北	H28.6.21	木村敏之
講演/見学会　「アキシマクジラ」	昭島市議会厚生文教委員会	H28.7.31	木村敏之
出前なんでも講座「群馬に海があったころ」講師	東富岡公民館	H29.9.26	木村敏之
博物館リニューアル検討にともなう館内勉強会講師	兵庫県立人と自然の博物館	H29.10.4	木村敏之
自然史博物館職員研修　講師	群馬県立自然史博物館	H29.12.27	木村敏之

昭島市議会議員研修　講師	昭島市	H30.2.1	木村敏之
出前講座「動物と人間の関係史」	かみつけの里	H29.7.16	姉崎智子
「海、つれてきました」磯の生き物	サイエンスアゴラ	H29.11.26	武井郁也 姉崎智子
「海の生き物体験講座」 科学へジャンプイン東京 2017	科学へジャンプイン・東京実行委員会	H29.12.17	武井郁也 月田典寿 姉崎智子
出前なんでも講座「富岡周辺の地質」	富岡ロータリークラブ	H29.4.13	菅原久誠
出前講座「群馬県内の火山」	日和見山の会	H29.5.10	菅原久誠
出前講座「ぐんまから発信するアストロバイオロジー」と「岩神の飛石はどこからきたのか」	岩神小学校 PTA	H29.6.10	菅原久誠
科学へジャンプイン東京 2017 ワークショップ「大きな岩が小さな粒になるまでの旅」	科学へジャンプイン・東京実行委員会	H29.12.17	月田典寿 菅原久誠

（２）論文査読

名　称	主　催　者	期　日	派遣職員
論文査読：Field Biology	群馬野外生物学会	H29.7	大森威宏
論文査読：東北植物研究	東北植物研究会	H30.1	大森威宏
論文査読: 大阪市立自然史博物館研究報告	大阪市立自然史博物館	H29.10	髙桒祐司
論文査読: Paleontological Research	日本古生物学会	H29.8	髙桒祐司
論文査読: Paleontological Research	日本古生物学会	H29.11	髙桒祐司
論文査読: Paleontological Research	日本古生物学会	H30.3	髙桒祐司
論文査読: Paleontological Research	日本古生物学会	H.29.9	木村敏之
論文査読: Paleontological Research	日本古生物学会	H.30.2	木村敏之
論文査読：PeerJ	PeerJ Sciences Publications	H30.3	木村敏之
論文査読：Post-proceedings o f 2nd International Conference of TREPSEA 2016, Manuscript 12034	TREPSEA	H.29.2.17	菅原久誠
論文査読：Post-proceedings o f 2nd International Conference of TREPSEA 2016, Manuscript 22009	TREPSEA	H.29.2.17	菅原久誠
論文査読：Post-proceedings o f 2nd International Conference of TREPSEA 2016, Manuscript 22013	TREPSEA	H.29.2.17	菅原久誠

（３）その他

名　称	主　催　者	期　日	派遣職員
「メガ恐竜博 2017」恐竜解体指導	読売新聞社ほか	H29.7.17-23	髙桒祐司
化石発掘指導	瑞浪市化石博物館	H29.4	木村敏之
化石調査指導	瑞浪市化石博物館	H29.8	木村敏之
国指定特別天然記念物浅間山熔岩樹型視察	嬬恋村役場	H29.9.7-8	菅原久誠
骨格復元画監修	瑞浪市化石博物館	H30.3	木村敏之

３　職員の論文発表等

(1)　自然史科学的調査研究論文等

職・氏名	論　　題	発　表　誌	査読	発表年
名誉館長 長谷川善和	沖縄県港川人遺跡の哺乳類とくに大型イノシシの形態変化について （長谷川善和・姉崎智子・大山盛弘・松岡廣繁・知念幸子）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22): 23-49.	○	2018
	Birds around the Minatogawa Man: the Late Pleistocene avian fossil assemblage of the Minatogawa Fissure, southern part of Okinawa Island, Central Ryukyu Islands, Japan (Hiroshige Matsuoka and Yoshikazu Hasegawa)	Bulletin of the Gunma Museum of Natural History, (22): 1-21.	○	2018
	沖縄島の更新世港川人遺跡から発見された淡水生および陸生カメ類化石（高橋亮雄・池田忠広・真鍋真・長谷川善和）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22): 51-58.	○	2018
	福島県広野町の双葉層群足沢層（上部白亜系，コニアシアン）から産出した軟骨魚類化石（髙桒祐司・長谷川善和・渡辺昇・根本修行）	群馬県立自然史博物館研究報告 (22): 59-66.	○	2018
	A new species of the genus *Eschrichtius* (Cetacea: Mysticeti) from the Early Pleistocene of Japan (Toshiyuki Kimura, Yoshikazu Hasegawa, and Naoki Kohno)	Paleontological Research, 22: 1-19.	○	2018
主幹　大森威宏	尾瀬ヶ原におけるオゼコウホネ *Nuphar pumilum* (Timm) DC var. *ozeensis* (Miki) H.Hara（広義）の保全生物学的研究 5 オゼコウホネとヒツジグサの浮葉密度.（大森威宏）	尾瀬の自然保護－群馬県特殊植物等保全事業調査報告書－, (40):31-33.		2018
	尾瀬の植物分類学研究－尾瀬のキンポウゲ科トリカブト属 4 倍体種とキク科コウモリソウ属ヨブスマソウ類に関する形態的観察（予報）－.（大森威宏）	尾瀬の自然保護－群馬県特殊植物等保全事業調査報告書－, (40):35-41.		2018
	尾瀬ヶ原山ノ鼻及び背中アブリ田代におけるシカ攪乱地の植生の変化 5—背中アブリ田代におけるハクサンスゲの定着過程—.（大森威宏）	尾瀬の自然保護－群馬県特殊植物等保全事業調査報告書－, (40):1-5.		2018
	尾瀬の植生と植物相 24 —南下田代および八木沢湿原の植生—.（鈴木伸一・片野光一・吉井広始・大森威宏）	尾瀬の自然保護－群馬県特殊植物等保全事業調査報告書-, (40):17-30.		2018
	２倍体トリカブト亜属（キンポウゲ科）植物の分子生物学的分析.　（中屋敷徳、出羽厚二、沢和浩、根本秀一、大森威宏）	DNA 多型 25: 18-21、2017.	○	2017

主幹（学芸員） 髙桒祐司	瑞浪北中学校敷地造成工事現場の下部中新統瑞浪層群明世層から産出した板鰓類化石（髙桒祐司・安藤佑介）	瑞浪市化石博物館研究報告, (44): 39-42.	○	2017
	福島県広野町の双葉層群足沢層（上部白亜系，コニアシアン）から産出した軟骨魚類化石（髙桒祐司・長谷川善和・渡辺昇・根本修行）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22): 59-66.	○	2018
	北西太平洋域のチューロニアンからキクザメ属（軟骨魚綱，キクザメ目）の初記録（髙桒祐司・唐沢與希・石井明夫）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22): 67-71.	○	2018
	板鼻層の凝灰岩 その２（小林二三雄・飯島静男・金子稔・髙桒祐司・矢島博）	良好な自然環境を有する地域学術調査報告書，(43):31-46.		2017
	跡倉層（白亜系）の大型化石に関する新知見（髙桒祐司・上村英雄・石井明夫）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書（電子出版）, (7): 3-10.		2018
主幹（学芸員） 木村敏之	A New Species of the Genus *Eschrichtius* (Cetacea: Mysticeti) from the EarlyPleistocene of Japan (Toshiyuki Kimura, Yoshikazu Hasegawa, and Naoki Kohno)	Paleontological Research, 22:1-19.	○	2018
	千葉県銚子市長崎鼻よりネズミイルカ類耳周骨化石の産出（木村敏之・石原克彦）	群馬県立自然史博物館研究報告	○	2018
	瑞浪北中学校敷地造成工事現場の下部中新統瑞浪層群明世層よりヒゲクジラ類化石２ 標本の産出（木村敏之・安藤佑介・安藤瑚奈美・楓　達也・服部創紀・村宮悠介）	瑞浪市化石博物館研究報告, (44):43-51.	○	2018
	島根県出雲市多伎町の海岸より産出したヒゲクジラ類化石（安藤誠也・遠藤大介・木村敏之）	**島根県立三瓶自然館研究報告**		2018
主幹（学芸員） 姉崎智子	沖縄県港川人遺跡の哺乳類とくに大型イノシシの形態変化について （長谷川善和・姉崎智子・大山盛弘・松岡廣繁・知念幸子）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22): 23-49.	○	2018
	The morphological characteristics and genetic background of *Sus* samples excavated form Satsuma-Kagoshima-Han mansion in Edo (Tokyo), Japan. (Anezaki, T., Watanabe, T., Yamane, Y., Ishiguro, N.)	Zooarchaeology, 35:1-11.	○	2018
	ぐんまの川と生活：吾妻川流域の動物相と生活（姉崎智子）	ぐんま地域文化,49; 24-25.		2017
	林業被害防止のために設置した裕次装置がツキノワグマやそのほかの動物に与える影響（姉崎智子）	Bears Japan, 18-2: 15-16.		2017

主任（学芸員） 菅原久誠	荒山・鍋割山県自然環境保全地域（2 年目）（菅原久誠・矢島博）	良好な自然環境を有する地域学術調査報告書，(43): 5-8.		2017
	The potential of Gorontalo province as a Global Geopark (Kurniawan, I.A., Sugawara, H., Sakakibara, M., Indriati, Y.A., Eraku, S.S.)	Proceeding of TREPSI, in printing	○	2018

(2) 博物館学的調査研究論文等

職・氏名	論　　題	発　表　誌	査読	発表年
補佐　武井郁也 主幹　姉崎智子	海洋教育：体験型アウトリーチ補助教材－磯の生き物プロトタイプトランクキット－開発と課題について（姉崎智子、荒舘真理、武井郁也）	群馬県立自然史博物館研究報告, (22):43-48.	○	2018

(3) 学会等発表

職・氏名	発　表　題	学 会 名 等	分野	発表年
名誉館長 長谷川　善和	**福島県いわき市の双葉層群足沢層から産出したポリコチルス科首長竜の烏口骨化石とその古生物地理学的意義（加藤太一・橋本一雄・松本武雄・鈴木千里・長谷川善和・菜花智・国府田良樹・安藤寿男）**	日本古生物学会 2017 年年会（於　北九州市立自然史・歴史博物館）	古脊椎動物	2017. 6.9-11
	広島県庄原市の備北層群より広義のケトテリウム類化石の産出（木村敏之・長谷川善和・山岡隆信・大澤　仁）	日本古生物学会 2017 年年会（於　北九州市立自然史・歴史博物館）	古脊椎動物	2017. 6.9-11
	中-後期更新世の海洋環境変動に伴う海鳥群集の応答：青森県尻屋地域の例（渡辺順也・松岡廣繁・長谷川善和）	日本古生物学会第 167 回例会（於　愛媛大学）	古脊椎動物	2018.2.2-4
	山口県の上部三畳系美祢層群桃ノ木層から産出したディキノドン類化石（陣内香苗・楠橋直・劉俊・高橋文雄・篠田健二・長谷川善和）	日本古生物学会第 167 回例会（於　愛媛大学）	古脊椎動物	2018.2.2-4
主幹　高橋克之		ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於: 群馬県立自然史博物館）		2018.1.13
主幹　大森威宏	第 4 次尾瀬総合学術調査における植物インベントリー調査（大森威宏）	雪氷の生態学(11) 温暖化による高地湿原生態系変遷の将来予測（於: 北海道大学低温科学研究所）	維管束植物	2018. 1.19
	群馬県におけるトリカブト属植物の分布と現状　（大森威宏）	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017　（於: 群馬県立自然史博物館）	維管束植物	2018.1.13
	尾瀬ヶ原及び周辺域の植物相・動物相目録の作成　（大森威宏）	第 4 次尾瀬総合学術調査団平成 29 年度調査報告会	総合	2018.1.10

主幹（学芸員） 髙桒祐司	日本における軟骨魚類化石の研究－現状と展望－	日本古生物学会 2017 年年会シンポジウム（於　北九州市立自然史・歴史博物館）	古生物 脊椎動物	2017. 6.9-11
主幹（学芸員） 木村敏之	ヨーロッパの自然史系博物館における展示及び施設リニューアルについて (木村敏之)	平成 29 年度全国科学博物館協議会総会（於　国立科学博物館）	博物館学	2017.7.13
	広島県庄原市の備北層群より広義のケトテリウム類化石の産出（木村敏之・長谷川善和・山岡隆信・大澤 仁）	日本古生物学会 2017 年年会（於　北九州市立自然史・歴史博物館）	古生物 脊椎動物	2017. 6.9-11
	群馬県上野村における小型哺乳類生息調査	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）	陸生哺乳類	2018..1
主幹（学芸員） 姉崎智子	群馬県ツキノワグマのマイクロサテライト遺伝子座を用いた集団構造解明へ (和久大介、佐々木剛、谷本真樹、米澤隆弘、姉崎智子)	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）	陸生哺乳類	2018.1.13
	みかぼ森林公園におけるカメラトラップ調査（姉崎智子）	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）	陸生哺乳類	2018.1.13
	The collaborative approach to the special exhibition at Gunma Museum of Natural History in purpose of raising awareness and understanding of biodiversity (Anezaki, T.)	世界科学館サミット 2017 （於:日本科学未来館）	陸生哺乳類	2017.11.17
主幹　茂木　誠	みなかみ町での陸産貝類調査	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）	無脊椎動物（昆虫を除く）	2018.1.13
主任（学芸員） 菅原久誠	下仁田町西牧鉱山に関する学際的研究（菅原久誠・本多優二・鉱山研究会）	ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於:群馬県立自然史博物館）	鉱物・学際	2018.1.13
	世界遺産富岡製糸場の礎石の岩種および分布（菅原久誠）	文化地質研究会第 1 回総会・研究発表会 （於：大谷大学）	岩石・学際	2017.1.12
主任　伊藤智史		ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）		2018.1.13
		ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会 2017 （於：群馬県立自然史博物館）		2018.1.13

(4)　著書・訳書・監修

職・氏名	書　　籍　　題	発 行 所	発表年
主幹姉崎智子	かなことめぐる自然散歩	メイツ出版株式会社	2017.6.15

(5) その他（自然史に関する解説や意見のマスコミ等への発表・表彰など）

職・氏　名	論　　題	発表誌／発行所	発表年	備考
主幹　大森威宏	尾瀬総合学術調査キックオフイベント取材・コメント	NHK ほっと群馬 640、福島民報、共同通信	2017.6.6	
	尾瀬総合学術調査発表会取材・コメント	NHK イブニングネットワーク首都圏、読売新聞（群馬版）、朝日新聞（群馬版）、上毛新聞、福島民報	2018.1.11	
	雲場池底泥種子回収・撒きだし取材・コメント	信濃毎日新聞（東信版）、軽井沢新聞	2017.12.12	
	同上	信越放送　SBC ニュースワイド	2017.12.11	
	伊勢崎署管内外来生物法違反事件に係る鑑定嘱託	伊勢崎警察署	2017.9.1	
主幹（学芸員） 髙桒祐司	最近発行された書籍の紹介	化石研ニュース 131 号	2018.3.23	
	「学芸員の仕事とは？ 知を守り、伝える存在」	上毛新聞オピニオン 21	2017.5.10	
	「梅雨時の博物館休館 標本継承へ大切な燻蒸」	上毛新聞オピニオン 21	2017.6.30	
	「出張する『標本』たち 研究意欲高める効果も」	上毛新聞オピニオン 21	2017.8.11	
	「展示と研究、資料収集 博物館はあゆみ続ける」	上毛新聞オピニオン 21	2017.10.3	
主幹（学芸員） 木村敏之	「アキシマクジラ」	都政新報 2018 年 1 月 9 日朝刊/都政新報社	2018.1.9	
主幹（学芸員） 姉崎智子	H28 年度ツキノワグマ分析結果	群馬県特定鳥獣適正管理検討委員会・クマ	2017.11	
	H27 年度カモシカ検体分析結果	群馬県特定鳥獣適正管理検討委員会・カモシカ	2017.10	
	H28 年度生物多様性モニタリング調査・哺乳類	群馬県自然環境調査研究会	2018.3	
	H28 年度特定外来生物調査結果	群馬県自然環境課	2018.3	
主任（学芸員） 菅原久誠	「世界に誇れる下仁田町のお宝」	広報しもにた（2017 年 8 月号）	2017.8	共著

４　職員の視察・研修会等への参加

氏　　名	事　項	行き先	概　　要	年月日	備考
主幹（学芸員） 木村敏之	研修	米国立スミソニアン自然史博物館	平成29年度学芸員等在外派遣研修	2017.10.10~ 12.10	
	研修	栃木県立博物館	ワークショップ「博物館の展示解説の多言語化～どうやってる？これからどうしよう？～」（主催：自然史レガシー継承・発信事業実行委員会）参加	2018.2.21	
次長　岩井利信	博物館視察	兵庫県立人と自然の博物館	博物館施設（展示室・収蔵庫等）の視察、事業概要聞き取り調査及び体験活動参加	2018 3.24～26	
補佐　武井郁也 主幹　小須田健志	博物館等視察	八ヶ岳自然ふれあいセンター 山梨県立科学館・山梨県立博物館 神奈川県立博物館	・教育普及関連事業視察 ・子育て支援事業視察 ・かいじあむティーチャーズクラブの運営 ・情報コーナーの充実化、活性化	2017.11.8,9	
主幹　茂木　誠	シンポジウム参加	東京都美術館	カワウソ国際シンポジウム	2017.3. 19	
	博物館等視察	富山市科学博物館	企画展関連事業や展示物等の調査	2017. 3.23	

５　職員研修

館職員を対象に「職業人のための研修」を次の日程・内容で実施した。

①　平成２９年　６月１４日（水）　　１３：３０～１６：３０

場所：富岡市体育館会議室

講師：久林　純子（言葉と声の専門家）

内容：心のこもったコミュニケーションと接遇

②　平成２９年１２月２７日（水）　　１３：３０～１６：３０

場所：群馬県立自然史博物館会議室

研修１講師：県民センター　情報公開係　主事　宇野文人

内容：「情報公開・個人情報保護・マイナンバー制度について」

研修２講師：主幹　木村敏之

内容：「学芸員等在外派遣研修報告」

６　視察受入

受 入 日	団　　体　　名	人　数
4 月 14 日	板橋区教育委員会①	16
4 月 14 日	板橋区教育委員会②	37
4 月 20 日	練馬区教育委員会	20
4 月 20 日	東久留米市教育委員会	20
4 月 21 日	中野区教育委員会	30
4 月 22 日	瑞穂町教育委員会	10
5 月 9 日	西東京市教育委員会	23
5 月 12 日	武蔵村山市教育委員会	18
5 月 24 日	文京区教育委員会	21
7 月 26 日	板橋区教育委員会	35
8 月 23 日	千代田区教育委員会	13
合　　計　　人　　数		243

7　教育普及事業利用者数実績一覧

事　業　名	項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
企画展記念講演・関連行事等	開催回数(回)	1	1	0	2	1	1	2	3	0	0	0	1	12
	参加者数(人)	56	49	0	302	96	350	121	31	0	0	0	27	1032
ファミリー自然観察会	開催回数(回)	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	5
	参加者数(人)	28	0	21	35	0	0	0	17	14	0	0	0	115
天体観望会	開催回数(回)	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	6
	参加者数(人)	25	47	0	0	24	0	63	0	0	0	24	0	183
自然史講座	開催回数(回)	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
	参加者数(人)	46	0	0	61	0	0	36	0	0	56	0	0	199
移動博物館	開催回数(回)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	参加者数(人)	0	0	0	3630	0	0	0	0	0	0	0	594	4224
ミュージアムスクール	開催回数(回)	0	2	1	1	1	0	1	2	2	1	0	0	11
	参加者数(人)	0	11	7	6	5	0	7	10	13	7	0	0	66
サイエンス・サタデー	開催回数(回)	5	4	2	5	4	5	4	4	2	4	4	5	48
	参加者数(人)	210	97	131	200	229	212	206	109	88	76	207	280	2045
館内授業	開催回数(回)	0	10	9	6	0	10	21	5	1	0	0	1	63
	参加者数(人)	0	537	313	205	0	388	918	180	9	0	0	40	2590
定時解説	開催回数(回)	75	61	13	62	94	55	50	64	19	29	36	48	606
	参加者数(人)	215	140	42	252	499	265	220	190	78	108	95	154	2258
随時解説	開催回数(回)	746	1651	864	2192	3432	1201	1803	1073	285	613	757	1005	15622
	参加者数(人)	1701	4137	2156	5337	8453	2894	4804	2544	715	1464	1882	2541	38628
紙芝居	開催回数(回)	5	4	3	5	4	5	4	4	2	4	4	5	49
	参加者数(人)	55	89	63	86	90	99	84	125	43	43	82	90	949
一般向けスポット	開催回数(回)	6	3	3	9	2	6	11	11	5	6	0	5	67
	参加者数(人)	30	13	11	63	5	35	72	67	24	18	0	19	357
博物館探検隊	開催回数(回)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	参加者数(人)	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	29
ビデオ上映会	開催回数(回)	13	19	7	25	31	13	13	16	6	19	14	13	189
	参加者数(人)	94	426	76	861	1582	297	108	150	30	329	217	188	4358
ミュージアムナイトツアー	開催回数(回)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	参加者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	36	0	83
バックヤードツアー	開催回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	参加者数(人)	8	11	11	11	11	11	12	11	10	12	12	10	130
高校生学芸員	開催回数(回)	1	2	1	5	4	3	2	5	5	5	8	6	47
	参加者数(人)	6	7	1	6	5	3	2	6	6	5	9	7	63
出前授業	開催回数(回)	0	0	2	2	4	2	6	3	4	4	2	1	30
	参加者数(人)	0	0	45	43	187	44	122	92	156	255	63	6	1013
教員のための博物館の日	開催回数(回)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	参加者数(人)	0	0	0	0	73	0	0	0	0	0	0	0	73
博物館の日	開催回数(回)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	参加者数(人)	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191
職場体験学習	開催回数(回)	0	4	0	0	3	6	7	3	0	0	0	0	23
	参加者数(人)	0	8	0	0	10	25	16	3	0	0	0	0	62
大人の自然史倶楽部	開催回数(回)	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	9
	参加者数(人)		0	18	0	0	0	0	16	0	0	0	12	46
その他	開催回数(回)		2	0	2	1	0	3	1	1	0	0	0	10
	参加者数(人)		105	0	110	701	0	164	45	7	0	0	0	1132
合　計	開催回数(回)	856	1766	910	2322	3584	1308	1931	1199	334	688	828	1096	16822
	参加者数(人)	2474	5868	2895	11237	11970	4623	6955	3596	1193	2420	2627	3968	59826

８　来館者アンケート集計結果

実施日：8/1,2,12　10/21　11/12　1/20
回答数：248 名（男 108 名　女 128 名　不明 12 名）

来館者データ

住　所		
県　内		49%
県　外	埼玉県	14%
	東京都	16%
	神奈川県	8%
	長野県	2%
	栃木県	3%
	千葉県	2%
	その他	6%

誰と来たか	
一人で	3%
友達と	8%
家族で	69%
学校で	1%
その他	19%

どんな目的で	
常設展	34%
企画展	32%
悪天候	8%
何となく	9%
その他	17%

博物館について

何で知ったか			
新聞記事	6%	インターネット	31%
新聞広告	1%	ポスター・チラシ	18%
テレビ	5%	口コミ	11%
ラジオ	0%	特になし	8%
観光情報誌	13%	その他	7%

来館数	
初めて	40%
2～4回	42%
5回以上	17%
不明	1%

当館の展示		館の施設		職員の対応	
よい	88%	よい	90%	よい	91%
ややよい	9%	ややよい	7%	ややよい	8%
ややよくない	2%	ややよくない	2%	ややよくない	1%
よくない	1%	よくない	1%	よくない	0%

９　来館者学校アンケート集計結果

アンケート提出校数　～　200 校

学校の所在	
県内	78
県外	122
・東京	79
・埼玉	27
・長野	11
・千葉	2
・その他	3

来館した学年					
小１	2.0%	中１	4.0%	特別支援	1.0%
小２	1.5%	中２	1.5%	不明	11.0%
小３	3.0%	中３	0.0%	小？	27.0%
小４	10.0%	高１	1.5%	中？	5.0%
小５	31.5%	高２	0.0%	高？	2.0%
小６	9.0%	高３	0.0%		

見学時間	
1時間未満	6%
1時間～1時間30分未満	20%
1時間30分～2時間未満	24%
2時間～2時間30分未満	18%
2時間30分～3時間未満	13%
3時間～3時間30分未満	8%
3時間30分～	4%
不明	7%

学校としての来館数	
初めて	14%
来館したことがある	86%
不明	0%
「初めて来館」した人の情報源	
前の学校で来館	26%
ほかの先生から聞いた	20%
個人的に来館	5%
ホームページ	10%
旅行会社から聞いた	12%
当館のチラシ	7%
その他	20%

来館の観点	
展示の内容（学習効果等）	48%
コースの設定（学校からの距離、旅行目的地の途上にある等）	38%
上記の両方	12%
その他	2%

来館の観点			
他にも目的場所がある	166	当館のみである	23
「他にも目的場所がある」学校の目的場所			
富岡製糸場　26%	長野方面　23%	榛名方面(榛名山,榛名湖,伊香保グリーン牧場) 12%	
群馬サファリパーク　12%	富士重工業(太田)12%	こんにゃくパーク　4%	
群馬県立歴史博物館　2%	かみつけの里　2%	群馬県庁　2%	嬬恋方面　2%
その他 3%			

今後の当館利用希望			
あり	100%	なし	0%

平成29年度集計

年　月	開館日数	入館者数 入館者計	有料入館者数 有料計	個人計	一　般	大･高	小　中	友の会 一般	友の会 高大	団体計	一　般	大･高	小　中	無料入館者数 無料計	個人計	幼　児	小　中	65歳	身障者	その他	招待券	団体計	学　校	社会教育	特別券
H8年度	132	120,712	72,274	67,465	50,455	1,626	15,384			4,809	3,692	760	357	48,438	39,840		3,931	11,864	1,232	22,813		8,598	6,478	2,120	0
H9年度	301	207,688	120,399	108,699	76,721	2,828	29,150			11,700	6,449	2,200	3,051	86,119	59,045		4,316	14,454	4,092	36,183		27,074	22,806	4,268	1,170
H10年度	304	165,071	87,078	75,535	53,940	1,891	19,704			11,543	4,872	2,112	4,559	77,993	55,216		3,380	12,856	3,445	35,535		22,777	20,533	2,244	0
H11年度	303	150,211	76,710	65,686	45,978	1,715	17,993			11,024	3,459	3,001	4,564	73,501	54,248		3,209	11,391	2,737	36,911		19,253	18,059	1,194	0
H12年度	301	156,633	51,108	46,126	44,700	1,426				4,982	2,862	2,120		104,028	77,600	23,335	24,971	10,280	1,935	13,038	4,041	26,428	25,831	597	1,497
H13年度	303	159,416	56,190	50,893	49,392	1,501				5,297	3,389	1,908		102,897	78,551	24,738	27,022	5,569	866	16,533	3,823	24,346	24,346		329
H14年度計	301	166,989	63,759	58,504	56,701	1,632		171	0	5,255	3,209	2,046		103,034	77,599	26,014	32,025		1,314	14,647	3,599	25,435	25,435		196
H15年度計	298	171,697	61,013	55,518	53,806	1,493		219	0	5,495	4,428	1,067		110,405	81,682	27,054	33,487		1,446	15,765	3,930	28,723	28,723		279
H16年度計	292	160,456	57,588	52,009	50,340	1,468		201	0	5,579	4,333	1,246		102,581	76,587	26,392	30,807		1,613	13,820	3,955	25,994	25,994		287
H17年度計	292	153,613	56,936	51,960	50,165	1,630		165	0	4,976	3,589	1,387		96,506	71,646	24,784	28,155		1,714	12,656	4,337	24,860	24,860		171
H18年度計	293	166,629	62,612	56,048	54,364	1,531		153	0	6,564	4,852	1,712		103,843	74,550	29,129	29,692		1,671	11,038	3,020	29,293	29,293		174
H19年度計	292	161,626	60,907	54,693	52,893	1,630		170	0	6,214	5,561	653		100,590	72,899	28,633	27,860		1,798	11,470	3,138	27,691	27,691		129
H20年度計	291	146,170	52,475	47,588	45,761	1,610		212	5	4,887	4,572	315		93,578	64,706	24,564	25,162		1,693	10,501	2,786	28,872	28,872		117
H21年度計	290	162,760	62,780	58,346	55,752	2,295		297	2	4,434	3,413	1,021		99,858	71,946	25,663	30,545		1,749	10,544	3,445	27,912	27,912		122
H22年度計	288	148,697	57,050	51,172	48,807	2,043		320	2	5,878	4,685	1,193		91,499	64,193	22,853	25,993		1,867	10,654	2,826	27,306	27,306		148
H23年度計	291	177,698	68,720	61,269	58,508	2,483		275	3	7,451	6,183	1,268		108,815	81,997	28,783	33,614		2,765	11,497	5,338	26,818	26,818		163
H24年度計	290	182,038	73,849	67,598	64,107	3,059		431	1	6,251	4,676	1,575		107,984	80,489	27,846	33,372		2,733	11,621	4,917	27,495	27,495		205
H25年度計	288	166,533	65,505	60,853	57,910	2,632		307	4	4,652	3,148	1,504		100,873	74,294	28,497	28,571		2,419	11,074	3,733	26,579	26,579		155
H26年度計	289	167,549	66,363	61,604	58,271	2,921		405	7	4,759	3,033	1,726		101,027	73,742	28,006	27,286		2,730	10,591	5,129	27,285	27,285		159
H27年度計	290	188,680	77,413	71,165	67,290	3,428		434	13	6,248	4,537	1,711		111,060	81,219	33,343	28,636		3,387	11,226	4,627	29,841	29,841		207
H28年度計	289	212,022	89,279	84,464	80,378	3,539		546	1	4,815	3,285	1,530		122,471	96,308	39,895	35,050		3,684	12,826	4,853	26,163	26,163		272
H29年4月	26	12,365	6,657	5,547	5,354	192		1	0	1,110	129	981		5,689	5,499	2,129	2,187		250	609	324	190	190		19
5月	27	22,224	9,108	7,849	7,528	315		6	0	1,259	1,259	0		13,101	8,873	4,268	2,888		250	1,015	452	4,228	4,228		15
6月	19	11,530	3,486	3,244	3,127	103		14	0	242	242	0		8,033	3,553	1,625	1,012		139	751	26	4,480	4,480		11
7月	27	28,026	10,673	10,249	9,965	250		34	0	424	270	154		17,314	11,150	4,714	4,107		533	1,453	343	6,164	6,164		39
8月	31	45,949	22,787	21,442	20,533	863		46	0	1,345	1,088	257		23,122	22,452	8,693	10,695		853	1,310	901	670	670		40
9月	26	15,869	7,099	6,975	6,611	319		45	0	124	124	0		8,741	6,034	2,571	2,171		350	666	276	2,707	2,707		29
10月	26	24,761	6,480	5,616	5,354	212		50	0	864	795	69		18,253	10,222	3,598	1,685		316	4,455	168	8,031	8,031		28
11月	26	12,315	5,522	5,223	4,991	183		47	2	299	215	84		6,773	5,485	2,146	2,072		259	472	536	1,288	1,288		19
12月	9	3,351	1,507	1,409	1,302	84		23	0	98	41	57		1,840	1,721	661	612		69	144	235	119	119		4
H30年1月	23	10,414	5,348	5,347	5,116	180		50	1	1	1	0		5,050	4,853	2,311	1,650		269	359	264	197	197		16
2月	20	8,918	4,391	4,344	4,118	182		44	0	47	46	1		4,511	4,398	2,133	1,449		143	324	349	113	113		15
3月	27	13,414	6,460	6,220	5,675	476		69	0	240	113	127		6,931	6,854	3,448	2,346		298	566	196	77	77		23
H29年度計	287	209,136	89,518	83,465	79,674	3,359		429	3	6,053	4,323	1,730		119,358	91,094	38,297	32,874		3,729	12,124	4,070	28,264	28,264		258
合計	6,305	3,133,773	1,296,471	1,173,427	1,049,974	37,852		3,755	27	123,044	81,695	28,818		1,831,900	1,348,182	406,582	458,986		40,818	318,424	56,958	483,718	473,295		5,400

移動博物館入館者数

	（人）		（人）		（人）		（人）		
10年度	979	15年度	3,868	20年度	1,362	25年度	6,390		
11年度	1,556	16年度	2,421	21年度	2,793	26年度	2,171		
12年度	1,646	17年度	3,416	22年度	2,979	27年度	777		
13年度	1,719	18年度	2,585	23年度	6,121	28年度	2,609		
14年度	3,240	19年度	1,959	24年度	2,004	29年度	4,224	累計	54,819

１１　職員名簿

職　　名		氏　　名	当館における履歴
名誉館長（嘱託）		長谷川　善和	7.4～　8.3 建設準備室参与 8.4～　22.3 館長 22.4～ 名誉館長
館長		藤巻　敦	28.4～
次長（総務係長）		浅野　春仁	28.4～
次長（学芸係長）		岩井　利信	22.4～25.3 教育普及係主幹 27.4～
総務係	主幹	佐藤　泰利	25.4～
	主任	畑　祐栄	13.4.～19.3 28.4～
	主任	茂木正貴	29.4～
教育普及係	補佐 （教育普及係長）	武井郁也	18.4～25.3 教育普及係主幹 29.4～
	主幹	小須田　健志	23.4～
	主幹	静野　聡	6.4～7.3 建設準備室（嘱託） 27.4～
	主幹	月田　典寿	11.4～12.3 資料整理員（嘱託） 27.4～
学芸係	主幹	高橋　克之	12.4～
	主幹	大森　威宏	10.4～
	主幹（学芸員）	髙栗　祐司	5.4～8.3 建設準備室 8.4～
	主幹（学芸員）	木村　敏之	14.4～
	主幹	茂木　誠	6.4～7.3 建設準備室（嘱託） 26.4～
	主幹（学芸員）	姉崎　智子	17.4～
	主任（学芸員）	菅原　久誠	25.4～
	主任	伊藤智史	29.4～

展示解説員 （嘱託）	高橋　弘美　　外所　宏美　　菊地　如子　　佐々木尚子 近藤　愛子　　松本恵利那　　林　　夏希　　齋藤　唯